

583
19



* 0002610000 *

0002610-000

583-19

社会科学叢書

石川三四郎・著

日本評論社

第26編

昭和4

AAE

387

26

社會科學叢書

第二十六編

社會主義運動史

石川三四郎著

日本評論社版



社會科學叢書刊行の趣旨

社會科學の領域に於て著書はあり
翻譯はある。然し特種の題目を捉へ
て研究を公にした企は尠い。我等は
現代學界に於ける各方面の眞摯なる
學徒に囑して、かゝる特種の研究を
繼續的に刊行せんことを着手した。
必ずしも思想の傾向を同じくするも
のたるを要しない。唯各々が夫々獨
自の立場より、學界に寄與せんとす
る眞劍さに於て共通の連鎖につなが
るのみ。幸にして卷を累れて盡くる
を知らざれば、以て我等の微衷は達
せられると云ふべきである。

序

本書は先きに「社會經濟體系」に掲載した「社會主義運動史」に可なり多くの修正と増補とを施したものである。著者は四五年以前「西洋社會運動史」の改訂増補版を世に公けにしたが、それは餘りに大冊であつて、一般の讀書子には却て不便である様に思はれた。そして若し機會あらば、もつと簡單にして要を摘みたるものを作りたいと思つてゐた。遇々日本評論社に社會經濟體系の計劃あり、私に社會主義の運動史を書けよのことなので、私は喜んで其仕事を應諾した。併し、それには頁數に制限があり、且つ主として各國無産政黨成立の時までを記述せよとのことであつた。蓋し他の執筆者達との分擔の都合があつた爲であらう。然るに今度單行本として出版するに當り、紙數の制限が緩められて殆ど二倍にまで擴張するの自由を得たので、百餘年間に於ける社會主義運動の諸相に就いて先づ一通り素描し得た積りである。

私が初めて西洋社會運動史に執筆したのは明治四十年から同四十一年にかけて巢鴨監獄在囚

中のことであつた。それを大正元年に出版して禁止され、大正十年に改訂版を出して關東大震災に遭ひ、更に大正十五年に復興増補版を出したが、其間に於て、私の讀書の範圍が進むに連れて着眼點が變遷してゐる。今度この小冊子を編するに當つても、前の復興版を顧みてまた重點の變化が発見される。例へば本書に於てバベウフ一揆を頗る重要視した點の如きは其一事實である。

歴史に記される事實そのものも、筆者の立場と知識と氣分とに従つて可なりに變化するものであるが、その事實の排列法や取舍法に至つては一層に筆者の心持に支配されるものである。歴史を読むものゝ常に心すべき點は此にある。

一九二九年六月十四日梅雨濛々たる千歳村蘆根臺に於て

石川三四郎識

目次

第一章 社會主義の起原……………一

 ジャン・ジャック・ルソオ——バベウフ一揆の宣言——バベウフ一揆——キリアム・ゴッドキン——フィヒテの社會思想

第二章 ユトピア社會主義……………三

 思想史と運動史——ロバート・オウエン——サン・シモン——シャルル・フウリエー——カベエ

第三章 保守的的反動と自由主義……………三

 英國の形勢——大陸の自由主義——共產黨の名

第四章 社會主義思想の開花……………四三

諸思想の高潮——階級闘争説——財力集中説——共産黨宣言の種本

第五章 歐洲革命……………五七

佛國革命運動——ルイ・ブラン——ブルウドン——英國チャアチストの運動——
獨逸の青年學徒

第六章 國際勞働協會及巴里コムミュン……………八一

國際勞働協會の先驅史——第一インタナショナル——巴里コムミュン——國際勞
働協會の分裂

第七章 無政府主義……………九六

無政府思想——バクニン——クロボトキン——エリゼ・ルクリュ——スチルネル
虛無黨の活動——無政府主義宣言——無政府黨の運動

第八章 社會民主主義……………一〇六

社會民主黨——カアル・マルクス——マルクス主義の修正——總同盟罷工論——
階級闘争の否定——大戦前の状態

第九章 サンヂカリスム……………一四三

シユラ同盟の宣言——無政府主義者の事業——アミアン綱領

第十章 I・W・Wとギルド社會主義……………一五二

I・W・Wの起原——I・W・Wの變遷——ギルド社會主義——消費者の利益

第十一章 大戦と其結果……………一六七

ロシヤのドラマ——十一月革命——獨逸の革命——埃太利革命——佛國社會黨の
分裂——英國の運動——北米合衆國——伊國ファツショ運動

第十二章 ボルシエギスムとフラスシスム……………一七七

ファシスト運動——ボルシェビズム——ソビエチズムとボルシェビズム

参考文献………102

索引

目次終

第一章 社會主義の起原

思想史としての近世社會主義史は、近代思想の開祖と見做すべき Jean Jacques Rousseau や Denis Diderot が代表する自然主義、平等思想を其出發點とすべきである。勿論その思想の流れを遡れば、遙かにギリシヤの古代に源を發すべく、無政府主義の先驅と言はれる Diogene や、共產主義の鼻祖と稱せられる Platon の如き、其一例である。降つて英國農民戦争の中心となつた John Ball は中世の基督教社會主義者と稱せられ、獨乙のアナバプチストの思想は十六世紀に於て、既に無政府思想に基いて革命を起し、同時代の佛蘭西の哲人 Boetie の思想は純然たる無政府主義であつたと言はれる。乍併、近世の社會主義運動は佛蘭西革命の繼續であると言つても差支なきものであつて、社會主義運動の歴史としては、先づ此大革命の思想家から着手すれば充分である。蓋し、此ルソオやデイドロ等の思想に導かれたる佛蘭西大革命が、世

界の思想界、政治界、殊に社會生活上に與へた影響は實に甚大なものであり、そして此佛蘭西大革命は即ち近世社會運動の爲に其道を準備し、近世社會運動は、寧ろ之を佛蘭西革命の延長であると言つた方が妥當なのである。換言すれば、佛蘭西革命は、先きにルソオ等によつて提唱されたる思想を半ば實現したるのみにて中止し、而して近世社會主義運動は其遺されたる事業を繼續したものである。近世社會主義運動の鼻祖 Babeuf 等の一揆は、即ち此意識を以て起されたもので、其宣言中に曰く「革命(佛蘭西大革命を指す)は未だ終つたのではない。富者等獨り總ての幸福を吸収し、貧者は眞の奴隸として勞働し、貧困に疲れて、何の價値をも國家から認められぬてはないか」と。此「平等の宣言」は、近世社會運動史上に於て、彼の マルクス Marx 及び エンゲルス Engels の『共產黨宣言』よりも遙かに重要な地位を占めるのである。(A. Chaboseau, De Babeuf à la Commune. 八頁)

◇ジャン・ジャック・ルソオ 佛國に於て、バベウフが集中的社會主義を準備してゐる時分に英國に於ては、ゴドウィン William Godwin が其著「政治的正義と其公衆道德に及ぼす影響」に就て

の一考察『An Enquiry into Political Justice and its Influence on Public Morality』に於て、自治的社會主義——無政府的社會主義——を説き、英國の思想界に爆彈を投じた。然るに、十九世紀から二十世紀に亘る社會主義運動の二大潮流たる集中的社會主義と自治的社會主義とを代表するバベウフとゴドウィンとが、共にルソオの平等思想を學んだものであることは史家の認める處である。而してルソオの人生觀が却て非社會的であつたにも係はらず、彼が近代思想の大父として、文藝に於てロマンチズムの先驅となり、自然主義を唱道し、非文明的的人生觀、平等的社會觀を懷抱してゐたことは茲に言ふまでもあるまい。彼がディジョン學士院の懸賞課題に應じて當選したる「不平等の起原と基礎」に就ての論述』(Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité)は當時尙ほ無名の一書生であつた彼をして一躍大家の列に入らしめ、大先輩の ヴォルテール Voltaire 等と肩を比べしむるに至つた。同書に現はれた彼の思想は次の如き出發點から始まる。曰く、

「自然状態に於ては、人間は善である。道德も法律も無いのに、さうして惡であり得よう

か？ 規則が無ければ、規則を犯しようがない。彼は主我的である。彼は彼に自己保存を命ずる處の本能に従ふ。彼は動物と同様に無邪氣である。彼は自己の必要を満たす。誰の苦痛をも欲しない。自己の必要以上には何にも取らない。彼は同類に對して同情、憐愍の本能をさへ持つ。そして其本能は他人に安全と満足とを與へる爲に自發的に之を助けるのである。彼は活動を起し、本能を喚ぶ處の快と不快との感覺を持つ。其感覺が反省作用を起し、理性が本能の上に動く時に、腐敗が始まる。自然的な、妥當な、愛すべき自然主義が、不當な、厭やな、利害心に位を譲るのは此時である。鬭争と貧困とは、思考の上での快樂といふ技巧的發明による、そして又、未來の入用といふ對自然的豫想による處の、需要の増加から起つて来る。反省作用や、理性作用や、利害心や、現在のそして必要の限度を越えた個人的欲望の擴張だのは、憐愍の感情を癡痺し、そして自然を損ねた畸形人が社會に依り、社會の中で、出來上り、又増加する。』

「社會の本質的害悪は不平等である。自然にも不平等はある。けれども、其不平等は何人

に對しても欲望を満足することを妨げない。何人に對しても其を満足する爲の勞働を免かれしめない。そして總ての人を、善良に、自由に幸福にして置く。然るに社會的不平等は特權者を造る。そして言ふ、お前は何事をもせずして總てを得るであらう。然るに民衆に對しては曰ふ、苦を忍べ、お前の爲ではなく、彼の人達の爲に。社會的不平等は、壓制者と奴隸と、暴虐者と不幸者とを作る。社會悪の起原、其は社會の拱石たる「財産權」是である。威力とか、尊嚴とか、榮譽とかいふ様なことは、皆悉く富の不平等に、「財産權」に基くものである。されば社會悪とは、即ち富と貧との對立に存す言ふ事が出来る。(Lanson, Histoire de la littérature française. 七八二頁)

是からして、ルソオは文藝論や社會批評に歩を進めて行くのである。此思想からして、ゴッドキンの『政治的正義』や、バベウフ等の「平等の宣言」が産れて來たことは、甚だ當然の結果と言ふべきである。又、右の如き思想は、決してルソオのみが獨有した思想ではなく、デイドロトも、Morely^{モレル}も、之と同様な思想を持つて居たのである。然るに此明白な社會觀、此

明白な社會悪の本質は、大革命に際して何時の間にか關心の外に置かれて了つた。大革命が新たに設定したる萬民平等の原則は、最も本質的な經濟上に於て徹底せず終つた。此残された重要事を成就する爲に、乃ち近世社會運動は起つたのである。是は單に佛國史の事實とすべくてなく、却つて世界史の事實として見るべきである。故に此近世社會主義運動の序幕を演じたるバベウフの一揆の宣言が、マルクス等の共產黨宣言よりも遙かに重要事であるといふ理由は自ら明白であらう。そのみならず、其思想と革命方法は其一同志アウナロッチによつてブランキに傳へられ、後の社會革命運動の模範となつたのである。露國のレニン等の革命方法の如きも亦全然ブランキを學んだものであると言はれるのである。

◇バベウフ一揆の宣言 然らば一七九六年四月九日以來、巴里の到處に貼り出された「バベウフ教義の解説」には如何なる宣言を掲げたか。(歴史に「平等の宣言」として知られてゐるのは、此以前にマレシャルの起草したもので、それは委員の採用する所とならなかつたものである)左にその頂目だけを掲げて置く。

「自然は各人に一切の幸福を享樂すべき平等の權利を與へた。

「社會の目的は、強者、悪者の襲撃に對して、此平等を防護するにある。そして全員の協力を以て、共同の快樂を増加するにある。

「自然は各人に勞働の義務を課した、何人とも之を忌避するは罪たるべし。

「勞働と享樂とは全ての人に共同であるを要する。

「一方に一生を勞働に費して總てを缺く者があり、他方に何にもせず飽滿の中を遊いてゐる者がある時は、そこには壓制が行はれてゐるのである。

「何人も罪を犯すことなしに、土地や工業の幸福を獨占することは出来ない。

「眞實なる社會に於ては、富者も貧者もあつてはならない。

「剩餘は本來土民に渡すべきに、それを敢てせぬ様な富者は人民の敵である。

「總ゆる資材を集積して、其爲に他人をして幸福に必要な教育を缺しめることは出来ない。教育は共通であることを要する。

「革命の目的は、不平等の破壊、全人幸福の復興に存する。

「革命は終つたのではない。富者は總ての幸福を吸収し、且獨り命令するのに、貧者は眞の奴隸として勞働し、貧困に疲れ、國家からは無視されてゐるではないか。

「一七九三年の憲法は眞の佛蘭西人の法律である。人民は之を嚴肅に承認したのである。

コンバンション（一七九三年後一七九五年に至る共和政府）は之を變更する權能を持たない。コンバンションは之を變更する爲に、前の憲法の實施を要求した人民を銃殺せしむるに至つた。憲法防護の義務を行つた代議士を追放したり、絞殺したりした。一七九五年の憲法の發布と條約承認とは、人民に對する威嚇と外來民の勢力に依つて行はれたのである。

此新憲法が得たる投票は、一七九三年の憲法が得たる投票の四分の一にも及ばない。一七九三年の憲法は、總ての人に對して、立法に參與し、參政權を實行し、集會を催し、有用と信すべき要求をなし、教育を受け、饑餓の爲に死なない、さういふ様な權利を確保した。然るに一七九五年の反革命は、公然完全に此權利を蹂躪して了つた。

「全同胞は、一七九三年の憲法に於て、人民の意志と幸福とを回復し防護するの義務がある。

「一七九五年の僞稱憲法に因る總ての權能は、不法にして且つ反革命的である。

「一七九三年の憲法に手を觸けた人々は人民に對する大逆罪人と言ふべきである。

此文章はバベウフ一揆の *Marechal* 及び *Buonarrotti* の共同の筆に成つたものであるが、ブナロッツは單に或る句を削除し、或る句を改修したに過ぎないと言はれる。(A. Chaboseau, *De Babeuf à la Commune*, p.9-10) 此宣言に依つて、バベウフ一揆の思想は能く判明したであらう。そして其れが近世社會主義運動を極めて明白に記述してゐる事は驚くべきである。茲に些かバベウフの事績を紹介して置く。

◇バベウフ一揆 *François Noël Babeuf* は、一七六四年に、エイヌ州サンカンタンに産る。彼の父は埃太利軍の大佐であつた。不幸にして父は彼が十六歳の時に逝去した。バベウフは學問を抛棄して種々下等な仕事に従事したが、後にソム州の一行政官となつた。然るに彼は

間も無く、何かの偽造罪に問はれ、二十年間の禁錮を宣告された。けれども彼は脱走して巴里に行き、革命運動に投じた。彼は *Mably* 其他の時代思想家と等しく、希臘の社會主義制度に滿腔の讚美を拂つた。彼は羅馬保民官 *グラックス* *Gracchus* *バベウフ* *Babeuf* を稱し、又「保民職」(*Tribuns de peuple*) といふ新聞を發刊した程である。「保民職」は社會主義新聞の嚆矢である。彼は此の新聞に *カイヌ* *Gracchus* といふ署名で論文を掲載した。而して其論文の多くは、或は現代文明社會の組織を攻撃したり、或は彼のテルミドルの革命を成就してロベスピエールを刑殺したる一派の徒を攻撃したりした。彼は其爲に數ヶ月間入獄した。(一七九五年) 然るに彼は此好機會(入獄)を利用して、同じ獄中にゐた *ダルセ* *Darthe* や *ブナロッチ* *Buonarrotti* や、其他 *ジャコバン* 黨及び威嚇黨の殆ど二千人の者と相知り相結托するを得た。彼等が放免されるや、乃ち直ちに一揆を組織した。歴史の所謂「*バベウフの一揆*」は是れてである。其目的は執政官制度を廢して共産的理想國を建設するにあつた。彼等は巧妙な複雑な設計を以て團體を組織し、其中心として一揆の祕密局を設けた。而して其祕密局の委員は *バベウフ* *Babeuf*, *ブナロッチ* *Buonarrotti*,

シモン *Sylvain* *マラチ* *Maréchal*, *フェルクス* *Felix* *レペレテ* *Lepelelier*, *アントネ* *Antonnelle*, 及び *ダルセ* *Darthe*, *デボン* *Debon* の七人であつた。彼等の多くは新聞記者であつた。巴里の各區各町では、勞働者と通信員とが傳道鼓吹に任じたが、而も彼等は一揆の領袖たる七委員の名さへも知らず、全體の代表者たる *ディエ* *Ditier* は、委員間及び他の代理者の仲介となつて其連絡をつけるに過ぎなかつた。

領袖等の活動は眼醒しかつた。彼等が與黨を誘導したり、説服したりする手腕は非常に成功した。一七九六年四月に、七千人の同志は執政制度に反對して共産的共和制建設の一揆に赴くべく準備した。小冊子の頒布は夥しい數に達した。然るに領袖中の一人たる *ジョルジュ* *Georges* *グリス* *Grisel* が變節し、告發した爲に、一七九六年五月十日、主なる同志は皆捕縛されて了つた。裁判は非常に延引したが、遂に其翌年に *バベウフ* *Babeuf* と *マルテ* *Marte* とは死刑の宣告を受け、*ブナロッチ* *Buonarrotti* 其他六人は追放の刑に處せられた。被告となつたものは總て六十五人内五十六人は證據不充分の理由で無罪になつた。*バベウフ* *Babeuf* 及び *マルテ* *Marte* は執行を受ける前に自殺を企てたが、尙ほ消えやらぬ命を斷頭臺に懸けられた。時に一七九七年五月二十四日、*バベウフ* *Babeuf* の最後の言葉は「私は尊い眠

りの内に私を包む』であつた。

バベウフの協同者 Pierre-Sylvain Marchal は、一七五〇年八月十五日巴里に生れた。マザリン圖書館の副主事であり、辯護士であり、最初は諧謔の詩や、輕妙な物語を書いて居た。併し既に大成したる博學の士であつた。且、その當時に於ても勇敢な思想家であつた。一人の歴史家も未だ徹底的に彼に就て研究しないのは、不思議な位である。彼は確かに十九世紀に於ける諸人物の先驅者であり、諸事實の豫言者なのである。兎に角、バベウフとマレシャルの生活と文書を研討すると、何れが果して先生で、何れが果して弟子であつたか、判らない程である。

一七八八年彼は「正直な人達の曆」(Almanach des honnêtes Gens) を公けにした爲に四ヶ月の禁錮に處せられた。是れは普通の曆に列せられたる諸聖、諸神の名に代へるに、哲學者、學者、藝術家、發明家等の名を以てしたものである。其より十四ヶ年の後、彼は「婦人の讀書を學ぶことを保護する法律計畫」といふ奇計畫を建てたが、其れは彼をフェミニズムの最も精

神的な一祖父たらしめた。又、一八〇〇年に現はれた「古今無神論辭典」(Dictionnaire des Athées anciens et modernes) 及び「聖書に對する賛否」(Pour et Contre la Bible) の二書は、近世非宗教運動首唱の最大なるものに計へられる。

マレシャル及びバベウフに依て、佛蘭西社會主義は直接にアンシクロペジストに連絡する。又、彼等の門弟たる Buonarroti (ブナロッチの師) に依つて、サン・シモン主義、フウリエ主義、及び其後繼者等の神秘的渾沌時代を通過した上、更にその傳統を最近まで繼續して來た。今日、佛國の集産主義者や共產主義者等をして、宗教は公事に非ずといふバラドクスに改宗せしめるために、多大の努力が行はれたにも係はらず、デイドロや、Alembert 等の思想は、それにも増して最大の權威となつたのである。勿論それには Proudhon の感化力が非常な助勢を與へたのであるが、マレシャルやブナロッチ等の功績を無視することは出来ない。(A. Chaboseau, De Babeuf à la Commune, p. 5-6)

右一揆のブナロッチ(一七六一年—一八三七年)は其後放免せられることになつたが、獨

り救されるのを不本位として長い間出獄を拒んでゐた。が、遂に出獄し、瑞西に流浪中に其一探の歴史を書き、一八二八年にそれを白耳義ブルッセル市で公刊した。處が此書が彼の七月革命（一八三〇年）から佛國に於て大評判を博し、此事件は新たに萬人の記憶に復活したのである。かくてバプギスムは一八三〇年から一八三九年に至る佛國史上に一地歩を領有し、ブウナロッテの著は、今日も尙ほ佛國勞働者の思想上に勢力を有つてゐる言はれる。近世社會革命家として第一位を占めた ^{オーギュスト} Auguste Blanqui ^{ブランキ} の如きは實にブウナロッテの教を受けた一人である。ブランキが一探の組織、運動方法をバベウフ一探に學び、其ブランキの革命戰術は實にレーニンの學ぶところになつたのである。獨乙のカウツキイが、レーニンはブランキストにしてマルクシストに非ずと言ふのは其れが爲である。

バベウフ一派の社會思想と、人類の無限の進歩を信じた ^{コンドルセ} Condorcet の人生觀と、基督教の精神とを併せて、更に新しい科學的研究を重ねたものは即ち十九世紀の初頭に現はれた ^{シモン} Saint-Simon ^{サン・シモン} である。然るに此サン・シモンと對立して、非集納的社會思想と、ルソオの自然

的的人生觀とを併せて、新たに科學的説明を施したものは即ち ^{シャルル} Charles Fourier ^{フーリエ} である。フーリエはルソオの「自然に還れ」を一步進めて「土に還れ」と説いた。

◇キリアム・ゴッドキン 是より英國に於ける社會主義思想の起原に就て略述する。其中心となる人物は即ちキリアム・ゴッドキンである。ゴッドキンはジャン・ジャック・ルソオの感化を受けたことは前にも述べた處であるが、彼は其經濟思想の方面に於て又、^{アダム} Adam Smith ^{スミス} に負ふ處多大である。そして其スミスが又、佛國に行つて經濟學の始祖 ^{クエズネ} Quesney ^{の教を受け}、ルソオの感化を受けたことは既に人の知る處である。然らば、一七七六年、英國に於て公刊されたスミスの「國富論」は抑も何事を語るか。

彼は同書の最初の頁より書して曰く「各國民の毎年の勞働は其國民が毎年消費する總ての日用品を供給する原始的の基本である。そして其基本は、常に、勞働の直接生産であるか、又は其生産物を以て他國民から購ふたものを以て成る。富の眞源泉は勞働である、といふ此有名な言葉は、恐らく生産上に於ける、自然と資本との力を否定したものでないとは確かである。(Ci-

de et Rist, Histoire des doctrines économiques. 六三頁) けれども、彼は深甚な同情を労働者に寄せ、『如何なる社會も、其大多數の人々が貧乏にして困難する時は、決して晴やかで幸福であり得ない。且つ、總ての人に衣食住を供給してやる人々が、其自分の勞働による生産の一部分を割いて、自分達の衣食住を十分に満足せねばならぬといふことは餘りに當然のことである。』(Wealth of Nations. 第一卷八十頁、第一編第八章) と言ひ、又、『勞働は總ての交換價値の眞尺度である。』と言つて居る。スミスの『國富論』が反重商主義を以て第一目的としてゐることは周知の事實であるが、彼は農業を尊重し、農業は工業よりも有用にして而も困難なる仕事なれば、殊に注意と同情を寄せねばならぬと云ひ、そして國の眞正の富は、金ではなくて『土地と家と諸種の消費物とである』(國富論第一卷四一六頁) と説く。然るに、こうした經濟思想を持つたスミスは政府に就て如何なる考へを懷抱してゐたか、彼は考へた、政府は『常に、例外なく、社會の最大浪費者である』と。(國富論第一卷三二八頁) 第二政府が使用する金銭は他人が取得したものである。他人が取得したものは自分が取得したものよりも浪費

し勝ちなものである。且つ政府は諸企業を監督するには餘りに遠方にある。國家の行政は有り得べき最大害惡である故に、それは個人の行爲を以ては不可能な場合にのみ限るべきである。

こうしたスミスの思想が、ゴッドキンの自治的、非強權的、小社會聯合主義の社會理想に感化を及ぼしたことは言ふ迄もない。私は英國の舊知 Henry S. Salt 君の著『ゴッドキンの政治的正義』(Godwin's Political Justice) に據り、茲に些か彼の思想を紹介して置く。彼の思想は、後の Robert Owen に多大の感化を與へ、更に後年に至つて、無政府主義の Elisee Reclus や、Kropotkin に一層深い感化を與へたもので、社會主義思想史に於ては最も重大な地位を占めてゐるからである。

ゴッドキンに依れば、我々の最高の法律は人類一般の幸福と云ふことである。然らば其幸福とは何を云ふか、『その本質は人間の心の本質に依つて限定される』それは不變なものであり、人間が變らざる限り幸福も同じものである。義務とは人類一般の福利に對する個人能力の最善最大の應用を成す處の個人行爲の形式である。眞に賢明なる人は、たゞ一般の福利のためにの

み努力する。彼が努力するのは、利益の爲てはない。野心の爲ても、榮譽の爲ても、名聲の爲てもない。彼は嫉妬なるものを知らない。唯、彼は自分の達成せねばならぬこと、自己の成した處を比較しては心配する。眞に一般の福利を求むべく自己を餘義なくせしむるは彼の義務である。唯だ此善こそ彼の唯一の目的である。

ゴッドキンは一般福利の見地よりして法律を斥けた。人間の行動は、何年か前の同一行動と決して同價値のものではあり得ず、同等の有用さや有害さを持ち続けるものではない。新事件が起ると法律は常に不完全になる。だから常に法律を改正する必要がある。そして裁判所が法律を記入する帳簿は絶えず増大して遂に入れ所なきに至るであらう。人類全體の幸福といふ事は、將來法律に代つて行爲の規則となるを要する。ゴッドキンは法律を好まない。従て國家を好まないのも亦必然である。彼は國家を以て人類の幸福に反するものだと考へる、そして曰く、人類は國家の廢止後に於ても社會に共存しなければならぬ。そして各社會は出来るだけ小規模で、其互ひの交渉は出来るだけ少くなければいけない。小地方は何處にても、各獨立にその事

務を管理することが出来る。人類の如何なる結合に於ても、もしその結社の人々が、理性の原則を固守する限り、その人々は決して、領土の擴張と云ふことに興味を持ちはしない。法律を斥けたゴッドキンは、又所有權をも斥けなければならなかつた。かくて彼は、此の様な理想の實現方法は、さうしても平和的でなければならぬと主張する。

以上の極めて簡略な記述によつてゴッドキンの思想は略ぼ想像がつくであらう。此ゴッドキンの思想が、英國社會主義の父たるロバート・オウエンを感化した。そしてオウエンの社會主義も集中的でなくて分治的であつた。そして其分治的社會主義はゴッドキンの思想よりも頗る實際的となり、或は共産村となり、或は都市社會主義の先唱となつた。ゴッドキンの『政治的正義』よりも七八年以前に、ニュー・カッスルの學校教師スペンスがロンドン市中各方面に其ユトピア的社會批評のピラを張出して市民を驚倒した事件があつた。時代の思想界を察することが出来るであらう。

◇ファイヒテの社會思想　バベウフや、ゴッドキンを殆んど時代を同じうして、獨逸に於ても

既に社會主義的の經濟思想が起つて來た。哲學者 Johann Gottlieb Fichte (一七六二年—一八一四年) は蓋し其代表的人物と言ふことが出來やう。フイヒテは其著「佛國革命の物質上の正義」中に言つてゐる「財産は勞働以外より發生して來るものには無い。何人でも勞働せぬ者は、社會から生存の手段を與へられる権利を持たぬものである」と。恐らく是れは、バベウフ一揆の思想を其儘受容れたものであらう。彼は又、其著「自然的權利原論」中に、「生活の手段を有たぬ者は、他人の所有權を承認し顧慮する義務を負はない。何となれば、此場合には、社會契約の原則は、其人に對しては破壊されたものと言ふ事が出来るからである。人は各多少の財産を持たねばならない。社會は總ての人民に勞働の手段を給し、そして總ての人民は生活すべく勞働せねばならぬ」と言つてゐる。ルソオの思想が明かに表はれてゐることが容易に判るであらう。更に他の著作『商業閉鎖の國家』中に「勞働と分配とは綜合的に組織されねばならぬ。人は各一定の勞働と一定の資本とを享有することを要する。そして其資本は權利として、其人の財産を組成することを要する。かくして財産は普遍的となるであらう。何人とも雖も贅

澤に耽つてはならぬ。何人とも雖も必要を缺いてはならぬ。奢侈を目的とする財産權は全體の人が生活の必要を充した後でなければ存在の根據がないと言はねばならぬ。農民と勞働者とは最少努力を以て最大生産を獲得する爲に組合を造るがよい」とも言つてゐる。其權利の思想と其實現方法とは、今日の社會主義思想の萌芽を爲すものと見ることが出來やう。(G. Richard, La question sociale et le mouvement Philosophique au XIX siècle, p. 21-50.)

第二章 ユトピア社會主義

◇思想史と運動史 思想史としての社會主義史は、社會生活の潜流となつて、十八世紀以來、滔々流域を擴げつゝあつたが、運動史としての社會主義史は、それと些か趣を異にして來た。佛蘭西にはバベウフ等の一揆が起り、英國にはゴッドキンの革命的述作が公刊されたが、其後ナポレオンといふレコード破りの人物が現はれ、歐羅巴中を暴れまわつた結果、何もかも異狀を呈するに至つた。常規を逸するに至つた。そしてワアテルロオに於けるナポレオンの最後の敗北以來、歐洲各國を支配したるものは保守的反動であつた。十九世紀初頭に於て、社會主義運動が勃興したのは、實に此保守的反動に對抗する自由主義の運動に隨伴してあつた。

然るに、思想としての社會主義は、ナポレオンが敗北したる直後、即ち一八一七年に於て、

英佛兩國に美事な新らしい花を開いた。Robert Owen^{オウエン}が、其社會主義的共產制の考案を英國議會に提出したのも、佛蘭西社會主義の一祖師 Saint Simon^{サンティモン}が、初めて其社會主義的思想を確立せる「産業論」(L'industrie)を公にしたのも、又、基督教社會主義の先驅たる Lamennais^{ラムニス}が其最初の著書を公けにしたのも、皆此年であつた。更に是より以前、一八〇八年に、Charles Fourier^{シャル・フーリエ}は既に「四個運動論」(Théorie des quatre mouvements)を公にし、一八〇二年にサン・シモンは「一シユネエツ住人の手紙」を公けにしてゐる。

抑も十八世紀の後半期に於て、佛國が其政治的革命に熱狂してゐる時に當て、英國は其産業的革命に自ら驚駭した。佛國大革命の先唱となつたルソオの「民約論」や「エミール」が公にされてから十餘年の後、英國産業革命に對する一種の警鐘とも稱すべきアダム・スミスの「國富論」が公刊された。而して、近世社會主義は、此英國の産業革命と佛國の政治革命と一般の思想革命とが協合錯綜して、古來の共產思想の上に新形式を織り出した所の新理想、新運動である。英國の産業革命は社會主義の爲に新事實を供給した。個人的産業は變じて分業的組織的

産業となり、更に轉じて機械的産業となり、そして少年や女子労働者の激増となり、壯年労働者の失業となり、工場内の惨状となり、農業労働者の貧困となり、貧民群の蜂起となり、そして工場改良、貧民救助は天下の大問題となつた。佛國政治革命は社會主義の爲に新思想を供給した。君主專制、階級政治に對して自由民權主義の勃興となり、ヴォルテールや、ルソオや、デイドロヤの新哲學となり、自由、平等、博愛の新題目となり、そしてモレリヤ、マブリヤ、パベウフ等の共產主義的の主張となつた。右の如き英國の新産業界の中心に出現したものは即ち彼のロバート・オウエンであつて、右の如き佛國の新思想の潮流に出て來たものは即ちサン・シモンやフーリエであつた。

◇ロバート・オウエン Robert Owen (一七七一—一八五八) は、當時の大機械産業の急激なる發達を看破し、産業家として大いに成功した人である。彼は天性の慈善家であつた。彼は若い時から總ての事に寛大で且つ義侠の精神に富んで居た。一八〇〇年、彼は年齒僅かに三十二にして、ニューラナーク工場の支配人となつたが、是は彼にとつて、労働者の改善、共產主

義の建設に對する最初の試験所であつた。「人は其境遇に依て生る」この彼の根本思想も亦此時の経験から起つたものであらう。彼の實驗は豫期の如く成功した。併し彼の推究は尙此に止まらなかつた。彼は明らかに言つた。「併し是等の人々(工場労働者を指す)は尙我奴隷である」。彼は總ゆる種類の慈善的設計を試みた。そして其設計は、常に、人は境遇の改善に依て完全にされる、この原理に基いた。彼は世の中の共働主義者の様に、一般的共働事業に依て社會問題を解決し得るであらうとは信じなかつたが、併し、共働運動に於ては最大なチャムピオンとなつた。今日世界に隆盛を極めてゐる消費組合の元祖である彼の有名なロッチデール組合の主動者は即ち彼の門弟であつた。一八一五年、グラスゴー産業家の會合に於て、彼は棉花工場の労働時間短縮の請願を國會に提出しよう云ふ事を提議して賛成を得た。彼は徹頭徹尾平和的慈善家として自ら守つた。そして宗教的關係に基く依怙最負を攻撃して宗教社會から敵視されるようになつた。併し彼は些もそんなことには驚かなかつた。一八二三年、彼は愛蘭土に於ける災厄の救濟法として共産制を唱導した。一八二三年には自ら北米ニューハーモニーの共産

村を經營した。晩年に至つて「新道德世界の書」を公にした。其は彼の教理を説明したものである。彼は一時物質的改良に専心して宗教に反對したが、晩年に至つては次第に精神主義に傾いた。(Lloyd Jones, Life of Robert Owen. Gide et Rist, Histoire des doctrines économiques. p. 285.)

◇サン・シモン (Saint Simon 一七六〇—一八二五) は巴里の貴族の家に生れた。彼は財産を獲得して又散じた。そして極端なる貧困に陥つて具さに人生の辛酸を嘗めた。彼はロバート・オウエンの様に其社會主義的考案の上に少しも經驗的要素を持つてゐなかつた。彼の哲學は一種の神秘主義を混じてゐた。従つて其傾向は直接に人の新境遇を形成しようとするよりは、寧ろ一の新基督教を組成しようとするに在つた。彼の社會主義は茫漠たる所が多いが、併し「其才能に従つて各人より、其勞働に應じて各人へ」とは有名な彼の題目であつた。彼の思想の傾向は神秘的であつたに係はらず、其社會の歴史的解釋、經濟的解釋、即ち唯物史觀に於て、遙かにマルクスに先驅した。其思索の上に於ては彼は慥かにオウエンよりも進歩してゐ

た。彼の全生涯の事業は實に彼の新宗教に在つたが、其新宗教の大目的は最貧にして最多数階級の道德的境遇を最も迅速に改革するにあつた。

エンゲルスは彼に就て次の如く記してゐる。「サン・シモンは彼のゼネブよりの書簡時代に、既に「總ての人は勞働するを要す」と唱へ、威嚇時代(佛國大革命の)は即ち無産民の治世であつたことを論じてゐる……そして佛蘭西革命を、貴族、ブルジョアの階級と、プロレタリアとの闘争であるを認めたのは、一八〇二年の事としては甚だ意義深い発見であつた。一八一六年には、彼は、政治學は唯産業の科學でなくてはならぬ。そして政治學は遂に經濟學に吸収されるであらうと豫言した。經濟状態が政治組織の基礎だとの識見は、此に唯其萌芽を發したに過ぎないが、然も其時に於て既に、明らかに、對人的政治が今後、對物的政治に變らねばならぬことを表言して居る」云々(Engels, Socialism: Utopian and Scientific)

世界主義も亦明らかにサン・シモンの首唱する所であつた。私は再び此にエンゲルスを引用しようと思ふ。エンゲルスは曰く「彼は同時代の思潮を超越し、一八一四年、同盟軍が巴里に

入るや否や、彼は歐洲の平和と繁榮を保證する唯一の手段は英佛間の同盟、及び此兩國と日耳曼との同盟に在りと言ひ、一八一五年の百日戦争中にも亦再び之を唱道した。同年の佛國に對して、ワテローの戦勝者と同盟せよと説くのは、決して尋常の勇氣を以て爲し得べきことではない。」

サン・シモンが人類進歩論者たるコルドルセの感化を受けたことは前にも述べたが、彼は其人生觀を語つて曰く、『詩人の想像する所では、太古蒙昧な人類原始の時にのみ黄金時代があつたと云ふ。けれども之は寧ろ鐵嶺時代とする方が適當である。黄金時代は吾々の過去にあるのではなく、寧ろ將來にある。社會組織の完全なる時にある。吾々の祖先は之を見なかつた。吾の子孫は一日之を見る機會があらう。彼等の爲に其道を備へるのは吾々の義務である。』

◇シャルル・フウリエ (Charles Fourier 一七七一—一八三七) は吳服商の子である。彼は革命に際して財産を失ひ、のち仲買業者として實業に従事するに至つた。彼は事業の取引中に、早くも個人主義と競争制度との不公正を深く感じた。彼は其最初の著作「四個運動原論」

中に「人の天性は其食慾と情慾との自由の實現に依つて完全にされる」この題目を研究し、そして悲惨と罪惡とは社會が個人に負はした制限から發生するものであることを主張した。彼の近世社會の批評は所謂科學的社會主義の其に先驅したものとて頗る重要な地位を有する。彼は時代の思潮を超越して人類の歴史的發展を洞見し、人類發達時期を未開期 (Savage) 野蠻期 (Barbarism) 家長期 (Patriarchalism) 及び文明期 (Civilization) の四期に分ち、そして其最後の時期をブルジョア文明 (Bourgeois Civilization) と見做した。

彼は社會改造の基礎として産業の共働組織を唱道したが、併し彼の理想郷は其生活の細岐に至る迄獨斷的に組織したものであつた。又、彼の提案は共働組織の聯合團體として共產村を設計し、其設計の中に總ゆる生活と有ゆる産業とを實施するにあつた。そして其最も重要な思想は、各人の才能に従つて勞働義務を分配することを必要とし、此に依つて萬人が常に幸福であることが出來ようを保證した一點にある。彼の計畫は純粹の平等主義ではなかつた。彼は比較的富者と貧者との間の區別を許してゐた。そして其勞働、資本、及び才能に對する富の分配法

は甚だ夢想的であつた。

「土に還れ」といふ思想が彼の思想の重要な部分をなし、「愉快な仕事」を社會生活の一要素となし、少年教育法に特に深く留意して、幼稚園の創始者フレーベルの先師となり、今日のポオイスカウトの思想的先驅をなした等の諸點は、社會史に見逃すことの出来ない事實である。結婚廢止の議論は、彼の特に力を注いだ所であつた。(Gide et Rist, Histoire des doctrines économiques: p. 203-299. Selections from the works of Fourier.)

「社會運命論」(Destinée Social)の著者 ヴィクトル・コンシダラン Victor Condidérant はフーリエ學派の秀才であつた。チェルケソフやラブリオラの主張するところによれば彼のマルクス等の『共產黨宣言』は全然コンシダランの民主主義宣言を借用したものだ云々。『Tcherkesoff, Pages of Socialist History. p. 55-66.』フーリエ主義者は一八三二年に一新聞を創立したが、間もなく廢刊し、一八五〇年に更に再興したが、遂に政府の禁止する處となつた。フーリエ主義の共產村は米國に於て一時隆盛を極めた。

私は以上三大社會主義者の事蹟に就て特に歴史上重要な數點を指摘した。彼等は世の貧困の状態、無用の事業、不正なる事實を摘發して、之を社會に知らしめ、その上更に彼等自身の改造計畫を世に問ふたのである。彼等は未だ人類社會變遷の階梯に注意を拂はず、唯萬人が彼等の考察の正當なことを認知するに至れば、遂には一般にその方法を採用する様になるであらうと信じた。彼等は、現在の文明の混亂悲惨と、其理想とする世界の調和幸福とを對照して人民に示し、それに依つて人民を社會主義に改心させようと考えた。要するに彼等は何れも理想家的であり、教育的であつて、革命的ではなかつた。

社會主義者としての彼等は、何れも一種の理想家であつた。三人の内、ロバート・オウエンは比較的實際運動者たるに近かつた。彼の運動が一時英國の社會に大波動を起し、總同盟罷業まで企てたことは事實であるが、併し彼の施設の大部分は尙、慈善家的であつて、政治運動ではなかつた。然るにサン・シモンやフーリエになるに更に一層理想家に傾き、社會主義的の實際運動に至つたのは殆ど見るべきものがなかつた。唯彼等は近世社會主義の創始者として、各、

各特殊な感化を思想上に賦與したのであつた。然らばその三者の特徴とは何であるか。即ち、オウエンは慈善的施設に奔走し、サン・シモンは新宗教の建設に献身し、フウリエは新科學の組織に熱中したのである。クロボトキンは「社會主義は其發生の當時からして三種の獨立した徑路に於て發達し始めた。之を代表する者は即ちサン・シモンとフウリエとロバート・オウエンとである。サン・シモン主義は發達して社會民主主義となり、フウリエ主義は無政府主義となつた。そしてオウエン主義は英米に於て労働組合、共働事業、及び所謂都市社會主義として發達し、而も社會民主的國家社會主義に反して、却つて無政府主義と多くの結合點を持つて居る」(Kropotkin, *Memoirs of a Revolutionist*, p. 378)

◇カベエ (Gabet 一七八八—一八五六) 以上の三人と少しく趣を異にした人で、而も此處に列せらるべき人にカベエがある。カベエは其年代からいへば、寧ろ次章に入るべきものであるが、併し、其思想と事業とは、却つてユトビヤ社會主義中に編入されねばならぬと思ふ。彼は一八四八年の歐洲騒亂に際して革命家の一人となつたが、併し彼の有名なのは寧ろ其著作

「イカリア航海」に、其イカリアの名稱の下に米國に建設された共產村に依るのである。

以上のユトビヤ社會主義を以て一概に空想的と名づけるのは甚だ妥當でないと思ふ。彼等は單に空想を描いたのではない。彼等は之に依つて實際社會を救済し得るに信じ、且其實行をも試みたのである。又彼等を一概に非科學的といふのも間違ひである。今日から見れば其科學的研究が不完全であることの批評を免れぬであらうが、併し彼等は其時代に於ける最も進歩した科學の上に其理想を建設したのである。彼等をユトビヤ社會主義と名づけて自ら科學的社會主義と稱したエンゲルスやマルクスの所説も、今日一般に非科學的だと言はれるのである。前者がユトビヤならば、後者は一種の神話だと言はれるのである。

要するに、ユトビヤ社會主義者等の近世社會主義史上に有する使命は、古來の共產主義的思想を基礎とし、新經濟學、新科學を材料として、茲に新しい社會理想を建設し、以て將來の革命的社會主義を喚起するにあつた。

第三章 保守的的反動と自由主義

ナポレオン戦争が終局して、佛國の政權が再びブルボン王朝の掌中に歸するや歐洲諸國は保守的的反動の峻嚴な専制主義の支配する處となつた。諸國帝王（露、奧、普、後に佛國も加入す）の反動的結合たる神聖同盟は總ゆる平民的感情を粉碎すべく企てた。假令、ブルジョア階級の人であつても、苟も此感情を代表する様な形勢がある時は、直に之を撲滅しようとした。そして此保守的的反動の代表的人物は有名な奥國の Metternich であつた。

◇英國の形勢 保守的的反動の餘勢は、夙に立憲主義を採用した英國にも及んだ。歐洲大陸に於ける反動政治の代表的人物がメッテルニヒである様に、英國に於ける其代表的人物は即ち Castlereagh 其人であつた。此保守的的反動の大勢力に據つた英國政府は、其頑迷な壓制、其腐敗墮落、ともに極點に達した。そして其保守主義に對する反動運動は、進歩主義の煽動とな

り、後の急進主義の起源を成すに至つた。Bardette や Cartwright は、此煽動時代初期の代表的人物であつて、其後 Hunt Carlyle や Lovett や Cobett などが相次で輩出した。所謂ピータアールの虐殺（ピータアールはマンチェスターの附近にあり、『穀物法反對』自由に非ざれば死を』等の旗を押し立て五萬の群衆が一大示威運動を試みたのである。一八一九年八月）は蓋し此急進的煽動時代に於ける政府の暴惡な壓制を表示したものと云ふ可い。(Morris & Bax, Socialism: its growth and outcome)佛蘭西が革命の結果、兎も角も舊制度から解脱して來た間に、英國は却て其舊制度を保持する爲に硬化した。『舊い英國』は一七八九年に於けるよりは、一八一四年に於て却て完全であつた。佛蘭西革命の經驗に學んだ英國ブルジョアは、之に依つて自らの城廓を固めることが出來たのである。然るにナポレオン戦争の結果、英國の歐洲大陸への輸出額と國家の債務とは激増した。(一七九一年に二億三千七百萬磅の債務があつたが、一九一五年には八億六千百萬磅と云ふ數になつた)此結果として富豪と工業家との權力と金力とを激増し、勞働の賃銀を減少し、麥の市價を激増し、大工業の勃興につれて勞働群を夥多にし、

かくて貧富の懸隔を益々甚しくした。斯の如き社會状態は煽動運動の廣野として、最も好く準備されたものであつた。加ふるに、十八世紀末から創立されたる諸新聞紙は猶ほ微力ではあつたが、新しい社會運動に氣勢を與へた。(Seignobos, Histoire politique de l'Europe) 此様な形成の下に於て、反動的專制政治と急進的煽動運動とは、互に相反撥して兩極端に走つて來て、機が熟すれば當に一大内亂を爆發せんとする光景を呈した。之を見て政府は痛く恐怖して、一八二二年、遂に改革法令を發布し、ブルジョア階級の政治的自由を完全にした。かくて世の風雲は漸く靜平に歸した。然るに此政治的自由の爲に血を以て戦ひ、多衆を以て働いたプロレタリア階級其ものは遂に空しく遺棄された。故に元來ブルジョアとプロレタリアとの聯合事業であつた急進主義の運動は、尙プロレタリアの自由の爲に繼續して行はれ、彼の有名なチャーチストの運動となつた。此チャーチストの首領として著名な Feargus O'Conner 及 Ernest Jones の様な人々は元來ブルジョア階級に屬するが、此運動を實際に支持したものは即ち無産平民であつた。そして其運動の目的は初め主として平民階級の經濟的救済であつた。

一八三〇年頃は英國勞働階級(産業都市に於ける)の最も困窮した時代であつた。其状態は Dickens の『困窮時』 Disraeli の『Sybil』等の有名なる小説中に能く描寫されてゐる。オウエンが共働組合を提唱し、各種職業勞働者の結合を計つたのは當時である。一八三一年に政治的改革運動に傾いた運動も、其翌年には再び純勞働運動となり、一八三三年には彼の提唱の下に全國勞働者の大組合が組織され、其組合員はやがて五十萬といふ多數に上つた。其目的は議會をして、八時間勞働制を議決せしむる爲に、總同盟罷工を斷行するにあつた。(Seignobos, Histoire politique de l'Europe Contemporaine, p.44-45.)

◇大陸の自由主義 保守的的反動が英國に及ぼした影響は唯其餘波に過ぎなかつた。保守主義の中心は寧ろ大陸の東部にあつて、奧太利の宰相メッテルニッヒや、露國の皇帝アレキサンデル一世は其主腦であつた。そして大陸諸國は其保守的政略が嚴酷であつた爲に、之に對する反抗運動、自由主義革命運動も亦激烈であつた。即ち獨逸小僧黨の運動が起り、ワルトヴルグの示威的大會(一八一七—一八一八)が起り、露國の大學生ゲオルグ・サンドの保守主義者コッツ

エベの暗殺となり、次で大疑獄となつた。そして物情恟々として列國使臣會議が開かれ、出版物の檢閲、小僧黨や體操會の禁止、學生監督廳の設置等の諸件が議決され、同盟諸國の專制主義施設は甚だ酷烈であつた。併し滔々たる自由主義の大勢は再び挽回することを得ず、一八二〇年には伊太利の炭燒黨起り、西班牙、葡萄牙の兩國も亦動搖を始め一八二五年、神聖同盟の首唱者たる露帝アレキサンデル一世の歿するに及んで、革命の機運は更に急調を帯びて來た。

佛國の新王朝は列國干涉の下に保守的專制政治を行つて來つたが、其内閣が屢々更迭するに係らず動搖は常に絶えず、自由主義の氣勢は日を追ふて益々高まるばかりであつた。一八三〇年、專制派と自由派との紛争は其頂點に達し、政府は議會を解散し、選舉法を改め、出版の自由を禁じた。これが爲に巴里府民は非常に激昂し、學生や労働者は悉く奮ひ立ち、遂に巴里全府を占領して、オルレアン公ルイ・フィリップを王位に立てた。茲に於て自由主義者は勝利を得、信教出版の自由、王權の制限を規定した。之を七月革命と稱する。サン・シモン教徒等が、其首領等の意見に背いて革命戦に参加したのは此戦である。併しながら多年の紛争の結果

として政治的自由を獲得したものは所謂ブルジョアに限られ、身を以て其實戦に當つた一般労働者は遂に其政權を得るに至らないで、依然として困窮状態を續けてゐた。そして失業者の群は道途に彷徨して安堵する所もなかつた。此に於て明白にブルジョアと利害關係を異にした所謂プロレタリア階級は鬱然として發生した。即ち英國の改革法令（一八三二年）の結果に見えた様に、政治的特權から除外されて、經濟的困窮に壓迫される平民階級は新に革命黨として社會の表面に表はれて來たのである。其兆候の最初に表はれたのは、即ち一八三一年リオン市に於ける餓ゑたる労働者の蜂起である。彼の「労働に生きよ、然らずんば戦闘に死せよ」の語は、即ち黒色旗に武装した彼等の絶叫であつた。

◇共産黨の名 此時に當り、權利の宣言に關して共和黨は二派に分裂した。一は所有權を以て法律に依て定められた權能と見做し、從て法律に依て改訂し得るものごなし、Cavaignac等が之を代表した。然るにコンパンションの主旨を確立する Armand Carrel 一派は所有權を以て自然の天賦の權能と見做した。之に於て、前者の趣旨に基いて、社會的改革を希望する青年

等は共和黨から分離して社會黨を組織した。そして此黨派は諸方の秘密結社を指導して陰謀を企てた。又、常に三色旗を用ひてゐた共和黨の傳統を破つて、彼等は始めて赤色旗を採用した。一八三二年の彼等の宣言は「政治的變革よりは寧ろ社會改造を欲すること」を明らかにした。同黨の機關紙「自由人」にはバベウフの思想が表はれてゐる。蓋しバベウフの友ブナロツチの著「バベウフ一揆の歴史」(Histoire de la conspiration de Babeuf)が一八二八年に公刊され、既に多く讀まれた結果であらう。一八三九年には此一派は自ら「共產黨」の名さへ採用するに至つた。民主新聞「常識」(Le Bon sens)『進歩評論』(Revue du progrès)等の記者であつた Louis Blanc は、一八三九年に「勞働組織論」を公にし、社會的にして同時に政治的なる新主義を主張した。そして一八三二年以來既に世に行はれてゐた「社會主義」(Socialisme)の名稱が此運動に適用される様になつた。(Seignobos, Histoire politique de l'Europe contemporaine, p.120-130)

此時に當つて、白耳義も亦獨立の革命を成就し、(一八三〇年)露領波蘭は反亂し(一八三〇年)匈牙利人も次で獨立の革命を起し、伊太利革命黨も亦之に應じて起つた。(一八三一年)一波起つて萬波之に應じ、革命の波動は未だ容易に鎮靜する氣配は見えなかつた。

當時、此等諸國の革命は、多くブルジョアの愛國心、國家主義に鼓吹され、民族的の自由、獨立、統一を其主たる目的としたものである。然るに其革命の憤激は、社會主義の思想、運動の上に一大變化を及ぼした。抑も彼のユトビヤ社會主義の勃興した時代は、歐洲の人民、殊に佛蘭西國民が革命の悲惨に戦慄し、又、ナポレオンの活動に眩惑し、革命的氣勢の殆ど屏息した時であつた。従つて彼等の救貧の熱情が深く切であつたにも拘らず、皆政治的革命的態度に出ることが出來ずに、試験的、教範的の事業に傾いたのであつた。然るに今や時代は急速に推移して來て、保守主義に對して自由革命の氣勢が漸く熾烈になつて來た。當時の社會主義者が漸く往時のユトビヤ的態度を變じて政治的に傾いたのも亦當然の勢と言はねばならぬ。

當時歐羅巴の社會主義の中心は佛蘭西にあつた。サン・シモンの門弟 Enfantin や Bazard 等の運動は一八三〇年の革命から衰頹して、フウリエ派の勢力が次第に興隆して來たが、一八

三九年にルイ・ブランが「労働組織論」(Organisation du travail)を公にし、一八四〇年にブルウドンが「財産とは何ぞや」(Qu'est-ce que la Propriété?)を著すに至つて、歐羅巴の社會主義の中心は全然彼等に歸し、殊にブルウドンは當時の社會主義の代表的人物となり、且其思想は甚だ革命的傾向を帯びてゐた。かくて彼等の住居する巴里は、當時恰も革命學專攻の大學生といふ様な觀を呈し、唯物的社會主義を提唱した Karl Marx も、無政府共產主義の鼻祖たる Michael Bakounin も、獨逸社會民主黨の建設者 Ferdinand Lassalle も、皆當時、巴里を訪づれて其革命的社會主義を研究したものである。マルクスがブルウドンと相會して經濟問題を論ずるや、夕より朝に及んで終らなかつた事が屢々であつたといふ。之に依つても、彼等が如何に熱心に社會主義を討究したのを知ることが出來よう。そして一八四八年の歐洲革命に際して社會主義が既に其一部の勢力となつた事實をも略ぼ察することが出來よう。

第四章 社會主義思想の開花

◇諸思想の高潮 十九世紀から二十世紀にかけて諸派の社會運動を支配して來た總ゆる思想は、一八四八年の歐洲革命以前に於て、既に爛漫たる花を開いてゐた。佛國の學者にして政治家たる Guizot が一八二〇年に階級闘争を論じたことは既に有名なる事實である。更に佛國の才媛 Flora Tristan はマルクス等の「共產黨宣言」に先立つこと數年以前、既に「國際労働組合」を提唱して盛んに諸方に宣傳して歩いた。又佛國の社會主義經濟の先覺者と稱せられる Pecqueur は、マルクスよりも十年以前、資本の集中と其の自然的激變的崩潰を説いてゐる。そして經濟的決定論、唯物的歴史論を説いてゐる。然も彼はマルクスの必然論的誤謬に陥らずに、人意の自發力によつて、其激變的行程を避けることが出來ると説いてゐる。(Jaures, Histoire socialiste de la révolution française) 此思想はシューネホヴのサン・シモン學徒

Simondi も亦發表した。それは後段に述ぶる通りである。

次に自治的無政府的社會主義が最も強烈に Proudhon に依つて説かれ、集中的國家的社會主義はルイ・ブランの唱道する所となつた。兩傾向の社會主義に就いて、クロボトキンは言つてゐる「一七九三年といふに、英國に於ては、既に William Godwin の「政治的正義と其公衆道徳に及ぼす影響」に就ての「考察」(An Enquiry into Political Justice and its Influence on Public Morality)といふ真に驚異すべき著作があつた。此書は彼を以て政府無き社會主義——換言すれば無政府主義——の最初の創設者たらしめたのである。然るに一七九六年 Babeuf は Buonarroti の補助と鼓舞とを受けて、集中的社會主義即ち國家的社會主義の提唱者として現はれた。更に佛國民が十八世紀の終りに既に創定したる諸原理を發達せしめたるフウリエ、サン・シモン、及びロバート・オウエン——即其三大説を代表する三人の近代社會主義創立者——が現はれた。更に又、一八四〇年代に及ぶや、ブルウドンが現はれ、ゴッドキンの著作を知らずに、無政府主義の創設を新たにした。此政府的及び非政府的の二様の社會主義の

科學的基礎は、十九世紀の發端からして驚くべき豊富なる發展を以て研究されたのである。然るに此事實は現代人によつて餘りに無視せられてゐる。然し、事實は一八六四年に創立せられた國際労働協會を起點とする近代社會主義が唯次の二點の理由——二點とも本質的のものであることは疑無ないことである——に基いて右の創設者等を遠けたのである。即ち近代社會主義は其目的を生活上に實現し得る道は唯だ社會革命によること——此はフウリエもサン・シモンもロバート・オウエンも欲しなかつたし、又敢て言ひもしなかつた。——を宣言した。そして、一八四八年に屢々誇示せられた『基督は社會主義者にして革命家だ』といふ思想を全然斥けた。……然るに此後段の思想はゴッドキンやフウリエや、ロバート・オウエンに依つても既に排斥せられたものである。若し其れ、中央集權や強制規律の教義に至つては、是れは人類が宗門政治及び羅馬帝國法より承けた處のもの——皆不明な過去の遺物——で、是等の遺物は尙多くの近代社會主義に依て保持せられる。従て彼等は未だ彼の二人の先驅者即ちゴッドキン及びブルウドンの境地に到達しないものである」強權を否定する點から言へば、ゴッドキンよりも尙ほ

遙かに遡つて十六世紀に於てアナバプチストやトオマス・ミュンツェルの「信仰の宣言」がある。中に曰く「部落としても、宗派としても、僧侶などは有せない。何人も神の鼓吹に依て再生し、模範を説いて僧侶の役を爲すことが出来る」精神に依て再生したる身體は、總て完全な共產に於て一しよに生活せねばならぬ」些かも儀式的教儀を存してはならない……人間は手の勞働に依て其生活を立てねばならぬ」如何なるアナバプチストも威力を以て支配され又は支配せしめてはならない。其統治は神の統治である」*若し此内より宗教的要素を去るならば、それは全然強制を排し、社會平等を説く處の自由共產主義であると言へよう。(Kropotkin, Modern Science and Anarchism, 13-14 **Tcherkesoff, Precurcurs de L'Internationale, 20)

◇階級闘争説 マルクスやエンゲルスに依て始めて唱道された様に傳へられる「階級闘争」の思想や「資本集中」の説明が當時既に明白に多くの社會評論家に依て唱へられてゐたことは前にも述べた通りである。

階級闘争の思想は既にサン・シモンに於て之を覗ふことが出来、コンシデランに至つては更に其發展を見せ、殊に歴史家として有名な、そして歐洲革命の際にマルクスを巴里より退去せしめた政府の首相たりし Guizot^{*} は一八二〇年に「佛蘭西十三世紀間の歴史は實に階級闘争の歴史である」と論じて居る。此の如く階級闘争の思想は既に十九世紀初頭に於て佛國知識界の大論題となつてゐたのであるが、併し此階級闘争の理論と共產主義の理想とに鼓吹せられて革命の一揆を起したバベウフの事件が、十八世紀末に行はれたことを思へば右の如き思想の發展は決して驚くに足らない。バベウフの革命一揆に就いては前章に記した故に茲には唯だ彼の階級闘争に関する思想を紹介して置く。彼は革命第五年 brumaire 月十五日發行の「Tribune du Peuple」紙上に記して曰く、「吾等は精確なる事實を塗抹してはならぬ。通常政治的革命とは何であるか？ 其は貴族と平民、富者と貧者との間に宣言された戦争である。……此の貴族と平民、富者と貧者との戦争は、單に其の宣言された瞬間にのみ存在するのでは無い。此戦争は常に存在する。一方が總てを取り、他方には何も残さない様な制度が成立するや否や此戦争は

直ちに始まる。唯だ宣戦が公布されない限りは、貴族富豪等は平民の叛逆に對して些かも注意を拂はぬ振りをする。彼等の地位は自然にして避くべからざるものと貧者等に信ぜしめ、富者の安全を扮ふことが、貧者等の計畫に對する好き防柵であること、富豪等は信ずるのである。けれども、一朝一擧の宣言が公けにされるや、戦争は猛烈に交はされ、兩軍は各々自ら勝を制せんとして總ゆる手段を用ひる。云々』*即ち彼は貧しき一般人の幸福の爲に、大革命の運動を更に一步進展せしめようとしたものである。然るに不幸にして彼は同志と共に捕へられて刑死し、さしも光榮に充ちた大革命も最後にブルジョアの獨占に歸したのである。(* Albert Thomas 發行 Babeuf, La Doctrine des egaux. p.50-55.)

ペヴーフに比すれば、サン・シモン學徒でも、コンシデランでも、其主張し力説するところ、頗る組織的科學的であつたが、併し其階級闘争の實行に於ては寧ろ平和的であつた。佛國に於けるサン・シモン主義は英國に於けるベンザム主義と其地位を同じくする。其國民性や歴史的感化やに基づく相異は元より免れないが、其他位と活動とは酷似してゐる。但し「サン・

シモン學徒はベンザム學派に比して缺點を持つて居る。それは、其首領にサン・シモンの様な人物やアンファンタンの様な弱い人があり、意志精神の強固な點に於てベンザムやオウエンやトムソンの様な人々に匹敵する人物は唯だ著述家バアザル一人に過ぎなかつたと言ふことは是であ。此點を除けば、兩學派は酷似してゐる。サン・シモン學徒は、ベンザム學徒と同様に一七八九年(大革命)の主義に反對し、且つ社會民主主義の方向に於ける革命運動を活氣づける爲に努力した。ベンザム學徒と同様に、基督教の禁慾主義に對して戦を宣し、肉慾承認の道徳を建て、地上の歡樂、幸福、産業の新道徳を提唱した。且つ、ベンザム主義は、最大多数の最大幸福を實踐的道德の理想となし、サン・シモン主義は殆ど同様な文字を以て、最多數にして最貧困な階級の境遇改善を計らんことを提唱した。』*併し此兩派の間には、其國民性と歴史的還境との相異に基づく反對の態度があつた。ベンザミスト等は忠實に自由放任主義を守り、常に個人の發意に信頼して政府の干渉を斥けたが、サン・シモニアンは社會的強權に信頼する様に努力した。又、ベンザミストは階級といふことを考へなかつたが、「サン・シモニアンは、カア

ル・マルクスに先つこと遙か以前に於て政治學中に階級對立の意見を加入し、社會が、利害の全然相反する労働者と有閑者とに分たれ、労働者は其賃銀にて生活し、有閑者は、金利や、家賃や、地代や、換言すれば労働の結果の上前をはねたる所得にて生活することを説いた」** (*G. Richard, La Question Sociale et le Mouvement Philosophique. p.108 **同書一〇頁)

然るにギゾオに至つては、其階級闘争論は一層明白に力強く主張された。ギゾオの見る所を以てすれば、佛蘭西の歴史は二つの階級間の闘争に外ならぬ。其闘争は十三世紀間繼續して遂に大革命の活動となつたのである。彼が此階級闘争説の爲に當時の諸新聞紙の非難攻撃を受けりや、彼は之に答へて言はく、自分が之を發見したといふ光榮を荷ふことは少しも思はなかつたし、又、此説は決して新しい表明とは思はない。人民は大革命に先つ百年の間之と同様な事を言つて居たのだ、と。ギゾオは更に其著「王政復古以來の佛國政府並に現内閣に就て」(Du gouvernement de la France depuis la Restauration et du Ministère actuel, 一八二〇年)に記し

て曰く「十三世紀の間、佛蘭西は二種の人民即ち征服者と被征服者を持つて居た。十三世紀の間、被征服民は征服者の束縛を脱せんが爲に戦つた。吾等の歴史は此闘争の歴史である。今日には即ち終決的戦が行はれてゐるのである。人之を名けて革命といふ。彼は實に封建的勢力に對する此民主的の戦を愉快に思つたのである。然るに其後に至り、巴里のプロレタリアが漸く自己の勢力に眼醒めて來たことを知つた時、彼の論調は漸く緩和し注意深くなつて來た。*蓋し彼自身ブルジョアの階級闘争に依つて漸く權力の地位に登つたが、俄かなプロレタリアの勃興を見て些か驚いたのであらう。(*Sinkhovitch, Marxisme Contre Socialisme. p.187-188)

◇財力集中説 次に財力集中説も亦前記のベクユールの外に既にサン・シモン學徒中に充分なる發達を遂げて居た。ジュネエブのサン・シモン學徒 Simondi は、産業的社會は全然異つた二つの階級、即ち労働する者と、所有する者、貧者と富者、に分れてゐるといふ思想を始めて確定した人である。彼は説いた、「中間階級は消滅する。地方に於ける小地主小農家、都會に於ける小工場長、小製作業者、小店主等は、大企業を經營する同業者と競争を繼續すること

が出来なくなる。社會は最早唯だ大資本家と雇人との外に存在の餘地を留めない。そして未だ曾て見受けなかつた階級、絶対に財産といふものを持たなかつた階級、が恐るべき状態を以て増加するのが覗はれる。* 此資本集中の法則は、之を企業に就て見れば、事實であるかも知れないが、併し財産に就ては適用し難い様に見える——労働の集中と財産の分散とは完全に兩立すべきものである——然るに此法則は後のマルクスの學說中に最も重要な役目を演じたのである。(* C. Gide et C. Rist, Histoire des Doctrines Economiques. p.220. Revue mensuelle d' economie politique, 2 vol, 1834. p. 124. 前書に引用せられたもの)

シスモンチ自身は社會主義者ではなかつたが、彼の文章は社會主義者に依て多く讀まれ、多く考究せられた。最も能く彼の感化を受けたものは社會主義者であつた。凡そ彼の著作中の批評的部分は、競争と財産不平等とに對する最も強烈なる論告を以て成立してゐるではないか。ルイ・ブランは之を讀みて、其競争に對する論據を借用した。更にルイ・ブランにも益して、ロドベルツとマルクスの獨逸ニ社會主義者は、其考を彼の書物から汲み取つた。ロドベルツ

スは彼の恐慌説と、社會の進歩は所有階級の外益しないといふ思想とを借用した。マルクスが彼シスモンチに負ふ所は更に多大である。ロドベルツは彼を引用しながら、其名を出さないが、マルクスは彼の徹底的分解に負ふ所を總て明記して憚らなかつた。マルクスがシスモンチから借用した多くの思想中、最も重要な點は、即ち、少數所有者への財産の集中、大衆労働者の加速的のプロレタリア化、といふ思想是れてある。此思想は「共產黨宣言」の中軸であり、又マルクス派集産主義の基礎をなすものである。そして其説がジュネエヴの經濟學者のものであつたことは右の通りである。然るに、資本家が労働者を搾取するといふ思想も之をシスモンチから借りたか、さうか。それは確言し得ないが、併し、假令、其剩餘價値の思想を彼から受けないにしても、少くともシスモンチが其に就いて施せる解釋の端緒だけは之を覗ひ知ることが出来たであらう。人も知る如く、マルクスは利益といふことを説明するに當り、労働者は其労働ばかりで無く、其労働力を賣るのだ、といふ。然るにシスモンチも屢々繰返して、労働者は「労働の力」其生活を賣る、と言ひ、又、要求されるのは即ち此「労働の力」であるとも

言つてゐる。シスモンヂは勿論此等の言葉から精確な結論を抽出しはしなかつた。併し此等の言葉はマルクスに其學説を立つべき暗示を與へたに相違ない。(*C. Gide et C. Rist, Histoire des Doctrines économiques. p. 233)

◇共産黨宣言の種本 カアル・マルクスに殆んどオリジナリテイといふものが無かつたといふ事は、今日學者の意見の殆んど一致せる處であらうが、種々の運命に依て其「共産黨宣言」が發行後多くの年を経て漸く世間に流布せられ、世界の社會運動に少からざる感化を與へたことは何人も之を拒否することは出来ぬであらう。然るに其「共産黨宣言」が、全然佛國の社會主義者 Victor Conscience の「社會主義の原則」(Principes du Socialisme: Manifeste de la démocratie au dix-neuvième siècle)を剽竊したものと唱へる者が出て來た。それを最初に言ひ出した者は先年倫敦に客死した露國シヨルジヤの革命家 W. Tcherkesoff 公であつたが、之を見た伊太利の學者 Arturo Labriola は「Avanti」紙上に一論文を掲げて、チエルチゾフの説に裏書した。之に對して、カウツキイの辯駁が「Neue Zeit」(一九〇六年)紙上に

出た。其大體の趣意は、富の集中と貧者の増加とに關する主張は一八四〇年代の社會主義者の多くが抱懷して居たが、『社會發達促進力としての階級闘争の役目』を認めた點が、マルクスの他と異なる處だといふにある。之に對するチエルケゾフの反駁は其「社會主義史」露語版に付せられて出てゐるが、更に近頃に至り、シムコサツチ氏の「マルクス主義對社會主義」(Marxisme contre Socialisme)が公けにされ、其中にカウツキイに對する氏の反駁が掲載されてゐる。*チエルケゾフの著「社會主義史」(Pages of socialist History)中の共産黨宣言に關する第十章「The origin of the manifesto of the Communist Party」は「共産黨宣言の種本」(友人延島英一君譯)といふ小冊子になつて既に日本にも流布されて居る。チエルケゾフは此物に於てマルクスの共産黨宣言とコンシデランの宣言とを各頁毎に各節毎に對比して符節を合せた如きものなることを明示してゐる。*之に對し、佛國の社會問題評論家として有名な Georges Sorel は「全體として共産黨宣言はユトビヤ主義者の文書に甚だしき酷似點を持つて居るので、それはマルクスがコンシデランの著作「民主黨宣言」を剽竊したのだとまで非難される

に至つた』といひ、且つ、自らもマルクスがユトビヤ主義から借用したこと明白な諸點を列擧してゐる。*** (* V. G. Simkhovich, *Marxisme contre Socialisme*, p.181-188 ** W. Tcherkesoff, *Pages of socialist history*, p.55-66 *** G. Sorel, *La décomposition dumarxisme*, p.31-32)

以上の序述によつて、社會主義思想の花は、既に満開の光景を呈したといふことが出来るであらう。

第五章 歐洲革命

◇佛國革命運動 一八四八年の歐洲革命に先つて佛蘭西に於ては、既に社會主義思想の精花が爛漫として咲き誇つてゐた。前章に於て略序した外に、社會主義の哲學者 Pierre Leroux あり、トラヂシヨナリストに屬する基督教的社會主義者 Lamennais あり、更に進んでは歐洲革命に活躍したる國家的社會主義者 Louis Blanc 無政府的社會主義者 Proudhon 等あり、社會主義の思想は既に其最高點に達したと言つても可い位である。女流作家 Georges Sand がビエル・ルルウに師侍して深く其感化を受け、自ら多くの社會主義的小説を創作せしことは周知の事實である。(Jaurès, *Histoire Socialiste*, Tm. VIII. 470-490)

此の如く盛んな準備的思想運動が行はれた結果、一八四八年の歐洲革命は先づ佛蘭西に於て爆發し、其佛國に於ける革命的施設も亦社會主義的であつた。抑も一八三〇年の七月革命の爲

に反動的専制主義が敗北して自由主義者が勝利を得るに及び、其勝てるブルジョア自由主義者自ら利害を異にした巨多なプロレタリア階級が、其政治組織の圏外に溢れて出た。七月革命に政權を握つたオルレアン王朝の政府は、専ら意を内政殊に財政、産業に用ゐたのであるが、然し其根本的社會組織が既に資本主義制度に代つて居たので労働界の惨狀は益々其度を高めた。そして彼等が努めて外境の兵戦を避けたに係らず、領土擴張の世界的競争から脱出することが出来なかつた。其上或はブルボン王黨が起つたり、或は共和黨の陰謀があつたり、世の中はこゝも靜平ではなかつた。偶々一八四六年から其翌年に亘つて、凶作と饑饉とが次で襲來し、貧民は諸方に蜂起した。共和黨革命結社の運動に加へて、社會主義者も活動を開始した。ルイ・フィリップ王は首相ギゾオを免じてモレ伯を徴したが伯は之に應じなかつた。軍隊は亦民群に應じ、民群は王宮を襲ひ、議院を罵つた。議院は乃ち形勢の迫つて來たことを看取し、直ちに王政を廢して假政府を組織した。此革命は一般に豫期せられなかつたことで、共和黨や社會黨の運動があつたとは言へ、其れは極めて微力なものであつた。然るに軍隊が出勤して民衆と砲

火を交ゆるや、民衆は俄かに忿激し、二日目には革命政府が成立して了つた。かくて社會主義者ルイ・ブランは其假政府の一員となり、又、ブルウドンや、ラムネエヤ、ビュシエ等の社會主義者が民選議會に選出された。(Ch. Seignobos, Histoire politique de L'Europe contemporaine, 142-149)

此革命に於て、佛國労働者は、普通選舉制、労働組合權、言論、集會の自由、其他の權利を獲得した。然るに彼等は未だ其權能を實行するの準備と資力と時間とを有せなかつた。そして徒にブルジョアの乗する處となつて、是等一切の權能を再び奪ひ還へされて了つた。一八五一年のルイ・ナポレオン政府のクウデタは即ち其反動の成功を示したものである。右の革命運動の社會主義代表者として、ルイ・ブランとブルウドンは最も傑出した二人物である。そして此二人物は近世社會主義史上に重要な地位を占めるものである。

◇ルイ・ブラン Louis Blanc は、一八一二年十月二十八日に西班牙マドリッドに生れた。

兩親は佛人であつたが、同地に住居したのである。ルイ・ブランは、父の郷里であるコルシカで少年時代を經過した。これから、ロデエの専門學校に修業し、更に其業を續ける爲に、一八三〇年巴里に赴いた。然るに時の革命に際して父が瘞れるや、ルイは一時貧乏な生活をしなければならなかつた。最初筆耕や教師をして生計を立てたが、幾時ならずして文士として勢力を有する様になつた。一八三四年の『常識』(Le bon sens)の一記者となり、三七年に主筆となつたが、其翌年に鐵道國有を主張して同紙持主と意見が合はず、遂に退社して了つた。彼は又、諸種の急進的新聞に寄稿してゐたが、一八三九年には『進歩主義評論』といふ新聞を發刊して之を最も進歩した民主主義者の機關とした。彼の最大の社會主義的著作たる『労働組織論』(Organisation du travail)は一八四〇年に初めて此紙上に掲載されたのである。此論文は後に一冊として發行されたが頗る世の評判になり、一八五〇年には第九版を發行した。又彼の『十年史』(一八三〇—四〇)第一巻は一八四一年に公にされ、一八四四年に第十六巻に至つて完成した。此書は一八七四年には巴里に於て第十二版を發行した。ルイ・ブランは此十年間

の出來事に於て一人の立役者であつた。そして其歴史の内情を能く理解した。即ち彼は、此時期に於て、ブルジョアとプロレタリアとの懸隔が益々増大して行くのを觀察し、プロレタリアが政治的勢力を要求し初めたことを看取したのである。そして此發展の意義を評論した點が、普通の著述家の及ばない所であつた。『十年史』に次て更に歴史的大著作『佛蘭西革命史』(Histoire de la revolution [Française])がある。一八四七年から六二年に亘つて十二卷として發刊した。彼は此書中に於て、十九世紀社會主義者の眼を以て事實を評論したのである。(J. J. Thonissen, Le socialisme et ses promesses Tome II. 5-27)

ルイ・ブランは一八四八年の歐洲革命には重要人物であつた。彼は同年二月の假政府の一員となり、同僚たる Albert (労働者) 及び Ledru-Rollin (前國民議會員)と共に、政府をして多くの社會主義的法律を發布させることを企てた。そして『労働の權利』が宣言された。又労働の便宜を計る爲に『労働省』の設置を要求したが、同僚の多數の同意を得る事ができなかつたので、彼は自ら辭表を提出した。然るに種々な誘引があつて、彼は遂に辭表を撤回して無權

カナリユクサンブール委員會の會長たることを承諾することになつた。政府は「國立工場」(Ateliers Nationaux)の設立によつて「労働権利」の宣言に包含した所を實現すべしとの口實を作つた。宰相等の眞實の目的は、此實施を殊更失敗に歸せしめて、ルイ・ブランの「労働組織論」の趣意を不信用に終らせやうとすることにあつた。乃ち工務卿 Marie はルイ・ブランの最悪の敵である Emile Thomas を其工場の支配人たらしめ、トマは聽て其實験の結果を稱して、ルイ・ブランの設計が遂に大失敗に歸したこと、ルイ・ブランの所説の到底信すべからざることを報告した。此の虚偽の報告は幾度も公けにせられ、ルイ・ブランは其爲に非常に激昂した。其事件の眞相が一般に知れ渡るや、佛蘭西や日耳曼の労働者の心裡に多大の反感を起した。彼は公共の安寧秩序を保持する爲に労働者間に於ける自分の人望を犠牲にした程であるにも係はらず、五月十五日に於ける労働者蜂起の共犯者として告發され、逃れて白耳義に赴いた。それから更に難を避けて英國に行つた。そして一八七〇年にナポレオン三世の敗亡の時まで同地に住居した。其間、彼は著作をなし、又巴里の大新聞 "Le temps" の通信員となつて

ゐた。

一八七〇年九月八日に彼は佛國に歸つて護國政府の爲に盡力した。一八七一年二月八日、國會に選出されて極左黨を結んだが、巴里コミユンの勃發するに際して彼は又革命主義労働者の間に人望を失つた。それは彼が其叛逆に反對してヴェルサイユ政府の味方となつたからである。彼は其後も引續いて自己の思想の發表を評論に勉めたが、一八八二年十二月六日カンヌで逝去した。國會は彼の爲に名譽ある吊悼の決議を擧げた。

ルイ・ブランの社會哲學は「人生の目的は何ぞや」といふ問題から出發してゐる。彼は人類生存の目的は幸福と發達にあるとした。社會の組織は、各人をして其知力、體力、道德の最大成長を遂げ得べき確乎たる手段を享有させるにある。然るに現在の社會は各人に對して其要求を充たさせない。其れは現在の社會が生存競争主義を以て成立してゐるからである。故にそれを改革するには、現在の私有財産制度、個人競争主義を棄て、友愛を以て最上原理とした労働新組織を樹立せねばならぬ。友愛は吾々が皆一大家族の一員たることを意味する。人の作業

は神の作業たる人體を模範として、組織されなければならない。『困窮は人の知識を暗黒に導き、教育をして忌はしい小範圍に制限する。若し困窮が永續すれば、此に犯罪が生れ、奴隷が造られるであらう。盜賊、暗殺、賣淫の大部分は皆是から生れる。』之を救済する第一歩は勞働を得る確保を各人に與へることにある。之に備へるのは國家の義務である。

個人産業の絶止は漸次に行はれるであらう。公設市場は漸次に創立され結合せしめられ、遂に大聯合を成し、而して相互に保險を成立して一方の損失は他方の利益を以て補償する。此目的を遂げる爲に全體の利益の一部分を貯蓄しなくてはならぬ。資本家は是等の結社に加盟するを許さるべく、又加入して勞働する時は其投入した資本に對する利子の外、勞銀を拂はれる。此大合同の利便を有し、但利子（國家の資本に對し）を支拂ふ事が無くて作業する社會的工場と一人の工場と競争する時は、私人の事業が敗北に歸するは明で、資本家等は其敗北を待たずして之に加盟するに至るであらう。然らば何事も法律的強制を要せずして總ての産業は國家事業に歸すべく、社會主義的國家は茲に成立するであらう。

分配法に就き、サン・シモン學派は、報酬は勞働の度に従ふとしたが、ルイ・ブランは之を以て私慾的であつて、弱者と愚鈍者とに苛酷であるとなし、財産分配の標準を「平等」に置かないで「必要」に置いた。そして「生産は各人の才能に従ひ、消費は各人の必要に従ふ」と言つた。(J.J. Thoinissen, *Le socialisme et ses promesses*. Tome II)

◇ブルウドン サン・シモン及びルイ・ブランの社會主義的設計では強權主義を以て顯著な要素とした。フウリエは明かに強權主義を拒否しないで、却て強權の支配を受けるに至るやうな組織を立てた。此に於て、佛國の社會主義は尙發展の餘地を存したのである。即ち、絶對的自然的個人主義と、經濟的公平の理想とを、一致させやうといふ事業は、未だ何人も企てなかつた問題である。是は明かに正反對の事を含有しないであらうか？ 個人主義的社會主義、或は社會主義的個人主義といふ様な事が果して存在し得るか？ 綜合主義と無政府とが同一の人民團體を占有し得るか？ 是等の兩主義は相互に他を排斥しないであらうか？ 結局は果して

如何？ 此問題の解決を企てたものは即ちプルウドンである。プルウドンは、眞理は此兩極端の結合から生れると考へた。

Pierre-Joseph Proudhon は、一八〇九年七月十五日にブザンソンに生れた。彼の父は桶屋で、母は伶俐な強壯な田舎娘であつた。彼は平民の家に生れたことを自ら甚だ便利として人にも之を語つた。彼は少年時代に一家の生計を助ける爲に農業労働を営み、殊に父がジュラ山上に牧畜を営んでゐたので其牛守を自分の努めとした。それから彼は小學校に入り、進んで専門學校に上つた。彼は非凡な才能を發揮し、多大の褒賞と名譽とを博し、公立圖書館は彼に書籍の閱覽を特許した。十九歳の時、彼は父を助ける爲に専門學校を退かなければならなくなつた。そして活版業を習つて或る有名な書店の校正員となつた。そして彼の爲には、此處は一種の學校となつた。其書店では多くの神學書を出版したが、彼は其校正に際して非常な注意を以て之を精讀し、其結果、彼は神學校出身の人かと想像される程之に通ずる様になつた。又書店が翻譯付バイブルを出版した時、彼は之に依てヘブライ語を學び、其結果カトリック百科全

書に數種の神學的論文を寄與した程であつた。

一八三九年、彼はブザンソン中學から千五百法の年金を支給されることになつた。此年金は、文學、科學、獎勵の爲に設けられたもので、彼は其論文試験にも及第したのである。彼は此頃から、自分の生れた都市に於て印刷所を設立したが、餘り繁昌するまでにならなかつた。彼は當時既に神學、生理學の外に經濟學の研究をした。此新たなる研究に就ての最初の師匠は有力な經濟學者たる Pellegrino Rossi であつた。かくて其經濟學研究の結果は、一八四〇年の著作『財産とは何ぞや』(Qu'est-ce que la propriété?) となつて現はれた。(E. Fournière, Le règne de Louis-Philippe, 462-470)

此書は社會主義の歴史上に於ける劃時代的著作であつた。此書が第一に排撃したものは私有財産制度である。『財産は盜奪なり』との一語は此書に於て最も強烈に主張されたもので、爾後の社會主義者、社會批評家に、批評の模範を垂れたのである。然るに彼は所有權制度に對する敵であると同時に、共產主義に對しても亦強敵であつた。『共產主義者は、友愛……といふ岩礁

に、活動も感情も有せず、きし／＼附着してゐる牡蠣の様なものだ。……因襲的所有權思想から出た憐れむべき共產主義は、勞働の厭惡、生活の倦怠、思索の絶止、自我の死、空無の肯定である。……：共產主義は私有制度の變形である。』こは彼の主張する所であつた。第三に此書の重要な所以は、大ていの近世社會主義的諸學派が皆此から出發したといふ一事にある。現時の佛蘭西無政府主義思想はよく此書中に表はされてゐる。又マルクスの價值論、勞働搾取論等も能く此書中に表明されてゐる。マルクスは些か其説を發達させたとは言へるが、併し其最も重要な原理は明かにブルウドンの財産論中に包容する所である。

「財産は盜奪なり」の一語は、ブルウドンの發明として世に驚かれ、ブルウドン自身も此發明を誇つて居るが、併し、其よりも久しい以前に同様の語を表した人がある。其れは一七八〇年に「財産權と盜奪」に關する哲學的考察』(Recherches philosophiques sur le droit de propriété et le vol)を著した ^{Brissot de Warville} Brissot de Worville である。彼は此書に於て、「財産は自然の盜奪である。財産所有者は盜奪者である」と言つてゐる。

一八四六年、ブルウドンは又「貧困の哲學」(Système des contradictions économiques ou philosophie de la misère)を著した。此書は前の「財産論」に次ての重要著作である。彼は此書に於て、サン・シモン主義、フウリエ主義等に反對し、ルイ・ブランの説にも反對した。彼はサン・シモン主義が、勤勞に應じて報酬するといふのに反對し、之は不公平であり且つ實行し難い思想だを見做した。蓋し彼は「平等」を以て其考案の柱石とした。吾々の進むべき最高の社會は「自由」の社會でなくてはならぬ、と考へた彼は「自由は平等を意味す。蓋し自由は社會全體が完全に平等な場合にのみ實現さるべきものであるからである」と論じた。彼は又フウリエ説に反對して曰つた「フアランステエル信者等は、其社會を建設しやうとはするが、而も其勝手元を造ることの出来ない大人物のすることである。』と。そしてフウリエの自由戀愛論に共鳴するのは娼婦ぐらゐるものであらう、と批評してゐる。ルイ・ブランに對しても亦手厳しく批判してゐる。曰く「ブラン氏は其經濟學に於けると同じく其論理學に於ても極めて幼稚である。彼の解釋する所は其何れに於ても恰も色盲の如きものである……彼の共

和説はたゞ偏見の雜然たる綜合に過ぎない……プラン氏の所説の如く、しかく空虚な、しかく不得要領な思想に對して、さうして駁論することが出來やうか？『Le socialisme et ses promesses. 32-35』

一八四五年、獨逸社會主義者等は、當時の佛國社會主義者等の思想や人物を研究する爲に其同志の一人 Karl Grün を佛國に送つた。論理的な無神論者であり、熱烈なる革命家であつたグリユンは巴里に急いだ、行つて見て甚だ失望した。それは同地の社會主義者達が何れも讓歩的徹底的であつたからである。然るにグリユンが絶望して當に故國に向つて出發しやうとした刹那に、彼は偶然一人の全然新しい自由思想家を發見した。それは當時マザリン町に生じた孤獨の隱者たるブルウドン其人であつた。グリユンの喜びは非常なものであつた。彼はそれから數月の後、其訪問に就て頗る自慢らしく書いてゐる。『レッシングやカント以來、此世に於て最も賢い最も徹底的な人物である此人（ブルウドン）の一種の個人教授であることに就て私は無限の喜びを持った。私はそれが絶大の効果を齎すであらうことを希望する。ライン

河を隔てた兩國に於て、最早唯だ一個の社會科學しかないであらう』(Le socialisme et ses promesses. 30)

*

*

*

◇英國チャアチストの運動 歐洲大陸に於ける革命の勃發は、英國チャアチストにも大なる刺戟を與へ、彼等も亦大陸に應じて大活動を開始した。茲に些かチャアチスト運動の歴史を略序して置く。

一八三八年、一の労働者代表會議が開かれたが、此代表者會議は、労働者が必要とする政治的改革の一綱領を制定した。其時、愛蘭志士 O'connor が演説をしたが、其際に此綱領を呼んで Charter (認許狀) と云つた。之より後、此綱領を宣傳するに常に「人民の認許狀」といふ語を用ゐ、其賛同者をチャアチストと呼ぶ様になつた。此チャアタアに記載された有名な六ヶ條は左の如くである。

一 總ての成年男子に選舉權を與へること。

- 二 選舉區を平等にする事。
- 三 投票を無記名とする事。
- 四 議會は毎年開く事。
- 五 衆議員の資格に財産上の條件を廢止すること。
- 六 議員に報酬を給すること。

此チャアタアは各所の労働者が非常な感激を以て歓迎した。此チャアチストの運動に現はれた著名な人物には、オーコンナア、ロヴェット、クリイヴ、オーブライエン等がゐた。一八三九年六月、殆ど百三十萬人の署名せる請願書は鐵環を以て束ねられ、四人の男子に擔はれて衆議院に提出された。然るに衆議院は大多數を以て之が討議を拒絕した。そして豫期の如く政府と人民との關係は軋轢甚だしきに至つた。公けの集會は禁止され、暴動は屢々起つた。ウエールスのニューボオトに於ては、其領袖の一人を獄裡から救出するの計畫があつた。此計畫は忽ち發覺して、之に加擔した三人の地方領袖は直ちに死刑の宣告を受けた。(内一人は實に地方長

官であつた。)そして其宣告は次で流刑に変更された。

此様な煽動は一八四八年の革命に至るまで勇敢に持續された。そして總ての大産業中心地に於て、人民の蜂起が危惧される様になつた。ロンドンは實に不安の中心點であつた。一八四八年四月十日、ケンミンソンの公會堂に於て一大集會が催され、五十萬の労働者が之に出席すべしと期待された。六百萬人の署名したチャアタアの請願書を衆議院に提出する爲に一大行列が組織されやうとした。蜚語流説が紛々として傳はり、當局者は爲に驚駭し、行列は禁止された。ウエリントンと幕下の軍隊は召集され、集會を壓倒せんが爲に、大砲までも裝置されるに至つた。二十萬の市民は俄かに警察吏として登録された。かく總ゆる威嚇が行はれた爲に、公會堂の集會も豫期の如く大ならず、又重大な衝突も起らなかつた。出席者は僅かに十萬人足らず、意氣漸く銷沈、行列進軍も中止となつた。そして彼の有名なるチャアチストの運動は此に全く終末に歸した。(Seignobos, Histoire politique de l'Europe contemporaine, 48-50)

彼等の綱領は更に議會の改造を目的とした。是によつて政治家をして労働階級の改善に心を

傾けしむることが出来るに信じたのである。そして經濟組織其もの、改革に關する積極的考案を持つてゐなかつた。そして一方に於ては、工場法は規定され、労働組合は起され、共働事業に意が注がれ、穀物條例は廢止され、かくて労働者の境遇は漸く改善されて來た。加ふるに、此時に當て、米國や、ニュウジイランド、オーストラリヤに於ける金礦が発見され、労働者の新活路は開かれ、英國の經濟状態は頗る好望なるに至り、チャアチスト運動の第一動機たる平民の困苦は頓に回復の光明に照された。そして積極的改革案を持たない彼等の運動は俄然として崩潰して了つた。

◇獨逸の青年學徒 一八四八年から其翌年に亘つて革命運動は、獨逸諸國に於て最も騒亂を極めた。維納や伯林に於ては、一時其保守的專制政治を撤去し、專制主義の盟主メッテルニヒは國外に逃れ、フランクフルトに獨乙國民會議を開き、國民議會の設立や、獨逸憲法の制定を約したが、改革運動者等の間に一致を缺き、明白な共同目的を握つてゐなかつた。そして徒ら



に動亂したので、却て再び保守的專制主義をして勝利を得させるに至つた。

當時、獨逸の思想界を支配したものは、青年ヘエゲル學徒の人道主義又は人道的共產主義であつた。青年ヘエゲル學徒の領袖ルックルックは革命勃發以前にマルクスやバクニン等と共に、巴里に居たが、當時の佛國社會主義の大家カベエを訪問した際、語つて曰く「私や私の友達は、未だ共產主義の問題に親しんでゐない。従てまた其運動も始めない。獨逸にも共產主義者はあるが、共產主義的政黨は未だ存在しない」云。當時尙ほ政治的自由を渴望してゐた彼等は、未だ社會主義運動にまで思を及ぼすことが出来なかつたのであらう。

抑も急進的ヘエゲル學徒が共產主義に進んで來たのは主として其人道主義の感化に依るのである。そしてヘエゲルの理想主義を轉じて人道主義を樹てたのは實に彼の Feuerbachフオイエルバッハである。彼はヘエゲルの超然的理想や「超越世界」の考へを排し、「天」も「神」も唯だ主觀的幻像に過ぎないとした。彼は人——即ち考へ、且つ感ずる處の、具體的の肉と血との人のみを實在であるとした。フオイエルバッハは自己の心の發展の狀を語つて「神は私の最初の思想であつ

た。理性は其次、人は第三で又最後である」と言つてゐる。彼は又曰つた「貴族等も神と同様の運命を持たねばならぬ。思想界に於て、神學が人類學に溶没するのは、それは政治界に於て、君主制が共和制に溶化する所以なのである。」彼は決して共產主義者ではなかつた。彼は其主義が、唯我主義でも共產主義でもなく、兩者の一致であることを宣言した。そして彼は人類の本質は「社會人」であると言つた。(Rae, Contemporary socialism)

青年ヘゲル學徒の人道主義は當時非常な勢力で獨乙の労働者の間に傳播し、或者は直ちに共產主義に赴いて革命を望み、或者は人道主義を以て革命に走つた。Wilhelm Marr や Wilhelm Weitling は實に其著名な人物であつた。Marr はフオイエルバッハの「基督教本義」を日常の伴侶とし、人道主義の意見を貫徹する爲に一の秘密結社を創立した。それは「青年日耳曼」といふのであつた。併し、Marr は人道主義者であつたが、共產主義者ではなかつた。「共產主義は意思の虚弱を示すものである。共產主義は自己に對する確信を缺いてゐる。彼等は社會的壓迫の下に困苦しても、自身を解放すべき武器を探求しやうと思はず、却て慰安を

求めて彷徨する。これは唯、幻想的生活を慾求する世俗的風習に過ぎない」とは彼の論ずる處であつた。

然るにワイトリングは全然共產主義の信者であつた。彼はマグデブルグに生れ、裁縫師を業とした。彼は獨乙に於ける最も古い共產主義宣傳者で、其主義宣傳の爲に、獨逸全土を旅行し、獨逸共產主義の父と稱せられた。「私は新約聖書を讀んで共產主義者になつた」とは彼の常に告白するところであつた。彼の思想は主としてフウリエヤ、カベエに依て育まれた様に思はれる。

一八四三年にルウゲヤバクニンと同様に巴里に來たマルクスは、ルウゲと共に「獨佛年報」を發行したが、共產主義に就て編輯局間に異論を生じ、そして幾時もなく廢刊して了つた。そこでマルクスは「前進」といふ雜誌を發行したり、諸新聞に寄稿したりして猛烈に普魯西政府の攻撃を續けた。普魯西政府は之を見て非常に怒り、巴里のギゾオ内閣に迫つてマルクスを巴里から放逐させた。マルクスは巴里を追はれてブルッセル市に赴き、此處で「自由貿易論」(Discours sur le libre échange. 一八四六年)や「哲學の貧困」(Misère de la philosophie 一八

四七年)等の小著を公けにした。然るに此著は専ら英佛の共產主義と獨逸の哲學とを酷評したもので、其批評は計らずも當時獨逸労働者間に組織されたる「共產主義同盟」の秘密教義に對する破壊の宣言のやうに感じられた。此に於て、共產主義同盟の倫敦中央部はマルクスに交渉して之に加盟せんことを求めた。かくて一八四七年に倫敦に開かれた同盟總會にはマルクスも出席し、此總會に於て始めて彼の有名な「共產黨宣言」を採用させることになつた。此宣言がマルクスとエンゲルスとの共作であることは世間周知の事實である。かくて一八四八年の革命が勃發するや、マルクスや、エンゲルス等も、匆卒故國に歸り、同年六月一日ケルンに於て「新ライン新聞」を發行し、激烈にプロレタリア革命を煽動した。然るに翌年五月にドレスデンの一揆が起つて、同新聞も禁止命令に接し、六月十九日の終刊號を以て遂に廢止して了つた。

以上の大紛亂が佛國以外に生んだ直接有形の結果は、國粹主義、民族主義の勝利として、伊太利や獨逸の統一と獨立との端を開き、匈牙利の獨立を強固にしたといふ諸點にある。併し其

無形の結果としては、一般歐洲人をして自由主義の意義を了解せしめ、專制主義者をして其專制組織が到底舊狀の儘では維持することの出来ないことを看取せしめ、更に社會主義、共產主義の思想を歐洲全土に普及せしむるに至つた。以上の外、社會主義史上に最も重大なことは、東部歐洲諸國に於て、プロレタリアが明白にブルジョアと對立して現はれたこと、及び獨逸其他の國の社會主義亡命者が諸國、殊に米國に落延びて、そこに社會主義の種を播いたこと、是である。此革命に與つた獨逸の自由主義者等は、或は死刑、或は禁錮刑に處せられた者が多かつたが、難を國外に避けた者は更に多かつた。一八四九年に瑞西に於ける獨逸亡命者の數は、實に一萬一千人の多きに達したといふ。其多くは米國に移住して、有力な社會主義宣傳者、闘士となつた。彼のキルヘルム・ワイトリングの如き、又體操俱樂部の人々の如き、其最も有名なものである。

マルクスは、エンゲルス等と共に發行せる「新ライン新聞」の禁止に遭ふと同時に、革命の到底成功しないことを洞見して倫敦に赴き、是から十數年間、専ら心を讀書と研究とに傾け

た。バクニンは、ドレスデン叛逆に與し、ツェック人の叛逆を助けて墺國政府の爲に捕へられ、更に露國政府の手に引渡されて、遂に西比利亞に追放された。バクニンがシベリヤを脱走して日本を経過し、米國を横斷して再び歐羅巴に現はれたのは一八六〇年頃であつた。そして彼の第一インタナショナルに於てマルクスと論争を開始するに至つた。

第六章 國際勞動協會及巴里コムミュン

◇國際勞動協會の先驅史 一八四八年に於ける歐洲諸國の革命運動は、自由主義の名に於てブルジョア階級の權力を伸張するに止まつた。此世界的革命亂に活動した諸國の志士は、或は北米合衆國に渡航して此處に自由の生活を求めた者も多かつたが、或者は英國に避難所を設けて本國の革命運動に策應した人も少くなかつた。伊太利の傑人マデニの如き、獨逸社會主義の祖師マルクスの如き、其錚々たる人物であつた。

碩學 Elisee Reclus (英國へ亡命した一人)の記す處によれば、伊太利や、西班牙や、佛蘭西や、バアデンや、ポオランドや、露西亞から、倫敦に亡命した革命家は、互に扶け合はうといふ考で會合した。言語や習慣の相異、野心の衝突等の障礙があつたに係らず、一種不思議な歐洲聯邦政府の様なものが出来上つた。是れは純然たる政治運動に過ぎなかつた。然るに此諸

國名士達の聯合よりも、一層重大な一インタナショナルが出来てきた。其れは無名な労働者間に自發的に發生してきたものである。『此事業の發端は、極めて些細なもので、見わけも付かぬ程の、そして數々の起原を持つた、宛も大木の細毛根が極めて遠方にまで伸びて居る様なものであつた。インタナショナルを準備して居た社會主義團體は、一八四八年以前にすら、幾つも存在したのである。然るに或る一派の虛榮心(是れはマルクス、エンゲルスの一派を指すものならん)は自分達が此運動に決定的衝動を與へたといふ名譽を擔はうと計つた。』……兎も角も、こうして出來た「國際協會は、「労働者の解放は労働者自らによる外、行はれない」といふ趣意を以て總ての労働者に對して、總ての権力階級、總ての特權階級に對して戦はんことを慫慂した。』(Elisée Reclus, L'Homme et la terre, Vol. V. 227-229)

一八四三年に佛國の才媛フロラ・トリスタンが「労働者同盟」(Union Ouvrière)を著し、労働者の國際的團結を宣傳し歩いたことは、既に前章に序述した通りである。露國シヨルジャの「命者」Tcherkeeff 公は、其著「インタナショナルの先驅者」(Precursseurs de l'inter-

nationale)に記して曰く「命者等(一八四八年倫敦に來た)は早速に相談を整へ、最初の社會主義的インタナショナルが組織された。其協會の要求は、全然社會主義的であつた。そして其爲に政治的大革命家マジニの非難を受けた程であつた。此に於て無政府主義者 Joseph Desjardins の新聞「自由主義者」(Le libaire 一八五九年第十號)は、此伊太利大革命家に對する「國際社會民主協會」の抗議を掲げた。そして、此國際協會の名に於て、之に署名した者は、其主事たる J. Makey & Brichard, F. Girard, J. F. Clarke, J. Daminey, A. Herben, C. Young, N. Ulrich, Cranier, Calay, L. Fobes 等であつた。同「リベルテール」紙十三號には、會則の變更が載つてゐる。……今私の言ひたいことは、唯だ國際的團結の新思想を持つたドジャックの新聞と、國際社會民主協會の存在とが、彼のボナパルト政府の酷烈な迫害の下に於て、既に佛國に於て廣く傳はつてゐた、といふことである。ブルウドンの言に隨へば、一八四九年には、佛國人の半ばは社會民主主義の味方であつたと言ふことが出来る』(Tcherkesoff, Precursseurs de l'Internationale, p. 142-143)

◇第一インタナショナル 以上の如く國際労働協會(International association of working

men)は既に思想の上に廣く準備せられ、微力ながら、組合そのものも既に存在した。そして國際運動勃興の機運は充分に看取せられた。偶々「一八六二年、倫敦に於て萬國博覽會が開かれ、佛國労働者は、自ら代表者を選んで其博覽會を訪問せしめた。此訪問は佛國皇帝が自ら認許し且其費用をも支出したもので、巴里の重なる新聞紙は、之は單に労働者をして博覽會に於ける産業上の出品を會得せしむるのみでなく、實に國際的不和嫉妬の舊い原因を此兩國間から除去する所以であるとして、大に此舉を稱讚した。佛國の代表者が英國を訪問してゐる間、英國の同志は彼等を招いて頗る歡待した。そして此席上、労働者の利害は双方共同共通のものであるから、其地位を向上させやうと思ふならば、須らく共同の運動をせねばならぬ、この意見が主賓兩者の間に交換された。之が抑も彼の有名な國際労働協會の發起される動機であつたこと云はれる。然し、一八六四年九月二十八日、倫敦の聖マルチン會館に國際労働會議の開かれる

までは、未だ何事も確定したのではなかつた。聖マルチン會館の大會は Beesley 教授が之を主宰し、マルクスなども出席した。此會合に於て經費の據出を計つたが、集まつた金額は僅かに三磅であつた。』

「會則起草の事業を最初擔任したものは伊太利の革命家マヂニであつた。然るに此伊太利愛國者の思想は、世界的労働團體創立の事業には少しく不適當であつた。彼は熱心に階級闘争論に反對し、其經濟的思想は些か曖昧であつたといふ。此に於て規約起草の任は急進的なマルクスに轉じ、彼が起草した創立趣意と規約とは、委員會大多數の贊同を以て採用する所となつた。』

「其會則の序文は暗々裡に世界的社會主義の主要原理を包含する。其中に曰ふ、労働機關横領者に對する労働者の經濟的服従は、是れ一切の束縛の原因である。社會的慘劇の原因である。精神的墮落、政治的頹廢の原因である。「労働階級の經濟的解放」は、各種の政治運動を超越した大なる眼目である。労働階級の解放は、地方的でなく、又國家的でなく、唯だ最も進歩した

諸國民の一致の努力に依て決せらるべき社會問題である』(Kirkup, History of socialisme, p. 178-181)

「一八六五年、協會の憲法を制定するために其第一回の總會を白國アルッセルに開かうとしたが、不幸にして白耳義政府が之を許さなかつたので、總務局は倫敦に一會議を開いて之に代へた。一八六六年九月に始めて大會をジュネエヴに開いたが、其時の出席者は六十名であつた。マルクス起草の憲法は此に採用された。併し、其宣言中の「労働者の經濟的解放」とは、協會員の地方的差異に於て種々の意義に解せられるであらう。英國労働組合員に對しては賃銀の向上を意味し、露國革命黨に對しては皇位と一切の中央政權との顛覆と、自治共產社會主義組織の建設を意味し、佛國一部の協會員には土地(自作農所有地を例外として)と債權の國有を意味し、そして獨逸社會主義に對しては、賃銀制の廢止、土地及び生産機關の國有、工業、商業、財政、農業に關する國家の絶對的主宰、ギルド及び生産團體に對する土地、器具、及び材料の分配を國家事業とすることを意味したのである。此大會は、憲法の決定の外、尙ほ種々

な決議をもしたが、就中、八時間労働制要求案、労働階級教育法、等は蓋し主要なものであつた。彼等の主眼とする處は、自由なる労働組織である。そして此目的の爲に國家の權力を資本家地主から労働者に交付するにある。』

「此協會から知識的プロレタリアを除外すべしとの佛國代表者の提議は頗る興味ある議論を沸騰せしめた。此種のプロレタリアは果して労働者中に算入すべか？ 此階級に屬する野心ある演説家や、煽動家等は最も多くの禍害を醸した。併し、他方に於て、彼等を社會主義運動から除くことは、最大の指導者を労働階級から奪ふことになる。且つ此知識的労働階級が資本の壓制に苦むことは労働者と異ならない。此に於て、知識プロレタリア除外の動機は否決されて了つた。』(Kirkup, History, 182-184)

自治的無政府的インタナショナルと、政治的強權的インタナショナルとは、既に最初から龜裂を持つた儘合同して居たのである。

一八六八年九月、白國アルッセル市に開かれた第三回大會は、曾て協會の趣意書中に暗々裡

に包含されてゐた總ての社會主義的原則が、最も明白に現はされる様になつた。此大會出席者は、英、佛、獨、白、伊、西、瑞西等の代表者九十八名に達した。

「恰も此時、普佛間の紛争が危急を告ぐるに至つたので、大會は激烈な宣言を發した。此紛争は露國の幫助に因る一種の私戦であるを非難し、更に勞働者に告げて、一切の戦争は組織的殺人として之を拒否すべしと言ひ、又、戦争に際しては世界的ストライキを斷行すべきことを勸告した。此戦争に對する同盟罷業に依つて萬國の勞働者を團結せしめ得るを信じたのである。」
(Kirkup, History, p. 185)

一八七〇年、國際勞働協會は從來革命思想のホームであつた巴里に於て、其例年大會を開催しやうと決したが、適々普佛戦争が爆發したので流會になつて了つた。併し、此戦争は、國際勞働協會の主義を世界同胞の眼前に著大なる事實たらしめた。曩きに一八六六年の普墺戦争に際して國際協會は之に激烈な非難を宣言したが、今や倫敦總務局と佛國及び獨逸の各支部とは、共に相應じて此暴舉の再發に向つて嚴肅な抗議を試みた。

普佛戦争に依つて始めて世界に有名になつた國際勞働協會は、其普佛戦争に際して起つた巴里コムミュンに依つて更に世界恐怖の的になつた。

◇巴里コムミュン 一八七〇年十月、獨逸の包圍軍が尙猛烈に活動して居た時から、有名な革命家 ^{フランサ}Blanc を首腦とした陰謀團はブルジョアの支配權を顛覆するの目的を以て既に準備に忙はしかつた。包圍が解けて、ブルジョアの軍隊が其武器を棄て、其隊を解くやプロレタリヤは忽ち其武器を占領した。殊に其大砲を領有した。これは實に社會主義者が待望して居た一大好機會であつた。巴里の武装を解除しやうとする新大統領チエール(ナポレオン三世は戦敗と同時に退位した)の計畫が失敗するや、否や、一揆は直ちに之に乗じて一大叛逆となつて表はれた。そして一八七一年三月十八日コムミュンの宣言を發した。其幹部は主として國際勞働協會の會員を以て組織し、そして其實行的權能は彼等の掌中に歸した。其領袖の重なる者は Flourens, Felix Pyat, Assi, Delescluze, P. Grousset, Generali Cluseret, Dombrowski,

Arnould, Valles, Blanqui 及び Rochefort 等であつた。巴里の護國軍の大部分は Belleville 及び Montmartre 司令部と共に一揆に與する事を宣言した。三月二十六日に自治政府員の選舉を行つたが十八萬の投票があつた。ヴェルサイユに在る共和政府は一揆を鎮壓せんが爲めに軍隊を送つた。此軍隊はマクマホン將軍の司令の下に巴里市を包圍した。四月五日一揆は巴里の正僧 Dudoyn 其他を捕縛して之を敵人として遇した。一揆は茲に其主義として、政府を廢止し個人の自由を絶體的ならしむる事、一揆内の國籍的分派の間に一種の聯合を立つる事を宣言した。現在の資本所有者は補償を受けて其所有權を拋棄すべく、土地と資本とは總て之を勞働團體に分配すべき事に決定した。かくて明白に社會主義的な立法は採用され、契約の停止、賃賃制の禁止、生産機關の收用等の事項は、法規として發表された。更に此に興味ある一事は此自治體が、對外戰爭を好機會として起されたに係はらず、其運動の精神が世界的性質を著しく表明して居たことである。あの普佛戰爭といふ排外的鬭爭精神の激發した時に當つて、其市會に於て、其行政廳に於て、又其軍隊の司令部に於て、多くの外國人が存在したといふことは、

頗る驚異に値すると言はねばならぬ。

自ら此運動に加つた碩學エリゼ・ルクリュは曰く「此時の巴里の様を見たる世界は、インタナショナルの宣言したる諸民族友愛の理想が如何に活ける事實となつたかを、驚異を以て實驗することが出來た。Eugene Pelletan ('La Presse' に論文を掲げ) や、Courbet の様な、文士だの美術家だのは、帝政時代に於て、彼の Vendôme 塔(此はナポレオンが獨逸征服を記念する爲に建てたもの)を破壊せよと叫んだが、巴里の人民等は、此高塔が記念する前敗北者(即ち獨逸人)と同情同感を以て之を破壊しやうと欲した。此敗北國民等(佛國民を指す)が往昔の勝利の記念塔を大元氣を以て倒壊し、然もそれが今度勝利した侵入者に媚びる爲てはなくて、却て自分等を襲撃したる同胞に對する友愛的同情と、兩民族の主動者や國王等に對する憎惡の情を表明する爲であつたことは、實に未曾有の驚異事であつた。コムミュンの活動は、當時代に於ては、其思想が甚だ高い進境に達したものと云はねばならぬ。」(Elisée Reclus, L'Homme et la terre, Vol. V. 238-240)

巴里の一揆と同時に、佛國內の他の諸都市に於ても亦プロレタリアの一揆が起つた。彼等はブルジョアジイの威力によつては破れなかつた。ブルジョアは其最初から既に人民に對して無勢力であることを表白したのである。そして諸都市の一揆は、ブルジョアジイの爲に亡ぼされたといふよりは、寧ろ尙ほ一段の徹底的經濟革命と勇氣を缺いた爲に失敗したのである。五月二十二日、遂に九萬の強兵が巴里に侵入し、こゝに一揆を侵入共和政府軍との間に五日間の市街戦を交へたが、其間、共和軍は多數の捕虜を殺戮し、一揆はダルボア僧正其他を射殺して之に復仇した。然も一揆は遂に力盡きて敗北し、一揆の與黨にして投獄せられし者二萬五千人、追放せられし者數千人、そして領袖は多く死刑に處せられた。佛國の社會主義運動は、此動亂の結果として一時崩潰せざるを得なくなつた。

◇國際労働協會の分裂 然るに巴里コムミュンは國際労働協會を消滅させる原因となつた。

第一に、英國の協會員は巴里コムミュンの叛逆的一揆を嫌忌した爲め、此時から協會を脱退し

て再び入つて來なかつた。マルクスの意見は、必ずしも單に暴動的革命のみを主張するのでは無い。労働者が、平和的手段を以て其目的を成就し得べき……米國、英國の様な國の存することは、之を否定することは出来ない。然しながら重なる歐洲諸國に於ては、暴力は革命の手段たることを要する。そして一朝時期が到來すれば、彼等は到底暴力に訴へなければならぬ」
 是は、一八七二年のハーグ大會に於て彼の語つた言である。然し、英國人の再び歸來するのを待たないで、協會は遂に自ら瓦解して了つた。即ち第一に、憤然席を蹴つてハーグ大會を棄て去つた一團の志士があつた。それは佛國のブランキストであつた。彼等は英國の會員とは異なつて同協會幹部が餘りに無力にして徒らに大言するのを憤つたのであつた。其脱退者中には Villant, H. Courmet, Anoine Arnaud, Marguerites, Constant-Martin, Krivier 等、ブランキストの諸名士があつた。次で殘餘者の同大會に於て、又、協會に致命的分裂を生じた。分裂の直接表面の原因は將來の社會の組織に關する意見の相違から來たものであると云ふ。(Zévaès, Le parti socialiste de 1904 à 1923, p. 244)

其爭論の問題は、改革の後に於て絶體的の中央集權、即ち國家權力を維持すべきや、又は廢止すべきや、にあつた。而して其爭論は、遂に國際労働協會の社會主義を調和すべからざる二陣營に分立させて了つた。二陣營とは何であるか？ 其一は即ちマルクスの指導の下にある中央集權的社會民主主義者であつて、他は則ち露國革命家バクニンを首腦とする無政府的自治的社會主義者である。マルクス派は主張する、綜合的財産と共働生産組織とを以て成立する社會主義の世は、萬能なる中央集權を以てするので無ければ到底之を建設し維持することは出來ない。其權力主體を國家と稱するも、總合體と稱するも、何と稱するも、其は吾等の問ふ所ではない。唯、萬般の事件を最後に處分すべき權能を有つて居れば可いのである。之に對してバクニン派は言ふ、其様な組織は、古代の專制や度と奴隸制度とを反覆して更に一層極端な形體を附帶させるものである。蓋し、彼等は「真正なる國家の組織は無政府にある」といふブルワドンの説を承繼したもので、其無政府とは無秩序といふ意味ではなくて、唯、帝國にもせよ、議會にもせよ、綱體的統治權を有つたものを存在せしめないことを言ふのである。彼等は労働

者の自治的團體組織に依つて財産を保有し、産業を實施することを欲したのである。そして其團體は、社會的又は政治的の強制に依るのではなく、各々自由任意に集合するものでなくてはならぬ。然るにマルクス派は之に對して又言ふ。是れは却て自由競争組織を維持して更に一層激甚ならしめ、そして此世界を最惡な紛亂の中に導くものである。此様な意見の分裂が、既に破綻に傾いてゐた國際労働協會を二派の團體に分裂させたのである。即ちマルクス派はバクニン派のジエームス・ギリヨムや、同大會に出席してゐないバクニンや、其一派の人々の除名を發議するに至つたのである。

クロボトキンの記する所によると「巴里コムミュンが爆發すること、國際労働協會總務局は倫敦で此一揆を指揮しやうと企てた……是れは協會内に一箇の統治體を造る所以であつて、コムミュンの人々に甚だ不便の感を懷かしめた。更に一八七一年の同協會秘密會議に於て總務局は協會を指揮して選舉運動に關係させることに決した。是れは實に如何なる政府も害惡であること信する人々を無視する所以であつた。無政府主義が、その第一閃を發したのは此時からであつ

た。】(Kropotkin, Memoirs of a revolutionist.)

Briss の「社會改良家辭典」(Social reformer's encyclopedia) に記する所によれば、マルクスは無政府主義の分子を壓殺するの必要を發見したので、一八七二年の總會を殊更にハーグに開催したものであるといふ。蓋し當時、無政府主義の張本バクニンは瑞西に居たので、此總會に出席するには、佛蘭西又は獨逸を通過せねばならず、そして若し一足此地を履んだならば、彼は直ちに捕縛せらるべき運命を持つてゐることを知つて居たからである。其結果としてハーグの大會にてはマルクス派が勝利を得て無政府主義者を驅逐して了つた。そしてバクニン派の陰謀を避ける爲に總務局を北米ニユウ・ヨオクに移轉した。然るにバクニン派は此ハーグ大會を否認し、一八七三年九月、真正なる國際労働協會を再設することを稱して其大會をジュネヱヴに開いた。マルクス派も亦時を同じうして同地に其大會を開いたが、局面は轉回して、今度はハーグ大會の正反對となり、バクニンは勢力の強大を示して遂に凱歌を奏した。かくてマルクス派の國際大會は之を以て最後として、第一インタナショナルの運動も茲に消滅した。

茲に國際労働協會及び巴里コムミュンに於けるブルウドンの感化を顧る。第一インタナショナルに於ては、創立當初から、マルクス一派とブルウドン派との間に議論があつた。そして最初の内はブルウドンの思想が大會の決議として現はれた。コレクチギスト即ちマルクス派が殆ど完全に勝利を占めたのは、一八六八年のブルッセル大會に於てであつた。然るに此時よりコレクチギストとアナルシストとの論争は明白となり、遂にマルクス對バクニン(ブルウドン派)の争となつて、インタナショナル其もの、破壊となつて了つた。次に巴里コムミュンに現はれた社會主義的思想と活動とは又全然ブルウドンの思想に基いたものであつた。そしてコムミュンの殆ど全員はインタナショナルに於てマルクスに反對し、ブルウドン主義を擁護した人々であつた。

第七章 無政府主義

一八七二年のハアグ大會に於て、マルクス派とバクニン派とが分裂して以來、國際労働協會は殆ど滅亡に歸した。マルクスは此時から全然革命運動の舞臺から退隱して倫敦に居住し、専ら「資本論」の著作に没頭した。バクニンも亦一八七三年のジュネーブ大會を最後として、伊太利ルガノに隱退し、後瑞西に轉じて一八七六年七月一日ベルンに逝去した。是より十數年の間は、バクニン派の無政府主義が勢力を占めて歐米の社會を震撼せしめ、マルクスの思想は長い沈黙の間に社會民主主義となつて漸く發達して來た。

◇無政府思想 無政府主義の思想が、近代に於ては、ヂドロやジャン・ジャック・ルソオから起り、ゴッドキンの小社會思想となり、フウリエの十着思想となり、プルウドンに至つて最も著しい名目となつたことは學者の認める所である。ルソオの「民約説」は、人民自治の究極的

形態として現はれた無政府主義先驅と言ふことができ、プルウドンの相互聯盟主義に基く「無政府的政體」は、「無政府」の名を始めて善き意味、讚美の對照に用ひたのである。又、英國に於ける無政府主義の開祖と稱せられるキリアム・ゴッドキンがルソオに負ふ所の多かつたことは前述の通りである。

プルウドンの説くところによれば、「無政府的政體」といふ言葉は矛盾した一對の意義を含んでゐる。しかし、これは唯言語の上に矛盾があるだけで、決して誤謬と云ふ可きてない。政治上に於ける無政府の思想は確かに合理的で且つ確實である。無政府制度に於ては、政治的職務は産業的職務の中に吸収され、其社會的秩序は單純な事務の施行によつて自然的に保持されるのである。此時に至つて、人々は始めて正當に、我は我が主權者である、と言ひ得るであらう。これは確かに専制君主主義の正反對な極端を表はしたものである」彼は無政府を民主制及び共產制と區別して曰く「共產主義とは總體が各人を統治することである。民主主義とは各人が總體を統治することである。そして無政府主義は各人が各人を統治することである」即ちプルウ

ドンは無政府を以て唯一真正なる自治政體であるとした。人民が其公共問題を處置するのは、恰も組合員が其組合事業を處置する様にすべきである、とした。

無政府の思想は、ブルウドンの筆によつて既に弘通されたが、之を實際的の革命運動の主義となし、更に無政府共產主義の名に於て獨立した思想運動とした功績は、多く後の佛露兩國の革命家に在ると云ふべきである。バクニン、クロボトキン、ルクリュ、ギリヨム等は、其最も著名なものである。そしてバクニンやギリヨムは、主として其運動を煽興し、クロボトキンやルクリュは主として其思想を開發した。ブルッセル新大學の主事ド・グレフ博士は、エリゼ・ルクリュ追悼演説中に曰く「此二人（ルクリュとクロボトキン）に依て、即ち最も平和的な、最も人道的な、些かの暴力行爲をなし得ない様な此二人に依て、無政府主義の教義は開發されたのである。實際あの二人は、私の生涯に會つて出會はない極端に優し過ぎる人達だつたと言ひ得よう」(G. de Greef, *Eloges d'Elisée Reclus*, p. 33)

◇バクニン Michael Bakunin は一八一四年に露國トルシヨフの貴族の家庭に生れた。彼

は軍隊教育を受けて砲兵士官となり、波蘭で其職に服したが、幾時ならずして當時の露國軍隊生活を非常に嫌惡するやうになり、一八三五年に哲學を研究する爲にモスコウに行つた。當時同市には既に政府反對者の團體が存立して改革の熱望が一般民衆の衷心から起つてゐた。殊にそれは學生間に於て最も熱心に研究され唱導された題目であつた。又、革命の先驅者たりしアレキサンデル・ヘルツェンや、革命文士ツルゲネフ等も同市に居て、皆な自由主義團體の一員であつた。そこでバクニンも亦其團體に加つて彼等と親交を結んだ。そして共にヘーゲル及びシヨオベンハウエル等の哲學を講究した。彼等の間に虛無主義の思想が懷胎したのは蓋し此時代であつた。一八四一年に彼は祖國を去つて獨逸伯林に行つた。そして當時青年ヘーゲル學派の一首領で無政府主義的思想を懷き、激烈に獨逸專制政府を攻撃してゐた Arnold Ruge と親交を結んだ。一八四三年彼は巴里に赴き、ブルウドン其他の社會主義思想に接した。ルウゲや、マルクスや、何れも當時巴里を訪問して共產主義の研究に没頭したのであつた。

其後彼はブラアグに於ける汎スラヴ民族大會に出席し(一八四八年)又、ライプチヒに於て

はツェック學生に革命を教唆し、更にドレスデンに於ける革命運動に参加し、(一八四九年)忽ち捕縛されて死刑の宣告を受けた。然るに彼が當に銃殺に處せられようとした夜になつて、突然墺太利政廳に引渡され、ツェック叛逆の共謀者として再び死刑を宣告された。恰も此時に當つて、露國が又彼の引渡を墺國に要求し、彼は三度轉じて遂に祖國政廳の手中に歸した。かくて彼はシュリユッセルブルグの堡塞に囚徒となり、二年の後、即ち一八五二年西伯利亞に送られた。然し、雄志勃勃たる彼は長くシベリヤに留まることが出来ないうて、白雪の曠野を逃れ去つた。日本を経て、太平洋を過り、北米の地を横斷し、大西洋を渡つて、一八六〇年に突如として倫敦に現はれた。そして一八六四年には、彼は從來唱道したスラヴ民族主義を非認して純然たる世界的革命主義を宣言し、更に其翌年、大いに革命運動を起す爲に伊太利に赴いた。それから國際労働協會に於けるマルクスとの對抗になるのである。そして自治聯合主義の唱道となり、無政府黨の運動の首腦となるのである。其事は前段「國際労働協會」の章に略序したから此處には省略する。

◇クロボトキン

Pierre Kropotkin は一八四二年露國舊都モスコウの貴族の家に生れた。

幼時には家庭教師に就て佛語獨語其他普通學を修めた。十六歳の時、聖ペテルスブルグの近侍修學所に入つた。當時露國青年間には既に新思想が横流し、修學所に於ても亦新思想が旺盛に傳へられた。一八六一年六月、彼は異例の拔擢により、近侍隊の軍曹に推薦された。其翌年、愈愈士官となつて所屬軍隊を選択するに當り、彼は人の豫想だも及ばないアムウルのコサック騎兵隊を選んだ。是は後に、彼が亞細亞大陸に於て種々な地理學上の發見を爲す因縁となつた。一八六七年の始め、彼は軍隊の勤務を棄て、聖ペテルスブルグに歸り、直ちに大學に入學して研學に没頭した。一八七一年、彼は父をモスコウに葬り、其翌年春早々、始めて西歐週遊の途に就き、先づ瑞西チュウリツヒに行つた。そして直ちに國際労働協會の地方支部に加入した。それから轉じてジュラ山中に赴きジュラ同盟に親接すること一週日餘、此處に於て無政府主義の洗禮を受けた。

彼は無政府主義者となつて祖國に歸り、やがて有名なチエイコヴスキイ團體に加盟した。此

團體には彼のステツプニアクヤ、ペロウスカヤの様な人々がゐて、後には何れも革命家として有名になつた。此團體の人々は皆熱心に労働者間に改革的宣傳に努力した。クロボトキンも其一人であつた。然るにかうした活動が二年ばかり続いた時、彼は遂に警視廳の爲に嗅ぎつかれて捕縛された。(一八七四年) 鐵窓の下に居ること二年、彼は重い病氣になつて陸軍病院に送られた。それから病の癒えるのを待つて、友人達は彼を援けて脱走を遂げしめた。かくて彼は再び西歐に現はれ、英國から瑞西に赴き、ジュラ同盟に加盟した。(一八七七年) 二年の後、彼は同盟の同志等と共に「叛逆」^{レツキルト}と題する小機關紙を發行して、大いに無政府主義の宣傳に努力した。然るに一八八一年に至り、彼は突然瑞西政府から追放の命を受け、已を得ず倫敦に赴いた。そして暫時英國に講演旅行を爲して再び佛國に歸つた。歸るや否や、リオン地方に産業の恐怖が襲來し、諸方に一時に大罷業が勃發した。何等の關係も無いクロボトキンも亦渦中に引込まれ投獄された。一八八三年に其裁判が開かれた。彼を免ぜよとの聲は英國學者等によつて發せられたのであるが、佛國政府は之を聽かなかつた。併し一八八六年に至つて辛くも赦免令

に接することができた。出獄後、彼は英國に赴いて生活し、歐洲大戰に際して露國の革命が成就するや、彼は勇んで故國に歸り、一九二一年二月遂にモスコウ郊外に淋しく逝去した。彼は最後の勞作として「倫理學」の著述に筆を染めたのであるが、完成に至らずして此世を去つた。クロボトキンは多くの著書を殘した。「農場、製作所、工場」(Fields, Factories and workshops) により無政府主義の理想と産業の將來との關係を窺ふことが出来る。「パンの略取」(Conquest of bread) は革命の方法を詳説したものの「相互扶助論」(Mutual aid) は進化論の生存競争説に反對して、無政府主義の基礎觀念を説いたものと見ることが出来る。此他に多数の著書がある。

◇エリゼ・ルクリュ ^{ヒルセ} Elisée Reclus は、蓋し無政府主義者中の最も博學なる一人であらう。バクニンや、クロボトキンが、ビュウリタンの聖者として稱讚した程の人格者である。彼は一八三〇年三月十五日、佛國サント・フォア・ラ・グランドに伯爵家の次男として生れた。一八四〇年から二年間、彼は兄のエリイと共にユウギエドといふ所のモラビヤン同胞教會に生活し

團體には彼のステツプニアクヤ、ペロヴスカヤの様な人々がゐて、後には何れも革命家として有名になつた。此團體の人々は皆熱心に労働者間に改革的宣傳に努力した。クロボトキンも其一人であつた。然るにかうした活動が二年ばかり続いた時、彼は遂に警視廳の爲に嗅ぎつかれて捕縛された。(一八七四年) 鐵窓の下に居ること二ケ年、彼は重い病氣になつて陸軍病院に送られた。それから病の癒えるのを待つて、友人達は彼を援けて脱走を遂げしめた。かくて彼は再び西歐に現はれ、英國から瑞西に赴き、ジュラ同盟に加盟した。(一八七七年) 二年の後、彼は同盟の同志等と共に「叛逆」^{レツキオルト}と題する小機關紙を發行して、大いに無政府主義の宣傳に努力した。然るに一八八一年に至り、彼は突然瑞西政府から追放の命を受け、已を得ず倫敦に赴いた。そして暫時英國に講演旅行を爲して再び佛國に歸つた。歸るや否や、リオン地方に産業の恐怖が襲來し、諸方に一時に大罷業が勃發した。何等の關係も無いクロボトキンも亦渦中に引込まれ投獄された。一八八三年に其裁判が開かれた。彼を免ぜよとの聲は英國學者等によつて發せられたのであるが、佛國政府は之を聽かなかつた。併し一八八六年に至つて辛くも赦免令

に接することができた。出獄後、彼は英國に赴いて生活し、歐洲大戰に際して露國の革命が成就するや、彼は勇んで故國に歸り、一九二一年二月遂にモスコウ郊外に淋しく逝去した。彼は最後の勞作として「倫理學」の著述に筆を染めたのであるが、完成に至らずして此世を去つた。クロボトキンは多くの著書を殘した。『農場、製作所、工場』(Fields, Factories and workshops) により無政府主義の理想と産業の將來との關係を窺ふことが出来る。『パンの略取』(Conquest of bread) は革命の方法を詳説したものの『相互扶助論』(Mutual aid) は進化論の生存競争説に反對して、無政府主義の基礎觀念を説いたものを見る事が出来る。此他に多数の著書がある。

◇エリゼ・ルクリュ ^{エルゼ} Elisee Reclus ^{レクラス} は、蓋し無政府主義者中の最も博學なる一人であらう。バクニンや、クロボトキンが、ビユウリタンの聖者として稱讚した程の人格者である。彼は一八三〇年三月十五日、佛國サントフォア・ラ・グランドに伯爵家の次男として生れた。一八四〇年から二年間、彼は兄のエリイと共にユウギエドといふ所のモラビヤン同胞教會に生活し

た。此教會は基督教社會主義を以て趣旨としたものである。一八四二年に故郷に歸り、一八四八年から九年にかけて、兄弟共に南方のモントオバン大學の神學科に居たが、時しも革命動亂の波が押し寄せて來たので、兩人は學校から脱走して地方の革命運動を助けやうとした。處が事發覺に及んで二人は退學處分を受けた。そこで兩親は彼等を伯林大學に送つた。エリゼは伯林大學に於て神學を學ぶべき筈であつたのに、それは顧みないで地理學の泰斗カアル・リッテルの講義を熱心に聞いた。エリゼが後日に及んで、古今獨歩、世界最大の地理學者と稱せられるに至つた榮ある運命の出發點は此時にあつた。一八五一年のクウ・デ・タに際して、兄弟は又叛逆團體の組織を企てた。然るに其事が未だ成らぬ内に發覺したので、直ちに英國に亡命した。それから愛蘭に渡つて農業に従事し、非常な勞働に堪へた。一八五三年から五四年にかけて北米に旅し、更に一八五五年から一八五七年にかけて南米諸地方を周り、又、コロンビヤで農業に従事した。そして此間に於て、彼は多く讀み、多く研究した。一八五七年佛國に歸り、越えて一八六〇年「ルビユウ・ド・デウ・モント兩世界評論」に米國の奴隸の狀態に就いて四回に亘る論文を掲げて非常に

世論を喚起した。それが奴隸解放運動に貢獻すること多大であつたのは勿論である。米國大統領リンカーンは此論文に對して報償を送らうとしたが、エリゼは簡單に之を拒絶した。一八六八年、其最初の傑作「地」第一巻が出版されたが、此書は忽ちルクリュの名譽を歐洲諸國に高からしめた。一八七〇年、普佛戦争が起り、巴里コムミュンが起るに及んで彼も亦之に加盟した。然るに新大統領チエールの軍隊はコムミュンを粉砕し、ルクリュは諸同志と縛に就いた。一八七一年、多くの同志は銃殺刑に處せられたが、彼は軍法會議に依て無期徒刑に處せられた。此時西歐諸國の學者達は、ルクリュの非凡な學識を稱揚し、此様な學者を監禁するのは世界の大損失であるとして佛國政府に抗議した。そこで佛國政府も已を得ず彼を十年間の國外追放刑に減じた。そして彼は瑞西に行くことになつた。(一八七三年一月)此年から彼の最大著作たる「世界新地理」が毎年一冊づつ發行されることになつた。

一八九二年地理學第十九巻が出版されたが、此時、彼は白國のブルッセル大學から招聘されて之に赴いた。處が其翌年、ヴァイヤンといふ無政府黨一青年が巴里の議院に爆彈を投じ、無

政府主義者は新たに世間の恐怖的になつた。そしてエリセは同大學の教授を辭さねばならなくなつた。彼が其講座を閉じて、自ら獨立の講演を開くや、多數の學生は期せずして其席に集つた。それが自ら一組織を成して、茲に「新大學」が成立するに至つたのである。一八九九年には「進化、革命、無政府的理想」といふ一小冊子が出版された。一九〇四年一月、兄のエリイが逝去し、其翌年、彼は最後の大著「地人論」の稿を終りたる後、七月四日を以て、其大勞作の生涯を終つた。

バクニン、クロボトキン、ルクリュ等の巨大な人物が、ビユウリタンの生活を以て無政府主義を宣傳した歴史といふものは、醜惡な近代の社會史に對する一服の清涼劑といふべきである。

◇スチルネル 無政府主義中に、無政府共產主義と個人的又は哲學的無政府主義との二派がある。バクニン、ルクリュ、クロボトキン等は其前者で、米國ボストン無政府主義及び獨逸のスチルネル（本名 Caspar Schmidt）等は其後者に擧げられる。スチルネルは「一八四〇年以

來、フオイエルバッハの鼓吹に基いて Bruno Bauer の周圍に集ふてヘゲル哲學の極端な歸結に達した若き獨逸民主主義者急進主義者の團體に屬した。彼等の理想は精神の絶體自由を實現するにあつた。……一八四八年の革命に於ける獨逸の運動には、彼等の中から知識的の音頭取を出した。そして一八五〇年の反動政治に依て掃除けられて了つた。其内の幾人かは、伯林の或る料理屋に會合して自ら「自由人」(Die Freien) の名を採用した。マルクスやエンゲルスも此會合に幾度か出席したが、聽て遠ざかつた。兩人の小書「神聖家族」の名稱は、實に此パウエル及び其友人達を指示したる皮肉の名稱である。スチルネルも亦其出席者の一人であつた。自ら餘り口を開かずに、靜かに友人達の興奮した議論を聞きながら、自分は徐ろに其著作を準備した。そして其著作は、當時の諸評論中の評論も尙未だ充分の評論でないことを示して諸友人を一驚せしめた』(Gide et Rist, Histoire des doctrines économiques, p.729-730)

スチルネルは一八〇六年バツリアのベイルウトに生れ、伯林に於て(一八二六—一八二八)又、エルランゲンに於て(一八二八—一八二九)哲學及び神學を學んだ。一八二九年には學業

を休んで獨逸を旅行し、一八三二年までケニヒスベルヒやクルムに住居し、一八三二年から一八三四年まで再び伯林で學究した。一八三五年には高等學校教授の試験に及第した。彼は學職には就かなかつたが、一八三九年に伯林の女子宗教學校に教鞭を執つた。四五年の後に其職をも去つて、伯林に生活したが、一八五六年に逝去した。

スチルネルは其著『唯一者と其所有』(Der einzige und sein eigentum)中に言つて居る「人間は何の使命も、固有の事業も、職務も持つたものではない、恰も植物や動物が神命を持たないと同様である。人間は使命は持たないが、併し唯だ力を持つ、力は其存在する處に自分を表現する。』「真理とは句である。談話の方法、言語である。君が真理を信する間は、君は君自身を信じないのである。君は一種の奴隷である。唯だ君のみが眞理である。否寧ろ君は眞理以上である。眞理などは君の前には何でもなし」

◇虚無黨の活動　バクニンが西伯利亞を逃亡して再び倫敦に現はれた時、彼の革命運動の舊友であつたアレキサンドル・ヘルツェンは、同市にあつて「警鐘」^{コッコル}と名くる新聞を發刊して遙

かに故國人民に對する傳道に努力して居た。然しヘルツェンは其時分、既に暴動的革命家から轉じて秩序的の改革者となつた。之に反して、バクニンは、益々極端な革命主義を懷抱し、所謂「總破壞」の宣傳に熱中するに至つた。一八六五年に、ネチアイエフと云ふ一青年學生はモスコウの學生間に傳道する爲に、此地に赴いた。彼は國際労働協會露國支部の名稱で此等の諸結社を合從せしめた。素より其團體は左程多數の會員を持つたものでは無いが、然し一八七三年には此團體に加盟したといふ理由で疑獄に附せられた者が八十七名もあつたこの事である。又一八六六年に、其會員にして労働者たるカラコゾフの皇帝狙撃事件——之が皇帝暗殺計畫の嚆矢である——は露國政治の進行に多大の影響を及ぼした。かくて一八七〇年に農奴解放令の施行が完了した時分には、露國の社會は既に危険な革命的氣分に戰慄して居た。彼のバリコムミュンに應じてステツプニアク(本名クラヴチンスキイ)の試みた活動は社會主義的煽動に多大の活氣を添へ、更に此時佛國リオンに於けるバクニンの活動と、バリコムミュンの一員となつたラヴロフの名聲とは露國の青年黨に非常な感激を惹起した。然しステツプニアクの記する

所によると、一八七〇年から一八八〇年に至る改革者の態度は、之を革命的と言ふよりは寧ろ宗教的と稱すべきものであつた。然るに此時に當つて、有名なる「第三課」の祕密警察は有力な發達を爲して苛酷峻烈な檢舉を實行し始め——一八七三年から其翌年に亘つて、自由主義者を捕縛すること實に千五百人に及んだ——人民は之に對して反抗運動に進み、恰も火に注ぐに油を以つてするといふ有様で、社會の擾亂は益々甚だしくなつた。所謂威嚇時代の幕が開かれたのは此時からである。

改革運動者に對する政府の處置は殘酷を極めた。之に對する人民の復讐心は熱火の如く激發した。一八七八年、一少女ウエラ・ザツシユリツチが警視總監トレポフ將軍を襲撃した事件は、實に威嚇時代開幕の警鐘を打鳴した者であつた。そして一旦無罪の宣告を受くるや、彼女は直ちに逃れて瑞西に走つた。社會民衆の彼女に對する同情的感激は露國全土を震駭した。そして種々なる事件は之から續々紛起して來た。曰く、ステツプニアクのメスセンツエフ總督銃殺事件、曰く、學生ソロダイエフの皇帝狙撃事件、曰く、汽船陰謀事件、曰く、オデツサ鐵道爆發

事件、曰く、モスクワ鐵道爆發事件、曰く、冬宮食堂爆發事件、——以上五件は皆皇帝暗殺の計畫であつたが皆失敗した——曰く、「總捕縛」、曰く「死刑執行」(革命黨が既制官に對して行ふもの)而して憤激の叫びとなり、殺戮の劍となり、一日として悲鳴を聞かぬことなく、鮮血を流さぬ時は無くなつた。一八八一年三月十一日、アレキサンドル二世は遂に聖ペテルスブルクの大道に於て殺害された。其光景は實に悽愴を極めた。最初皇帝の鐵裝馬車を待迎へて之に爆彈を投じたのは、クサコフといふ者であつた。此爆彈に依つて護衛兵は負傷し、車輛は破損した。難を免れた皇帝は負傷者を見舞ふために車外に出た。此時皇帝に接近した一青年があつた。是はグリネキツキーといふ學生であつた。危機一髪、彼は敏速に自分と皇帝との間に恐るべき爆彈を投じた。霹靂一聲、皇帝は青年と相並んで地に倒れ、哀れ鮮血淋漓たる死骸は、白皚々たる積雪の中に埋れて暫しは人の顧みるものも無かつた。

威嚇時代に於て最も傑出した人物中に、女丈夫の多かつたのは世人の奇とする處である。就中、最も有名な運動に携つた者はソフビヤ・ペロヴスカヤであつた。アレキサンドル二世の暗

殺に際して信號の役に當つた者は彼女であつた。鐵道爆發事件には、彼女は其指揮者となつて活動した。彼女に次いで、オデッサに於てストリーニコフ總督暗殺の陰謀を企てた妙齡の美人グエテ・フヒグネルがある。其他革命黨の祕密印刷所に於て探偵を防ぐ爲にビストルを携へて立番役を務めたイワノワ嬢があり、自ら探偵に紛して多大の功績を現はし、後遂に眞探偵の發見する所となつたレスーポチン姉妹がある。是に依つて、所謂威嚇時代の動亂が如何に社會の根柢から生起して來たかを察することが出來やう。吾等は茲に眼を轉じて西歐諸國の状態を見やう。

露國の曠野を掠めさつた暴風は西歐の大空を壓して暗澹たる密雲を送つて來た。少女ザツシユリツチがトレポフ總監を襲撃してから數月、西歐の社會も亦頻りに「暗殺！」の叫を聞く様になつた。獨逸のノービリング及ヘーデルは獨逸皇帝キルヘルムをニーデルワルドに於て狙撃し、西班牙のオリザア・モンカシは國王アルフォンソ十二世を、伊太利のバッサナントは國王フムベルト一世を、共に暗殺しやうと計畫した。歐洲諸國の政府は俄かに驚愕し、狼狽し、此

様な事件の起るのは、必ず其裏面に世界的大陰謀の潜んで居るのであらうと想像し、遂にジュラ同盟や國際勞働協會（バクニン派の團體たる）は其責任を負はねばならぬと言ふ結論に到達した。蓋し兩者とも無政府主義者の有力な團體であつたからである。ポオル・ブルウスは瑞西政府の捕縛する所となり、そして無政府黨唯一の機關たる「先鋒」は禁止された。此に於てクロボトキン等は新らしく「叛逆」と稱する新聞をジュネエヴに創刊して、無政府主義の機關に具へた。其れは一八七九年であつた。

之より以前、獨逸ではビスマークの社會黨鎮壓法案が議會に提出された。ビスマークの此法案は一たびは敗北して了つたが、折しもノービリング等の皇帝狙撃事件があつた爲め、鎮壓令は遂に法律となつて施行される様になつた。熱誠を有する社會黨員は之によつて痛く憤激せしめられた。そして宜しく無政府黨の運動に倣ふ可しと叫ぶ者も起つて來た。ハツセルマンとか、ヨハン・モストとかいふ人々は其有力な首腦となつた。然るにリーブクネヒトやベーベルは之を以て狂暴の言であるとして排斥した。一八八〇年の ^{ハーデン}Wand 大會は公然モスト等を除名した

が、其理由とする所は、彼等の主張は社會民主主義に背反し、彼等の行動は社會黨の發達を阻害すると言ふにあつた。之に先つてモストは獨逸を去り、倫敦に赴き（一八七八）此に「自由」^{フライハイ}新聞を發刊する事となつた（一八七九年一月）。そして一八八一年に露國皇帝殺害事件の報道に接するや、彼は最も激烈な言論を以て之に應じたので、倫敦に於て告發され、次で十六箇月間の苦役を宣告された。彼は十六箇月の服役を終へて、米國に移轉し此に再び其運動を開始し、北米の社會黨をして無政府主義者——國際労働者協會と稱する——と、社會民主主義者——社會主義労働黨と稱する——とに分裂せしめた。之は一八八三年のことである。

佛國でも無政府主義者の旗色は漸く鮮明となり、一八八〇年のハーヴル大會から彼等は從來の集産黨と異つた獨立の理想と活動を公然樹立する様になつた。ルクリュエとか、クロボトキンとか、ガウシエーとか、ベルナルとかいふ様な人々が其中心人物であつた。一八八一年に倫敦に開かれた無政府黨の大會は、亦佛國無政府黨員の唱導によつて開かれたものであつた。

◇無政府主義宣言 一八八三年一月佛國リオン市に於て、世界を震撼せしめた無政府主義者

四十八名に對する裁判事件があつた。それはクロボトキン其他多數の一味が、インタナショナルに加盟して策動してゐるといふ件——單に加盟したといふ事實だけで、數年の禁獄に處する嚴法が存在したのである——にて五年以上の重刑に處せられたのである。その公判に際して、被告四十七人の名に於て、法廷に讀み上げられた宣言がある。當時の無政府主義者の氣分や思想を伺ふことが出来るから、左にその全文を掲げて置く、執筆者はクロボトキンであるといふ。

「無政府主義とは何ぞや、無政府主義者とは何ぞや、それを茲に宣言する。

諸君、無政府主義者とは、言論の自由が到るところに説かれる時代に於て、自ら無制限の自由を發揮することを義務なりと信するところの市民である。

然り諸君、吾々は地球上に於ける幾千かの、恐らく幾百萬かの労働者——何故なら吾々は民衆が全く密かに考へることを高らかに宣言するといふ功績しか有せないものであるから——であつて、絶對的自由、唯だ自由だけ、全的自由、を要求するものである！

吾々は自由を欲する。換言すれば、吾々は、全人である爲に、凡そ好きなことは何でも

爲し、好きなことしか爲さず、自然的不可能以外の制限なしに其一切の必要を全的に満し、それと同様に尊重すべき隣人等の必要を満す、の權利と手段とを要求する。

吾々は自由を欲する。そして權力といふものは、その起源や形體がさうあらうとも、選ばれたものでも、天降のものでも、王制的でも、共和的でも、神權に、神酒に感じたものでも、民權に、普通選挙に基くものでも、さんなものでも、其存在は自由と兩立すべからざるものであると信ずる。

歴史が吾々に教へるところのものは、總ての政府が類を同じくし、價を同じくするといふことである。最善な政府は最悪である。一方が卑劣であれば、他方は偽善である！ 根本に於ては、何時でも同じ手順、何時でも同じ偏執である。外觀的自由主義政府に至るまで、立法府の塵埃の下に、インタナショナルに關する若干の法律を用意してゐないものはない。

他の言葉を以て言へば、無政府主義者の眼の痛みは、某形式の政府に於けるよりも、寧

ろ他の形式の政府にあるといふ譯ではない。それは政府的思想其ものにあり、強權の原則其ものにある。

一語を以て言へば、人間の關係に於て、行政的及び法律的監視や、天降的規律やに代ふるに、何時でも修正し、又解約し得る自由契約を以てすること、これが吾々の理想である。

そこで無政府主義者は民衆に提議する。彼等が神様無しで済ますことを學び始めた様に政府無しで済ますことを學ばんことを。

それと同じく民衆は財産家無しに済ますことを學ぶであらう。實際に、暴君の最悪なもの、諸君を投獄するものではなくて、諸君を饑えしめるものである。諸君の頸を捕へるものではなくて、諸君の腹を捕へるものである。

平等がなければ自由はない！ 毎日減じて行く少数者の手中に資本が獨占されてゐる社會、最下級のものにまでも支辨せしめた公共の教育さへ平等には分與されない社會、に於ては、自由はない。

吾々は信ずる、人類共同の世襲財産たる資本は、過去代々の、又現代の、人々の共同努力の成果であるが故に、萬人の使用の爲に存し、何人もそれより排斥せらるべきものではないことを。それと同時にまた、何人もそれを獨占して他の人に損害を蒙らせてはならないことを。

一語を以て言へば、吾々は平等を欲する。自由の必然的歸結としての、否寧ろ自由の第一條件としての事實上の平等を。各自の才能に従て各人より、各自の必要に應じて各人へ。これは吾々が眞摯に強力に欲するところであり、そうあるべきものである。何故なら、正當にして必要な要求に勝ち得る如何なる律令も存在しないからである。そして吾々が總ゆる侮辱を蒙むるのは之が爲である。

吾々は極惡非道者だ！ 吾々は萬人の爲にパンを、萬人の爲に學問を、萬人の爲に勞働を、また萬人の爲に獨立と正義を要求するから。

◇無政府黨の運動 一八八〇年代以後の歐米社會運動は無政府主義者の運動と言つても差支

なかつた。彼等は各國各地に於て猛運動を開展した。就中、前掲のリオン裁判事件に次で最も有名なのは一八八六年のメエデイに際してシカゴに勃發したる慘劇である。そして學識ある有名な無政府主義者數名が死刑に處せられた。

こゝに於て、米國のアナキスト等はダイナマイトを以て最も安價な武器とした。そして貧者が用ふべき最も適當な戰鬥手段として之を讚美した「あゝ科學！ あゝダイナマイト！ 吾等の掌中にある此力は、虐政を亡ぼさずして已むべきや」は當時北米の「先驅」新聞に掲載された「虛無黨」と題する詩の一句であつた。又、當時、北米桑港に於て發行された「真理」といふ一雜誌には「眞理は一部五錢なり、そしてダイナマイトは一磅四十錢なり」なごといふ皮肉文字が掲載してあつた。更に同誌は記して曰く、「吾等は躊躇すべき時間を有たない。吾等は言ふ、武器を執て出陣せよ！ 革命は貴君の頭上にある」彼等の言論と運動とが激越の調を帯びて來たことは、蓋し今日からは想像も及ばぬ程であつた。

かくて、狙撃、陰謀、ダイナマイト、ストライキ等の事件は歐羅巴に於ても頻々として爆發

して來た。一八八〇年、オツテロ・ゴンザレは西班牙王アルフォンソ十二世を襲撃した。無政府黨員の活動は益々猛烈である。一八八三年十二月には *Cyvoct* といふ者がベレコール劇場に爆彈を投げ、リオン裁判所で死刑の宣告を受けたが、辛くも大統領グレイの爲に宥免された。一八八四年には瑞西ベルンに於ける聯邦宮殿に装置した爆彈の發見された事件が起り、英國では議事堂に爆彈を投げやうとした陰謀が露現した。一八八六年には歐洲諸地方、殊にシャルルロア（白耳義）に於て幾多の叛逆が計畫された。

一八九〇年に始めて五月一日の世界的示威運動が行はれた。佛國無政府主義者は此好機を利用して大いに煽動的演説集會を催し、メルリノーやマラトやミツシエル（労働者の女神と仰がれた）等は遂に獄に投ぜられた。其翌年には、佛國無政府主義者の非軍備非警察を目的とする運動が起り、ルツロアには黒色旗が翻へるのを見た。一八九二年には佛國諸所に爆彈が破裂し、其年七月には、投彈の一人ラヴシヨルといふ人が死刑に處せられた。翌一八九三年には更に激烈な活劇が西班牙に行はれた。即ち、バルラスといふ人が、バルセロナの練兵場に爆彈を投じて

死刑に處せられ、次て同地に於けるエリセオ劇場に又怖るべき爆彈を投じた者があつた。又更に同年十二月九日、一青年革命家ヴァイヤンは佛國議院に爆裂彈を投じた。そして無政府主義の聖者エリゼ・ルクリュの甥ポオル・ルクリュは其教唆者と見做されて訴追された。ヴァイヤンは死刑に處せられ、ルクリュは二十年懲役の缺席判決を受けて英國に亡命した。事態は益々益容易ならぬ有様となつた。慘劇又慘劇、人心は恟々として一日も靜安を得ない。殊に富豪貴族等の恐怖は益々甚だしかつた。そこで佛國を始めとして歐洲諸國は無政府黨に對する嚴酷な法律を發布した（一八九四年）そして此時には、單に佛國內ばかりでも一時に捕縛された無政府主義者が百名にも達した。其上に、無政府黨の機關である「叛逆」や「疲れし父」なごいふ新聞は差押へられ、又廢刊の已むなきに至つた。そしてクロボトキンやルクリュの後、佛國に於ける無政府共產黨の中心人物たりしジャン・グラウヴは獄に投ぜられた。併し爆彈は尙諸方に飛んだ。エミール・アンリの料理店に投彈する者もあれば、サン・ジャック・ホテル其他の家に於ける爆彈事件も起つた。西班牙バルセロナに知事殺害の陰謀があり、伊國無政府主義者

セザリオ・サントの佛國大統領カルノー暗殺事件（リオンに於て）が起つた。ソコで此の様な危険の状態を見た伊太利と獨逸の政府は、亦、一層無政府黨の取締を嚴重にした。併し無政府黨は決して之に屈しなかつた。そして彼等は年々統治者の暗殺を企てたが、其れは屢々成功した。即ち一八九七年には西班牙宰相カノヴァを暗殺し、一八九八年には澳國女王を暗殺し、更に一九〇〇年には英國皇太子及び波斯王の暗殺を計畫し、次で伊太利國王を暗殺し、翌一九〇一年には米國大統領マツキンレイを殺害した。

以上の記事は僅かに無政府黨の運動の概略に過ぎないが、併し是れだけによつても、彼等が如何に根氣強く、如何に不撓の精神に富んで居るかを察することが出來やう。唯然しながら、彼等の間には總括的の結合が無く、其團體と言へば極めて少數者が區々として諸方に相結合して居たに過ぎない。而も其結合すらも一定の規律のある譯でも無く、首長がある譯でも無く、純乎として自由、平等、自治の團體であつた。そして彼等の團體間の交通も、全然個人の任意的事務として行はれるに過ぎない。然るに一九〇〇年初頭に至りては、歐洲大陸に於ける其團

體的運動は漸く衰頹し、彼等の多くは其運動方法を改めて専ら各自の欲する労働組合内に個人的に入つて行つた。そして労働組合を自分の方針に動かすことに努力した。佛國サンデカリスムの運動は蓋し其著しい結果を見るこゝが出來やう。

無政府黨が漸く團體的勢力を失つて行く間に、マルクス派の社會民主主義は歐米諸國に於て驚くべき發達を遂げ、殊に獨逸國會に於ける社會黨の勢力は急速な進歩をなして、世界萬人の眩惑する處となつた。

第八章 社會民主主義

◇社會民主黨 一八七二年に國際労働協會が瓦解してから、世界的革命運動を直ちに繼續したものは、マルクス派の社會主義者ではなくて、バクニン派の無政府主義者であつた。そしてマルクス派の社會民主主義は、主としてマルクスの祖國である獨逸に於て、漸く發達の端を開いた。然るに獨逸に於ては、既に一八六三年にラッサールの労働運動が開始されてゐた。ラッサールの死後はシユワイツェルが其後を承けて有力な運動を繼續し、マルクスの同志リイブクネヒト等が別に運動を始める時になつてもラッサール派の勢力は非常に強大であつた。そこで此兩派は一時互に反目したが、一八七一年にはシユワイツェルが運動から隱退し、又時代の趨勢は兩派の分立を不利ならしめた。そして遂に一八七五年に兩派は合同して『社會主義労働黨』を組織するに至つた。かくて社會黨の勢力は俄然強大となり、次でビスマークの鎮壓令となつた

(一八七八年)。併し此暴戻極まる鎮壓令は、僅かに一八八一年の總選挙のさき其功を奏したに止まり、それ以後の總選挙に於ては毎回驚くべき社會黨の發達を現はし、剛愎な鐵血宰相をして亦手の下すべからざることを覺らしめた。

獨逸社會黨の發達が諸國の改革者を刺戟したことは多大であつた。佛國の一部社會主義者が一八八六年に社會主義革命黨を組織したこゝや、一八八三年に米國の社會主義者が國際労働協會の名を改めて社會主義労働黨を創立したこゝや、英國の社會主義者が一八八一年に民主同盟を組織し、更に八三年に至つて社會民主同盟と改稱したこゝ、等は、何れも皆獨逸の社會民主黨を模倣したものであつた。

◇カアル・マルクス 社會民主主義の一創唱者たる マルクス の名は既に日本の讀書界に知れ渡つてゐる。マルクスは一八一八年にトリアースに生れた。彼はボン大學及びベルリン大學に於て法律學を勉強した。けれども是れは蓋し彼の父の希望に従つたので、彼は多くの時間を歴史及び哲學に費した。そして當時流行を極めて居た、ヘゲル學派の仲間に入り、フオイエル

パッサハの唯物論に傾いた。一八四三年、マルクスはケルンに於て幸福な結婚をした。それから、巴里に赴いた。巴里に居ながら普魯西政府に對する猛烈な攻撃を故國の新聞等に送つたが、遂に普國政府の要求によつて彼は巴里から追放され、一八四五年、白國ブルッセル市に行つて此處に三ヶ年間滞在した。

一八四八年に佛國二月革命が爆發したとき、マルクスは何等の理由もなくブルッセルから追放された。そして巴里の假政府から佛國に歸來せよとの招待を受けた。彼は此招待に應じて巴里に行つたが、巴里に數週間ある間に、獨逸の三月革命が起つたので彼はその革命の舞臺へこ急いだ。同年六月一日彼はケルンに於て諸同志と共に「新ライン新聞」を創刊した。其新聞の爲に、マルクスは一揆教唆の件を以て二回の告發を受けたが、何れも無罪として赦免された。併し、一八四九年五月に、ドレスデンに一揆が起つた時、新聞は遂に當局の禁止する處となつた。

一八六四年、倫敦に於て、始めて國際労働協會の創立大會が開かれた。此國際労働協會の規

約はマルクスの起草したものであつた。それから幾時もなく、即ち一八六七年には、彼の大作「資本論」第一巻が公けにされた。有名なる巴里コムミュンの後、労働協會内にマルクス派の中央集權説とバクニン派の地方自治主義との爭論が起つて遂に協會が瓦解したことは前段に述べた通りである。爾來彼は健康勝れず「資本論」が完成しない内に、一八八三年、溢焉として逝去した。

◇マルクス主義の修正 其後、間もなく、マルクス主義、社會民主主義に對する反動が起つた。一は右方への反動、他は左方への反動、是である。右方への反動は、マルクスの階級闘争論や、唯物史觀や其他重要な諸點に反對する理論と實際とを有つた新思想新團體是である。獨逸に於けるベルンスタイン一派の修正派、佛國に於けるジョレス、ミルラン、ギギアニ等の獨逸社會黨、英國に於けるケア・ヘアデイやマクドナルド等の獨立労働黨は、即ち其著しいものである。亦左方への反動は、其議會政策改良政策の無効なことを發見したるサンヂカリストの運動是である。佛國労働組合内に一時勢力を占めて、從來のブルウドン主義の組合を自己の選

學團體、勢力範圍に歸せしめようとしたマルクシストが勢力を失して、無政府主義者の鼓吹によつて勃興して來たサンヂカリストの運動が、漸く労働組合の中心となるに至つた。

然るに、労働者の總同盟罷工や革命行動に對して最も強力な敵對を爲すものは蓋し××である。故に非軍備運動は彼等に取りて最も必要な事業だご主張するものが出て來た。××を無力にし、××の自覺を促さなければ、彼等の運動は到底能く其效を奏するものではない、と説く非軍備運動者が現はれて來た。佛蘭西のギユスタヴ・エルベや、獨逸のカール・リーブクネヒト——前の社會黨首領キルヘルム・リーブクネヒトの子——等が、漸く世の耳目を牽く様になつたのは、實に此非軍備運動の急先鋒であつたからである。

◇總同盟罷工論 總同盟罷工の主張が諸國の社會主義者を刺戟したことは蓋し尠くない。總同盟罷工の計畫は既にロバート・オウエン等に依つて行はれた。彼の國際労働協會の時代に於ても社會主義者間に隨分議論があつた。然るに從來の主張や計畫が唯だ理論又は單純な試みとして行はれたに反し、一八八八年佛國労働組合大會（ポルドオ附近のブスカに於ける）の決議

は最精確な具體的な形を以て此總同盟罷工が採せられた。其決議宣言に曰く「部分的同盟罷工は一種の煽動方法、組織手段たるに過ぎぬと考へて、大會は宣言する、單に總同盟罷工、換言すれば、全労働の完全なる停止、即ち社會××のみが労働者解放に向つて労働者を導くものであることを」云。併し社會黨は専ら議會政策に熱中した結果、同盟罷工に對しては寧ろ常に警戒を加へる様な態度を採つて來た。然るに議會政策の效力に對する労働者の疑惑が漸く高まつて來るに及んで、社會黨内にも之が採否に就て熱心に討議研究する様な風を生じた。此問題に就き、獨逸社會黨のエナ大會（一九〇五年）に於てペーベルは次の如く演説した。

「私は此處に政治的總同盟罷工の案を提出した。此問題を忌避して論議すまいと思ふのは、甚だ愚かなことである。……獨り同大會（ケルンに開かれた労働組合大會を指す）に於けるエルム氏の所論は最も私の意を得たものである。曰く「斯の様な曖昧な決議を採用するよりは、寧ろ明白の語句を以て、汝等若し我々の普通選舉權に手を觸れる様な事があれば、労働組合は其經濟的全力を擧げて之を防衛するであらう。と權力階級に向て警告する

の外は無い」「……吾々は空想の爲に戦ふものには無い。吾々は總同盟罷工が資本家社會を變形して直ちに天使の團體を爲すことを信するものではない。吾々は現實の權利、勞働階級の第一重要な權利——即ち普通選舉の權利——の爲に、戦はうと思ふものである」

ペーベルの總同盟罷工を主張する理由はサンヂカリストや無政府主義者の所論とは頗る異なつて居るが、併し從來久しく議會政策にのみ没頭して居た社會主義の運動に、新しい形成を加へて來た徵證を見做すことが出來やう。

社會主義や無政府主義に對する勞働運動の關係は是まで陳べた様に變遷して來た。然るに更に吾等の注意を牽くべき一點がある。其れは、社會一般の進歩、勞働組合の發達、社會主義者や勞働者の經驗に伴ふて、社會主義運動や勞働運動の上に一般に統一的傾向を帯びて來たことは是れてある。先きに團結運動の必要を説いて一に「ダイナマイトの使用を學べ」と叫んだ無政府黨一派の所説は漸く勢力を失つて、團結的總同盟罷工論が却て勢力を得る様になつて來た。千八百四年に、アムステルダムに開かれた萬國社會黨大會は、佛國のジョレス派即ち讓歩

派と、獨逸のペーベル派即ち非讓歩派の激論があつたに係はらず、之と同時に「一國一黨」の決議は全會一致を以て可決され、頗る人意を強うしたのである。そして其結果として從來久しく紛争を極めた佛國社會革命黨と獨立社會黨とは遂に合同一致するに至つたのである。

然しながら、社會發展の状態は益々複雑に赴くのを常とする。社會民主黨の投票政策に對する反動も亦決して單一ではなかつた。其反動的主張として第一に數ふべきは、前段に述べた無政府主義者やサンヂカリストの直接行動論や總同盟罷工論であつた。勞働者の幸福は單に投票による法律の改正によりて得らるべきものには無い。勞働者は宜しく自ら其幸福の原因たる財物其ものを押収使用し、且つ一切の人事を各人の自由合意に依つて處置せねばならぬ、こは無政府主義の説く處であつた。彼等は、勞働者が選舉運動などに没頭するのは、徒らに其精力を浪費するものであるとて之に反對して來た。第二に數ふべきは、個人的無政府主義の見地から來る反對論である。即ち絶對的自由平等の見地よりして、人の上に人無く、我を支配する者は唯我のみ、投票は個人獨立の價値を没却する者である、と説く。第三は宗教上の見地より生ず

る反對論である。「神の國は爾曹の衷にあり」といふ教理を高調し、吾等の心靈に獨立の權威を存することを主張するものである。

◇階級闘争の否定 更に社會民主主義の原則に對する一反動がある。それは前段に叙述したる獨逸の修正派——ベルンスタイン一派——や、英國の獨立労働黨などの主張する所で、所謂階級闘争論に反對するのである。之が爲に、獨逸の社會黨は分裂するに至るであらうと迄危懼された程である。千九百八年九月、獨逸社會民主黨はヌーレムベルグに大會を開いたが、其以前に獨逸南部の社會黨代議士が州の豫算案に賛成の投票をしたといふ事件が、大會の重大問題となつた。二日半に亘つた激烈な論戦の結果、大會は百十九票に對する二百五十八票の數を以て此行動を非とする同黨幹部の提議を可決した。之に就き、同年九月二十五日發行の英國獨立労働黨中央機關「レーボア・リーダー」紙上にベルリス氏の評論文がある。其中に曰く、

「けれども、一方に於て、人民の知識の普及に依つて回天的な革命の哲理が凋衰した時、又他方に於て、社會主義者が國會や市會に入つて、労働組合が最大有力者となつた時、最

後の社會革命の幻想よりも一層の満足を得べきものを要求するの心は、鬱勃として起つて來た。……略

「故に吾等は云ふ。英國にては、『社會的』自覺を喚起することが可能である。そして此事業は『階級的』自覺や階級戦争を喚起するよりも遙かに高尚な事業である。社會の根本的改造の目的を過まることなく、直下の小利益を獲得する爲に構成的な運動を行ふことは可能であつて且必要である」

階級闘争論に對する獨立労働黨の態度は、彼の英國フェビヤン協會の態度と殆ど同一であると言ふことが出來やう。此外、佛國のジョレス一派の思想も略ぼ前掲の英獨兩國に於ける諸派と同一視することが出來やう。但しジョレスは必ずしも階級闘争論に反對したのでは無く、唯其實際運動の上に改良策を高調し、讓歩政策を力説し、改良と革命とは決して撞着せずと説いたのである。

以上、佛國のジョレスや、獨逸のベルンスタインや、英國の獨立労働黨やは、何れもマルク

シストの唯物史觀に反對である。ジョレスが一九〇五年巴里ソルボン大學に於て理想主義を高調して、マルクスの女婿ラファルグと立會演説をなし、ベルンスタインが其著「社會主義の理論と社會民主黨の政策」中に於て唯物史觀、階級闘争説等に極力反對したことは既に世界周知の事實である。又英國社會主義者にしてキリアム・モリスの同志であるベルフォルト・バックスはジョレス對ラファルグ論戰の批評をして、寧ろジョレスに賛意を表して居る。

保守的社會民主主義に對して、以上のごとく修正派、漸進派の存在すると同様な形で、サンヂカリスムの感化に於て起り、而も之に對して、ギルド・ソシヤリスムの運動が起つて來た。是れは近來、英國に起つた新しい運動で、其初めは主として雜誌「新時代」^{ニューエージ}の主筆や寄書家達によつて唱道されたものである。抑もサンヂカリスムの思想は英國にも可なりの影響を與へ、千九百十年から千九百十三年に亘りてトム・マン氏等の熱心な宣傳が行はれた。千九百十三年九月には國際サンヂカリスト大會がロンドンに開かれ、其代表者四十名の出席を見た。併し、外形に現はれた影響は餘り残されなかつた。勿論英國の労働組合に實質的影響を與へたこと

は少くなかつた。そしてギルド社會主義が漸く彼等の注意を引く様になつたのである。ギルド社會主義者が、社會改造の手段として議會政策が力無きものだとする點はサンヂカリスムの感化を受けたものである。

◇大戰前の状態 私 は此章に於て、更に少しく、大戰勃發前に於ける諸國社會主義運動の實況を一瞥したいと思ふ。先づ英國から始めやう。

千九百年の初頭に、英國労働組合大會の議會委員と、マルクス派社會主義團體と、フェビヤン一派と、ケヤ・ハーデー等の獨立労働黨との發起した商議會に於て新らしい労働黨が創立された。此團體は最初は労働代表委員と稱して、政治的に獨立した主義を採用しなかつたが、實際の政策は常に社會主義的であつた。其代議會の最初の會長はケヤ・ハーデー氏で、之に繼いだのが、アーサー・ヘンダーソン氏である。ヘンダーソン氏は千九百十年に其地位をジョージ・エヌ・バーンス氏に譲り、千九百十二年にはラムゼー・マクドナルド氏が之を繼いだ。マクドナルド氏は同黨創立の時から此時まで其書記長であつたが、此時書記長の地位をヘンダ

ソン氏に譲つた。労働黨は千九百十一年一月の總選舉には四十名、十一月の選舉には四十二名の議員を選出した。千九百十六年から千九百二十年までは、自由黨が下院の大多數を占めて居たので、労働黨は政府を動かすことも出来なかつたが、それでも産業問題に關する有益な議案を議會に通過させる事が出来た。然るに千九百十年から千九百十四年迄即ち大戰勃發の時まで、自由黨政府は實際に於て労働黨の協力に依つて初めて議會に多數を占むることが出来たのである。

次に大戰前に於ける獨逸社會民主黨の形勢は如何であつたか。千九百三年の總選舉に三百萬餘の投票を得て、帝國議會總員三百九十七人の内八十一名を自由黨より出せしことは、第十一章末段の統計に示して置いた。然るに次の千九百七年の總選舉には社會民主黨は僅かに四十三名の議席をしか得なかつたが、併し其獲得した投票數は三百二十六萬に増加した。更に千九百十二年になると總投票數は四百二十五萬三百二十九票といふ多數になつて、其選出議員も百十名といふ數になつた。其れが千九百十四年には黨員數百八萬五千九百五人を有し、其内には十

七萬四千七百五十四人の婦人を包含して居た。そして黨は約百萬圓の收入を有して、九十一種の機關新聞雜誌を發行し、其發行總數二百五十萬と稱せられた。此の様な有力な團體がカイザ―退位に際して如何に其國家を支配したかは之を察することが出来やう。

佛國の社會黨は分裂に分裂を重ねて居たのであるが、一九〇四年のアムステルダム萬國社會主義黨大會に於ける「一國一黨」の原則に關する決議に刺戟されて、漸く合同の氣勢を高めた。そして社會革命黨即ちマルクス派のゲード等と、獨立社會即ち穩和派のジョレス等とは合同して新らしく「パルチザン同社會黨」を組織した(一九〇六年)。そして千九百十年の總選舉には百十二萬五千八百七十七票を投じて七十六の議席を獲得し、更に千九百十三年には百一人の代議士を選出するに至つた。

白耳義の社會主義運動は、英佛獨に劣らない發達を遂げて居た。消費組合の事業なども頗る發達して社會黨の政策となつて居た。首府ブルッセル市に建てられた廣大な平民會館は、社會黨の成功を雄辯に物語るのである。大戰開始まで國家社會黨の本部のあつたのは實に此平民會

館であつた。千九百十二年の選挙には議會總員百八十六名の内社會黨は三十九の議席を得た。塊太利にては、千九百七年に始めて普通選挙制に依て總選挙を行つた。そして社會黨は一躍して大成功を収め、百五萬の投票によつて八十七名の議員を國會に送つた。

以上の諸國の外、左に尙二三國に於ける投票獲得總數或は選出議員數を掲げて置く、

	社會黨	議員總數
伊 國	一九〇九年	四〇名
和 蘭	一九一三年	一九名
丁 抹	一九一三年	三二名
諾 威	一九一二年	二三名
瑞 典	一九一四年	八七名
		二三〇名の内

塊太利にて社會黨が五百萬の投票を得て大成功を見たに係はらず、匈牙利にては政治結社の自由が許されなかつた爲に政黨組織は餘り振はなかつた。之に反し、濠太刺利には有力な労働

黨があり、政府自ら社會主義實行者と迄稱せられる程である故に、歐洲に於けるが如き社會黨の活動は見られない。濠太刺利と同様に多大の改良政策を行つて來た北米合衆國は、其産業の盛大な割合に社會黨の纏つた勢力が現はれて居なかつた。併し是れは必ずしも常住の現象とは見られない。社會主義は如何なる形式に於てか、此國をも支配する様になるであらう。既にサンヂカリスムの思想は、此國に渡來して彼の「世界産業労働組合」(I・W・W・C)を動かして居た。そして既にかなりの勢力を有し、又將來益々勢を増して行く様な勢を示して居る。諸國の社會主義が前述の如き形勢に達した時、歐羅巴の平和は破壊された。之を防止する爲に諸國社會黨は随分努力したのであるが及ばなかつた。そして有史以來未曾有の大戦争は勃發し、そして露國は革命し、獨逸亦之に次いだ。

第九章 サンヂカリスム

一八九〇年代に至つて、南歐を中心とせる世界の無政府黨の運動は、各國政府の嚴密なる協同禁壓法の結果として漸く沈靜し、無政府主義者は漸次に労働組合に注意する様になり、又、自ら組合内に潜入する者が多くなつた。然るに他方に於て諸國の社會黨は、獨逸マルクス主義の議會政策に摸放して、徒らに投票の多數を漁ることのみに腐心するのであつた。そして些かの改良的施設すら行ふことが出來ずに姑息の安逸を貪るこいふ傾向が起つて來た。此に於て労働組合内に、社會黨に對する反感と無政府主義者の自治的革命思想とが相合して、茲に新らしい革命運動が興隆して來た。それは佛國に於けるサンヂカリスト運動である。瑞西バースル大學教授 Robert Michels 氏は其著『政黨論』(Political Parties) 中に曰く「サンヂカリスムの教義は、プロレタリアの革命的勢力の中心を、政黨から組合に移すのが其本質である。」

◇ジュラ同盟の宣言 サンヂカリスムに就いては、本叢書中、他に別に一書が出るであろうから、此には唯だ歴史的の説明に止めて置く。歴史を過れば、サンヂカリスムの思想は國際労働協會の時に於て其端を發してゐる。國際労働協會が、マルクス派の中央集權主義と地方自治主義とに分裂して遂に滅亡したことは前段に述べたが、自治主義のバクニン一派は一八七一年十一月十二日瑞西ソングエにジュラ同盟を造つた。後のサンヂカリスト運動は遙かに其系統を此同盟から承繼してゐる言ふことが出来る。此ジュラ同盟の宣言に次の様な一節がある。「將來の社會は「國際労働協會」が體現する組織の普及でなければならぬ。されば、吾々は此團體を成るべく吾々の理想に接近せしめることに心を注がねばならぬ。自由、平等の社會が、強權的團體から生れるなど言ふことが、さうして考へられようか。そんなことは不可能である。未來の人類社會の胎兒である「國際協會」は、爾後、吾等の主義たる聯盟と自由の確實なる縮圖であり、強權と獨裁とを招致する様な總ゆる原則を排除するものであることを確信する」(Pavlovski, La Confédération générale travail, p. 8.)

更に當時バクニンは「國際協會の政策」(Politique de l'Internationale)をいふ論文中に、單なる「政治的自由」は、却て労働者を過らす幻影となることを説き、且曰く「併し問題は、労働者が果して其自由(選挙権の如き)を利用し得るか否うか、若しや其が今日までの様に、單に人を惑惑する外見的虚構に留まりはしないか、さういふ點にある」『吾等は一八四八年の革命後に、之をフランスに於て目撃したてはないか？あの革命は、政治的見地よりすれば、人の希望し得る最高極點まで達したものであつた。佛國の労働者は確かに無頓着でも無知でもなかつた。而も且つ、彼の普通選挙制の實施にも係はらず、彼等はブルジョアの爲すがまゝに任せざるを得なかつた。これは何故であらうか？即ち彼等が其政治的自由を眞實のものたらしめるに必要な物質的手段を缺いてゐたからである』國際労働協會は、労働者の完全なる經濟的解放を、即時の且直接の目的とせぬ政治煽動なきは斷じて握手しない』協會規約の規定する如く、協會は、一切の國家的又地方的の政治を排除し、各國労働者間に、労働時間の短縮と賃銀の増額とを目的とし、労働大衆の協同と抵抗資金の積立とを手段とする處の、本質的に經濟的

な煽動運動を起すであらう』(M. Bakounine, Oeuvres, v. 192-197.)

◇無政府主義者の事業 以上の如きバクニンの説は、後段に掲げる、サンヂカリスムの根本精神を爲すに云はれるアミアン綱領に光輝ある先驅をなすものである。バクニンは總破壊の宣傳者として、世界のブルジョアの恐怖の的となつた人であるが、併し其建設的の革命方針を講ずる上に於ても、卓越せる天才を有し、マルクスの如く、凡俗鈍重に墮し終らなかつた。バクニン死して五十餘年、彼の先見の明、彼の教訓の光は今や益々世界の労働者の讃仰を受けんとしてゐる。世界の労働者が、翕然としてサンヂカリスムに赴きつゝあるに見ても、彼の深遠なる思考と、鋭利な觀察眼とに何人も服せざるを得ぬであらう。そして彼のブルス(労働取引所)聯盟の主動者 Pelloutier とも C.G.T. の首腦であつた Pouget とも、皆深くバクニン及び其先驅たるブルウドンの思想の感化を受けた人々であつた。

一八八四年には一つの新しい、重要な事實が現はれた。其れは、労働組合が發達して、何れの産業中心地にも其團體的活動が盛んになつて來たので、當局 Waldeck-Rousseau は之を

禁止するのは到底不可能の事であるから、寧ろ労働組合に法律上の承認を與へた方が可いと思へたこと、是である。そして労働組合公認の法律は遂に成立した。此に於て組合は數多創立されて新らしい飛躍を起して來た。半政治的、半組合的の大會が幾度か開かれた後、一八九二年に「労働取引所聯盟」(Fédération des Bourses du Travail)の創立が決せられた。そして直ちに十四箇の Bourses が結合された。佛蘭西に於て、眞に自治的な労働組合運動が出來たのは此時からである。此労働者の地方團體たるブルスの聯盟と並行して、職業聯盟の全國的團體も發達して來た。

政治的團體の大會とブルスの大會とを同時に行ふのは此運動を何時も神經立たせる。各々互に讓歩したり氣兼ねしたりせねばならぬことを感じさせるからである。其事實が一八九四年のナントの大會に起つた。「ブルス聯盟」の大會が革命的總同盟罷工案を大多數を以て決議した時、マルキストの團體は之を非難し、茲に政治的團體と經濟的團體とは其關係を斷絶して了つた。其翌年、即ち一八九五年にリモオジに開かれた労働組合大會は、熱烈な討論の結果、其新團體

規則第一條を大多數を以て採決した。其中には次の如き文句がある。

「我聯盟を組成する聯盟員は總ゆる政黨政派の外に留まるを要す」

◇アミアン綱領 『労働總聯盟』(Confédération Générale du Travail)は實に此日から創生したのである。併し「労働總聯盟」が確定的憲法を作り、其憲法が作用を開始したのはモンペリエー大會(一九〇二年)の後、即ち一九〇三年一月からである。次で一九〇六年アミアンに開かれた大會には、サンヂカリスムの主義、綱領が明白に決議された。其重要點は次の如くである。

アミアン大會は左に掲ぐる労働總聯盟規則第二條を確認する。

「労働總聯盟は一切の政黨政派を離れて、雇主と雇人との消滅させる爲に戦はうとする
總ての労働者を團結する」

大會は此宣言を以て、資本階級が労働階級に加へた精神的及び物質的の壓迫と搾取とに對して叛逆する労働者の經濟的分野に於ける階級闘争を承認するものと見做す。

大會は此學理的主張を次の諸點に依て精確にする。

サンヂカリスムは、日々の要求的事業として、労働時間の短縮とか、賃銀の増額とか、言ふ様な即時的改良の實現によつて労働者の幸福を増進する爲に労働者の協力せんことを要求する。併し此様な作爲はサンヂカリスムの事業の一部分に過ぎない。サンヂカリスムは資本の徴收を以てするに非ざれば實現することの出来ない完全なる解放を準備する。サンヂカリスムは、總同盟罷工を以て其活動の方法と認め、今日は抵抗の團體である組合が、將來に於て、生産と分配との團體となり、社會改造の基礎となるべきものと見做す。

大會は此日常的及び未來的の二重事業が、賃銀生活の地位より生ずものであること、及び、其地位は總ての労働者をして、其意見の如何に係はらず、哲學的或は政治的思想の如何に係はらず、サンヂカといふ須要な團體に加入するの義務を負はしむること、を宣言する。

大會は又、同盟以外に於て、各個人が哲學上或は政治上の自己の意見に沿ふた運動に加

入するの絶対自由を認める。然しそれと同時に、其外部に發表する意見を組合内に注入せざらんことを各人に要求する。

此宣言によりて、アミアン綱領の大體の精神は分るであらう。此アミアン綱領は爾來サンヂカリスムの基礎精神となつて今日まで此運動を支配して來たもので、歴史上極めて重要な記録である。

此アミアン綱領に依れば、サンヂカリスムは第一に、資本家と賃銀労働者とを此世から無くすことを目的とするものである。言ひ換へれば、賃銀労働に依つてのみ有益に使用し得る資本といふものを資本家から徴收して之を社會の公用に供しやうとするのである。併し、サンヂカリスムは此最大の目的を達成する爲の準備に努力すると同時に、日々の要求的事業を持つて居る。即ち、労働時間の短縮とか、賃銀の増額とか言ふ様な即時的の改善である。其れは、前の第一目的に對すれば、第二義的の目的であるが、日々の要求として、又第一目的達成の準備的事業として極めて緊要な事項である。

サンヂカリスムは其第一目的たる社會の改造を達成する戦闘手段として總同盟罷工を行ふ。労働時間短縮、賃銀増額の如き日々の要求を貫徹する手段としては、大概同盟罷工だけを採用するのであるが、社會の根本的改造の手段としては總同盟罷工を行なはねばならぬ。總同盟罷工は、單なる同盟罷工とは異なつて、ブルジョア階級とプロレタリア階級の經濟關係の徹底的斷絶である。そしてブルジョア階級の爲にする一切の産業の拒絶、労働階級自治の確立、社會生活要素の掌握である。約言すれば、總同盟罷工は完全なる解放を労働階級に捧げるものである。(E. Pouget, La Confédération Générale du travail p. 49.)

此サンヂカリスムは、諸國に流行を始め、大戦勃發以前に於て諸國労働者間に之を摸放した組合が生起した。併し、更に之に摸放した労働運動が諸國に勃興したのみならず、此精神に感化されて獨自の方針を案出したものもある。英國に於けるギルド社會主義の如き、米國に於けるI・W・W・の如き、即ち是である。

世界大戦後、露國共產派の革命があつて以來、諸國のサンヂカリストは二派に分れ、一は共

産派となり他は從來の方針を持続する。然るに此兩派の見解を異にするアナルコ・サンヂカリストの國際的運動が漸く勃興して來た。伯林に本部を置く「國際労働協會」といふ第一インターナショナルの名稱を其僱用したもの即ち其れである。此團體は世界十四ヶ國より諸種の労働團體代表者を集め、一九二二年末より三年一月にかけて創立大會を伯林に開いた。前記バクニンの「國際政策」を其基調とするものである。從て佛國C・G・T・のアミアン綱領と、其旨意に大差はない。此國際團體が世界革命運動の原動力となるの潛勢を持つてゐるか、持ち得るか、是れ尙明瞭ではないが、大戦と動亂との治まるにつれて、漸く新しい威力となつて擡頭しつつあることは窺はれる。

第十章 I・W・W.とギルド社會主義

佛國に興つたサンヂカリスムの運動は、沈滞しきつた歐洲諸國の社會運動に新生面を開いて來た。サンヂカリスムの思想は諸國勞働界に力強い大濤を起し始めた。大戰勃發以前に於て、諸國のプロレタリア社會に革命的風雲の動いて居たのは、實にサンヂカリスムの影響を受けたものと見る事が出来る。ジョルジ・ソレルの感化を受けたと言はれるレニンの思想やソギエチスムも亦サンヂカリスムに學ぶ所が多かつた様である。唯だボルシエビスムはサンヂカリスムの精神を無視しソビエチスムを破壊したのである。然るに此サンヂカリスムは英、米兩國に入つて各特殊な運動を喚起した。米國に於けるI・W・W.と、英國に於けるギルド社會主義とは、即ち是れてある。

◇I・W・W.の起原 米國に於けるI・W・W. (Industrial workers of the world)

は、其由來する處甚だ遠く、彼の一時有名であつた Knight of labour (私は之を勞働義團と譯して居る)より源を發すると言はれる。

併しながら、I・W・W.と稱する新團體の新運動が起つたのは、さう古いことでは無く、實に一九〇五年の事である。Brissenden の記する處によれば、『今日、I・W・W.として一般に知られて居る世界産業的勞働者は、一九〇五年六月、シカゴに開かれたる「産業組合大會」(Industrial Congress)に於て組織された。併し此最初の創立會議の開催されるに至つた發端は、一九〇四年の末頃に同市に於て開かれた私の相談會にある。此相談會に與つた人は、六人の有名な社會主義者、勞働運動者であつた。即ち「ブリュエリ勞働者同盟」の機關紙「ブラウア時報」(Brauer Zeitung) 記者 William E. Traumann、鐵道従業員同胞會 (United Brotherhood of Railway Employees) 會長 George Estes、同會主事會計 W. L. Hall、英國機關士協會 (Amalgamated Society of Engineers of Great Britain) 米國代表者 Isaac Cowen、亞米利加勞働同盟 (American labor union) 主事會計 Clarence Smith 同々盟機關紙「勞働者の

聲(Voice of Labour) 記者 Thomas J. Hagerty 等であつた。此會合には出席しなかつたが併し之に大なる注意を拂ひ、産婆役に力を注いだ人は此外にも少くなかつた。其中には彼の Eugene V. Debs. (著者曰、デブスは曾て社會黨の大統領候補者となり、大戦中は其非戰運動の爲に投獄せられた人である) 氏や、鐵工組合の主事 Charles O. Sherman 氏は其組織に重大なる役目を荷つた。是等の人々は何れも同様に、アメリカの労働團體が、男女労働者の眞實の利益を成就すべく無力になつた、その信念に動かされた。そして、當時労働組合運動上に起つた多くの出來事に依て、益々此感を深くせしめられた。無力であつたものは、單に保守的な「貴族的」な組合のみでは無かつた。米國労働組合 (American Labor Union) 及び西部礦夫聯盟 (Western Federation of Miners) 及び、又は社會主義労働同盟 (Socialist Trade and Labor Alliance) をいふ様な産業的急進的な團體すらも、一層高い全體的雇主團體と談判しやうといふ準備は出來て居なかつた——況んや闘ふといふ準備などは一層無かつた。かくて一九〇五年一月に祕密の準備會が開かれた。其會合の招待狀中に次のやうな文句がある。

ある。

「若し労働階級にして、政治的産業的兩方面に於て正しく組織立てられるならば、彼等は、此國の産業を……所有し且つ能く經營するの能力があるといふ吾々の信念を固くして、

「社會主義者の投票を通じての労働階級の政治的表現には、社會主義社會の構成要素として建設された労働團體……による經濟的表現が伴はねばならぬことを信じて、

「吾等は諸君を、一九〇五年一月二日、月曜日、シカゴに招待し、過去及び現在の如何なる労働團體にも關係せず……正しき革命的原則に基いて、亞米利加労働民を結合するの手段方法を討議すべく、祕密會議を開催したいと思ふ。云々」

かくて、此會議に參與したものは、九種の團體を代表せる三十三人の代議員であつた。其中には Charles H. Moyer, W. D. Haywood, J. M. O'Neill, A. M. Simons, F. Bohn, T. J. Hagerty, C. O. Sherman, Mother Mary Jones 等の諸名士が居た。

◆ I. W. W. の變遷 米國 I. W. W. はかくて有力なる團結運動を開始するものとなり

たが、併し未だ佛國のサンヂカリスト運動と直接の關係は持つて居なかつた。I・W・W・がサンヂカリスムと直接交渉を開いたのは一九〇八年以來のことである。且其關係も一般に豫想される程、密接確實であつたことは曾て無かつた。若し國産といふものがあるをすれば、I・W・W・組織は實に亞米利加の國産である。唯だ或る戰闘方法は、I・W・W・の人々が、ブジェヤ、ソレルヤ、ラガルデルヤ、その他佛國サンヂカリスト等の著書を読んだ結果之を採用した。此様な思想の傳染は又個人的接觸に依て擴められた。一九〇八年、ヘイウッドは歐羅巴に行つてC・G・Tの領袖等と會した。一九一〇年、彼は再び渡歐して、コオベンハアゲンに開かれた國際勞働及社會主義大會に出席した。名目上、彼は米國社會黨を代表したのであるが、併し彼は又、非公式にI・W・W・に依つて發達したる米國サンヂカリスムの爲に働いた。(Brissenden, History of the I.W.W. p. 274.)

佛國サンヂカリスムは、かくてI・W・W・にある特殊なストライキ戦法を注入し、『少數闘士』といふ總同盟罷工上の哲學思想を定立した。米國のI・W・W・と佛國のサンヂカリスム

とは直接の關係が無いにしても、併し、I・W・W・の運動が漸く有力になつて世の注目を集める様になつたのは全くサンヂカリスムの思想を受容した結果である。一九〇八年「政治行動を否定し『直接行動』を勧告して社會黨と敵對する様になつてからのことである。そして社會黨とI・W・W・との最後の連鎖が破棄されたのは、一九一三年二月にヘイウッドが社會黨の中央執行委員から引戻された時にある。(Brissenden, History, P. 282.)

以上分裂の變遷を尙ほ少しく詳細に述べて見やう。一九〇六年には DeLeon-St. John-Frautman 等の一派がI・W・W・を支配したが、二年足らずして、それが二派に分裂し、更に分裂の歴史を續けた。

デレオン等の社會主義勞働黨は傳統的マルクシズムを固守し、政治行動を信じ、他のヘイウッド一派は此保守的社會主義を去つて、哲學的無政府主義を執つて居る。社會主義的I・W・W・はデトロアに本部を置き、無政府的I・W・W・はシカゴに本部を置く。ブリセンデンの記する所によれば、以上の如き分裂は全くデレオンの個人的性癖に依つて醸されたものらしい

が、併し其思想上の相異も決して無視することは出来ない。デレオンがボルシェビキとなれるは右の傾向よりして當然の結果と見ることが出来やう。又、無政府系であつた Haywood も一九一八年に二十年の禁錮、一萬弗の罰金を言渡され、露國に脱走したが、爾來 I・W・W・を共産化しやうと努力する様になつた。

一九二二年、伯林に於てアナルコ・サンヂカリストの國際團體が組織せられ、I・W・W・にも加盟を勧誘して來たが、即答を與へなかつた。そして一度は謝絶の返事を與へたが、伯林では尙ほ希望を屬して居る。

かくて一九二四年に於て共産派の分裂あり、今日（一九二六年）尙ほ共産黨系とアナキスト系との猛烈なる鬭争があるが、シカゴ以西の諸地方に於ては非政治的、サンヂカリスト的思想が依然として此團體を支配して居る。

◇ギルド社會主義 以上を以て I・W・W・に關する略記を終り、是より英國に發達せるギ

ルド社會主義に就て、概見を記すことにする。ギルド社會主義の一主唱者 G. D. H. Cole は「要するにギルド國家の思想は佛國に於けるサンヂカリスムと同様の本質を我が國に對しては持つのである。ギルド國家の理論は、地方的サンヂカリスムを國家的労働組合の語を以て改録したものである」と言つて居る。即ちギルド社會主義はサンヂカリスムの英國化したもの、といふことが出来やう。右コオルの語は其著「産業自治論」に附せられた「佛國サンヂカリスム發生記」の結論であるが、彼は此論文の冒頭に論じて曰く、英國に於けるサンヂカリスムの批評は、或は故意に此教義を曲解したもの、或は曲解したる材料や不完全な小冊子に依るものであつて、何れも明かに不當なる方法と言はねばならぬ。「サンヂカリスムに關する英國人の批評は、Kamsay Macdonald から Graham Wallas に至るまで、誰もが、何れかの誤謬に陥つて了つた。唯だ「新時代」(The New Ages)のみは例外で、久しい以前に、餘に簡單ではあつたが、併し光彩ある論文を以て、サンヂカリスト思想の眞意義と眞價值とを極めて明白に紹介した。云々。コオルが如何に熱心にサンヂカリスムを翫味しやうと欲したか、判るであらう。

(C. D. H. Cole. Self-Government in Industry. p. 321)

然らば佛國サンヂカリスムの教化を受けたるギルド・ソシヤリストは、英國に於ける社會運動を顧みて如何の感を抱いたか。

第一にギルド・ソシヤリストは、千九百年以來労働者運動が漸く力を政治運動に集中し來たつた事に對して不満である。彼等の見る所に従へば、凡そ經濟上の權力は政治上の權力に先立つものであるから、労働者が經濟上に於て解放せられぬ限りその政治運動は無効である。労働者が議會政策に力を注ぐのは事の本末を顛倒したものであると云ふのである。

第二に労働者は嘗に其運動の手段を謬つた許りてなく、その運動の目標をも謬つて居ると云ふ。その意味は英吉利労働者運動が國家社會主義の方向を指して進みつゝある事を非とするのである。

英吉利社會主義の主潮は近年に至る迄フェビヤン協會の指導を受けて來た。而してフェビヤン協會の主張するところは何かと云へば、産業の國有市有(社會的に作られたる價値の社會有)

と、公權に依る國民的生活最少限度 (Legal National Minimum) の保障とである。ギルド・ソシヤリストは何故に之に對して不満を感じるか。彼等の見る所を以てすれば、フェビヤン社會主義は物質的安樂のみを主眼として、人格の尊貴、人間の自由を無視して居ると云ふのである。即ち Bertrand Russell がその「社會改造の原理」の中に説いて社會主義は分配の正義のみを顧みて人間の自由を顧みる事を忘れたと謂ひ(私有財産に就ての章) Cole が從來の社會主義者は人の貧窮を見てその隷屬を見なかつたと記して居るのは皆な此主旨に出たものである。Cole 曰く「予は問はんぞ欲す、吾々の除かざる可からざる近代社會の根本的弊害は何ぞやと。此問に對しては二つの答があり得る。而して多くの篤志の人は間違つた方の答をなすてあらう。即ち彼等は「隷屬」と答へなくてはならぬのに「貧窮」と答へてあらう。日々慘憺たる貧富の對照を目前に見て、而して公私の慈善の之を如何ともする力なき事を痛切に感じて居るので、彼等は躊躇なく「貧窮の撲滅」を主張するだらう。此點に於ては社會主義者は凡て彼等と同意見である。併しそれにも拘らず此答へは間違つて居る。貧窮は徴候に過ぎぬ。病患

は隷屬である。貧富兩極の對立は必ず放肆と窮屈との對立に伴ひ來る。多數の人間は貧乏だから奴隸の状態にあるのではなくて、奴隸の状態にあるから貧乏なのである。然るを社會主義者はその目を貧者の物質上の窮苦に注ぎ、その根元の奴隸の精神的卑屈に存する事を了解しないのである』云々。(Self Government in Industry pp. 110-111)

◆消費者の利益を如何にして保護すべきかといふ問題も、ギルド・社會主義の等閑に附せぬ處である。生産者と消費者との立場は正反對なものではないが、別々に考慮する必要がある。消費を二分類して個人的消費と集合的消費とする。個人的消費とは主として個人の趣味及意見並に代價に關する事で、例へば或人は衣類の黒色を好み、或人は白色を愛するが如きもので、要するに之れは個人的な且つ家庭的の消費に屬するものである。第二の消費とは個人が其れを使用するに否と、又如何なる分量を要求するかは其の任意なれども、生産物其自身は無差別なもので、且つ多量に供給せらるゝものである。此種に入るものは汽車、電氣、電車等の如きもので、獨占的の支配を必要とするものである。尤も此の兩種の消費の何れにも屬せざる如き

境界的のものもあれど、大體に於て以上の二種の消費分類をなす事が出来る。そしてギルド社會主義の主張に依れば、消費の個人的家庭的のものは産業組合を以てし、集合的のものは集合利インテリテイスクウンシル用評議會を以て當てんとするにある。即ち消費者の組織は二元的で、産業組合と集合利評議會なる二機關を以てし、之れを各都市、各農村に設け、此等のものが、常にギルドの代表者と協議しつゝ進捗するに於て、消費者の保證は確立せらるべしと信ずる。(Cole, Guild socialism re-stated p.78-95)

次は自治體の構成と仕事である。種々の産業的並に非經濟的特徴を以て組織せられたる職業的團體を配列、按配する機關としての地方自治體を如何にすべきか、此の地方自治體は小範圍に亘れる諸團體と、大範圍に亘れる諸團體を配列總合する役目をも致すので、其の重大なる任務は大體五つある。第一には其地方の資源を諸種の團體に割當てる事で、換言すれば財政的職掌を持つて居る。第二には異なる型式の職業的團體間に起る種々の爭議の裁定所である事。第三には諸種の職業的團體の限界的事項を決定し、第四には都市全體に關する事項に就て提議

をする事。及第五には警察權の如き強制的機關を司る等の事である。そして此等の自治體の總合せられたるものが、此等の利益を代表せる國家的自治體である』(Cole, Guild socialism p. 138-139)

然らば其實現の順序は如何。ギルド社會主義の社會組織を成就する方法は進化的方法に依るべきか、將又革命的方法に訴うべきか。蓋し進化と云ひ、革命と稱するも、何れも其の解釋は難多のものであつて同一ではない。例へば進化的方法は屢々立憲的議會行動と解せられて居るが、併し、もつと社會的、經濟的並に市政的にも解釋が出来るのである。

そこで吾人は先づ第一に政治的議會政策的行動は社會變革の要素として効果があるや否やを検討し、第二に直接行動の價値を研究し、更に其他の方法に就て考究して見よう。勿論ギルド社會主義の探る策略及方策に關する事柄を、椅子に座しながら、科學的の精確さを以て指摘する事は出来ない。何んとなれば、かゝる方策か手段の如きは相手の探るヤリ口の如何に依りて決定せらるゝもので、必ずしも合理的の基礎に依るべきものでないからである。

社會變革が、政治的行動に依りては到底成功し得ない事は明白である。何んとなれば現代の資本主義的社會組織の下に於ては、全労働者階級が共同して投票する機會はないのみならず、よしや其れが出来得るとしても、之に依りては社會の根本的構成の變化は望まれない。加ふるに斯の様な手段に依つて變革が出来得たとしても、再び支配者階級の反革新運動が起りうる機會が頗る夥多である。何となれば彼等は經濟的勢力の所有者であるから、労働者階級が政治的手段に依りて徹底的の社會革新を成就せざる内に、再び勢力を挽回する恐れがある。蓋し政治的のものであるからである。そして現代の資本主義的制度的下に於ては、經濟的勢力は政治的勢力の前提である。故に資本主義を打破せんと欲せば、先づ經濟的勢力を減殺する必要がある。尤も過去に於ける労働者の團結的機關は、此の經濟的勢力を抑制するには若干の効果はあつたが、まだ、甚しく微々たるものであつた。故に完全なる、社會的變革には、更に富裕者階級から其の富及經濟的勢力を掠取する必要がある。換言すれば革新的要素は、如何なる社會的變革の徹底的政策にも避くべからざるものである。併しながら進化的政策が、經濟的並びに

産業的方面に發達すれば、單に革命的行動の成功の機會を甚大ならしむるのみならず、必要な革命的行動を最少限度に減少する事が出来るものである。

第十一章 大戦と其結果

千九百十四年八月、世界未曾有の大戦争が勃發して國際社會主義は遂に失敗に終つたと稱せられた。ブルッセル市に於ける各國社會黨の非戦大示威運動も其效を奏せず、各國一致の總同盟罷工を斷行して戦争を不可能ならしめようとする主張した佛國のジョレスの意見は用ゐられないで、ジョレスは却つて自國の青年愛國家の爲に射殺された。そして瞬く間に、獨軍は白耳義を踏破して佛國境に進入し、月餘にしてマルヌ一體の平野を占領し、獨軍の銃弾は巴里市街に達する程になつた。双方諸國の社會黨は各々自國の交戦政府を助けることゝなつた。國際主義の如きは形跡も無い程の有様に蹂躪されて了つた。

戦争は從來の國際社會主義を一時破壊して了つたが、併し是と同時に世界未曾有の社會主義的大革命を齎らした。其の革命の火は先づ露國に爆發した。次で獨逸に及び、奧太利に及び、

匈牙利に及んだ。そしてツアーを始め、カイザー其他二十有餘の古い王室が一齊に倒されて了つた。私は茲に此ドラマチックの歴史を略述して置くことが、本書の性質上必要の事業であると思ふ。

◇ロシアのドラマ 大戦勃發以來、露國權力階級の腐敗墮落の實情は遺憾なく曝露されて、加ふるに内外兩面に對する政策は悉く失敗ばかりであつた。更に露國の大不幸は、從來露國産業の實際的支配者であつた獨逸人が悉く祖國に歸つた爲に、露國の商工業や鐵道運輸等の諸機關が殆んど其用を爲さぬといふ有様を呈し、從て其經濟組織が全然崩潰して了つたことである。國民全體は之が爲に經濟的壓迫を蒙ること甚だしく、不平の聲は社會の各方面に高まつた。適々怪僧ラスプチンの事件は官廷の紊亂を國民の前に曝露し、顯官にして敵國獨逸と内通する者あり、國會の抗義となり、次て其解散となり、千九百十七年初頭、露國陸軍は僅かに二分の食糧を餘すのみと稱せられ、物價は際限なく騰貴し、人心恟々、下層社會の不平は頂點に達した。二月二十七日、ペテログラードには労働者三十萬人のストライキが行はれた。五月始

には更に大なる示威運動と騒亂とが諸方に起り、同月三日遂にペテログラードに戒嚴令が布かれるに至つた。四日の後、織物業者其他の工場に大ストライキが起り、我にペンを與へよとか、速かに和を講ぜよとか叫んで、群衆は所在に相呼應し、露國首都は擾亂の巷化した。政府は之を鎮壓する爲に、コサツク兵を派遣した所、彼等は却つて人民に與して政府に反對すると云ふ態度を示し其司令官を殺して革命黨と握手するに至つた。

此好機を逸すべからずと考へたのは社會主義者であつた。彼等は労働者の大團結を組織し、社會民主黨のチチエーツを會長に、労働黨のケレンスキーを副會長に選舉した。そして即夜大會を開催して露國に民主政體を樹立せん事を宣言した。此時、國會は尙帝政の維持さるべきを信じたが労働黨は猛烈に之に反對した。此に於て千九百十七年三月十五日、進歩黨のミリューコフは縣會及び勞兵團の代表者に對して、帝政を廢し、共和政體を樹立し各派の代表に依て假政府を組織せんことを宣明した。

假政府は直ちに組織された。併し、社會黨員で此内閣に入つたものはケレンスキー一人であ

つた。新政府は、共和政體を樹立し、政治犯人に大赦を施し、集會出版の自由を認め、普通選挙を實行したが、土地問題や、一般産業組織には手を觸れなかつた。其爲に假政府に失望するものが尠くなかつた。此時工場労働者と兵卒の代表者から成れる團體、即ちソギエットの勢力が徐々に高まつて、假政府に壓迫を加へる様になつた。最初の間は溫和な社會主義者が牛耳を執つて居たのであるが、日を逐うて過激の性質を帯ぶるに至つた。殊に千九百十七年四月下旬にニコライ・レニンが瑞西から歸つて來て即時講話を主張するや、忽ち多くの賛成者を得た。社會主義者の平和運動に壓せられて、ミリュエーフは遂に辭職した。五月十五日レオ・トロツキが米國から歸來するに及んで過激派は益々勢力を得た。

◇十一月革命 七月二十日首相ルゾフは遂に辭職し、ケレンスキーが之に代つた。そこで労働者、兵士、農民の全露會議はケ氏内閣に全權を委任することに決議したが、ボルシエギキは之に反對した。ケ氏は強硬な抑壓手段を取り、敵國內通の嫌でトロツキイやコロンタイ等を投獄し、レニンは逃走した。然るに過激思想は益々瀾漫して來て、十一月四日「ベトログラ

ド・ソギエットの日」の宣言を發した。無數の男女は「ケレンスキー政府を倒せ、戦争を中止せよ、ソギエットに全權を與へよ」と記した小旗を樹て、市中を練り歩いた。ケ氏政府の信頼せるセミヨノフスキー聯隊迄大多數を以てボルシエギキ援助を決議した。十一月七日假政府の本據たる冬宮は敵の包圍する所となつた。同日午後一時、トロツキイはケ氏政府の倒壊を宣言し、一切の政權は、全露會議の正式決議まで、軍隊革命委員の手に委任さるべき旨を告示した。斯くてケ氏は逃亡し、他の閣員は捕へられ、十一月の革命は成功して、愈過激派の天下となつた。彼が政權を把るや否や、直ちに死刑を廢し、軍隊委員の改選を命じ、戦争を中止し、土地を分配せんことを宣言した。當時レニンは既にフィンランドから歸つて居たので、是等の畫策が彼の方寸よりでたことは言ふまでもない。レニンの本名はウラヂミル・ウリヤノフと稱す。彼は一八七〇年四月一日貴族の家に生れた。

ボルシエギズムとは何であるか。其言語の意味は「多數」といふことであるが、其主張から言へば、社會民主主義でもなく、無政府主義でもない。ボルシエギキは主張した。革命は専ら

労働階級に依つて行はれねばならぬ。他階級の参加（レニン其他は労働階級ではないが）は、軍に拒絶すべきのみならず、民主主義を採つて革命を危地に陥れてはならぬ。そして彼等は武力を以て憲法會議を解散した。其時の全露會議には七百七十五名の社會主義者の内、僅に百五名のボルシエギキしかなく、其他に無所屬が三百十五名あつたのである。然るに彼等は、多數は無智であるから革命は階級的意識の強烈な少數によつて遂行されねばならぬといふ口實で民主主義を排し、全露會議を破壊した。此行動は痛く世界の非難を受け、諸國の社會黨の同情を失ふ原因となつた。併し其の時に傳へられるボルシエギキの暴行、殘虐、殺戮等のことは大部分は新聞の誇張的報道であると言はれる。

ソギエツト組織は民主主義の粗笨な、幼稚な方法に過ぎず、之を他の文明國が學んでも利益する所は何もない、と言はれる（カアカップ）。けれども其組織が寧ろサンヂカリスム系統の産業自治制を基調として居る點は特色といふことが出来やう。然るに此ソギエツト組織はボルシエギキの獨裁制によつて其精神を壓殺されて了つたのである。此ボルシエギキに依て占領され

たるソギエツト政府は先づ第一に農民の反抗に遭遇して共産的政策を棄てざるを得ざるに至つた。それから一九二一年にN・E・P即ち新經濟政策を宣し、國家資本主義を試みたのであるが、是れも全然失敗に終り「産業組織の方面に於ける進化も國家資本主義の最後の痕跡を創殺し、絶對的私人發意に基く産業組織に歸つて了つた」(S. Zagorsky, L'A Renaissance du Capitalisme dans la Russie des soviets.)

◇獨逸の革命 露國の革命が交戦諸國の思潮に大影響を與へたことは言ふまでも無い。殊に隣接せる獨逸には革命の思潮が滔々として漲つて來た。元來獨逸の社會黨が厭々ながらも政府の軍事費に協賛を與へたのは佛の同盟たる露國が背後に控へて居たからである。然るに今や其露國は革命して共産制を樹立するに至つた。獨逸社會黨員も其從來の態度を一變せねばならぬ時機に到達した。

千九百十七年、首相ベートマン・ホルツエツヒは内政外交、諸方面に難事の群がつて來るの

を見て其職に堪へず、七月十四日、遂に辭職してミハイリスが之に代つた。千九百十八年一月末、埃太利に一大同盟罷工が起り、其餘波は獨逸に及んで大に民心を動かした。社會黨機關紙「フオルヴェルツ」は之に聲援を與へた爲に三日間の發行停止を命ぜられた。一週間にしてストライキは遂に獨逸にも瀾漫し社會黨は盛んに活動した。議會内に平和を求むる聲が益々高く聞かれ、皇帝の退位を要求するの叫びさへ聞える様になつた。

政府は民衆の懐柔策として Scheidemann や其他の社會黨員を入閣させることにした。社會黨中のスバルタクス一派は其入閣を攻撃した。併し眞の革命の端緒は、千九百十八年十一月五日（ポルシエギキ革命から約一年後）キールに於て海軍水兵の叛亂した時にある。バルチック艦隊の水兵等は、獨逸海軍が英國海軍を襲撃するといふのを聞いて、其命令に服従することを拒み、そして各戰艦には赤旗の翻へるのを見た。

革命の機運が漸く熟したのを見て、多數社會黨も亦其態度を一變し、皇帝に退位を逼るに至つた。十一月八日金曜日朝、伯林の各工場の労働者は一齊に同盟罷工した。同時に兩派の社

會主義者は全國に激して總同盟罷工を爲さんことを告げた。かくて流血の慘をも見ることもなく、革命は數時間にして成就された。土曜日の午後三時、十數臺の自動車は伯林中を駆け廻りて、革命の成就、皇帝の退位、社會黨の首領 Ebert の首相就任、等を宣べ傳へた。十一月十二日に至り、社會主義聯合内閣は成立した。多數派よりはエーベルト、シャイデマン、Landberg 等が入閣し、少數派よりは Hasse, Dittman, Bart, 等が入閣した。併しながら政府の産業社會化の方針は些かも歩を進めない。そして同盟罷工に對する軍隊の横暴は漸く増長して來た。獨立社會黨の領袖連は内閣より退くに至つた。

千九百十九年一月、Karl Liebknecht や Rosa Luxemburg や Franz Mehring 等を中堅とするスバルタクス團體の叛亂が起つた。諸地方に於て一時は支配權まで掌握し、ババリアではソギエツト共和制を宣言するまでに至つたが、多數國民は未だ之に左袒するに至らず、遂に政府軍の爲に鎮壓され、リーブクネヒトやローザ・ルクセムブルグは不明な襲撃を受けて殺害された。スバルタクスはカール・リーブクネヒトの雅號から取つた名である。リーブクネヒ

トは自分の論文にスベルタクスと署名することが多かつた。是れは古代羅馬で叛逆を企てた奴隸統率者の名前なのである。

獨立社會黨の退出した後、内閣は多數社會黨と民主黨と宗門黨との聯合で組織されたが、媾和條件の問題でシャイデマンは辭職し、前の勞働大理 Bauer が内閣を組織することゝなつた。そして此新政府は甚だ軍國主義的であるとして前のシャイデマンまで之を攻撃する程になつた。

此頃から獨立社會黨は漸く勢力を獲得して來た。併し此黨派にも必ずしも強固な思想的一致が存在する譯では無い。此黨派の中には、少くとも三種の異つた傾向が派を立て、居る。第一は Kautsky や Bernstein や Hilferding や Strabel 等を中必とする一派で、プロレタリアの獨裁制を酷烈に攻撃しミリタリズムを爲に民主主義の必要なことを力説する。此團體は又ソギエツト制度に反對し露國ボルシエギキを非難する。中央派は故ハーゼ等を中堅としたもので、必ずしもプロレタリアの獨裁に反對せぬが、主として議會運動に賛成し、又勞働會議と農民會議とに甚深の信頼を持つて居る。次に同黨の極左派は Eichhorn や Ledebour や Ri-

chard Mueller や Adolph Hoffmann や其他を首腦とした革命主義派である。此派は議會政策を是認するが、改良主義に反對し、ソギエツト・ロシヤに結合せんことを要求する。故に此一派は、共產黨を組織したスベルタクス一派と極めて些細の相違點を有するに過ぎない。獨立社會黨員は漸く其數を増し、一九一九年には三十萬から七十萬に達し、伯林市會議員の選舉には多數社會黨が二十二萬九千八百二十七票を得たに對して獨立社會黨は二十三萬四千六十七票を獲得した。又、千九百十九年十二月の同黨の會議は、第二インタナショナルから分離して、第三インタナショナルに結ぶべく商議せんことを決した。

◇ 塊木利革命 獨逸と時を同じうして、塊木利にも革命が勃發した。千九百十八年十月三十日朝、勞働者、學生の聯合示威運動は維納の國會議事堂前に押寄せた。正午にはハプスブルグ王家の廢せられたことが報道された。午後には國民會議が開かれ、假政府が組織され、社會黨の老首領 Victor Adler が宰相となつた。革命の後、數週にしてアドラーは逝去して、Kautsky Renner が次の宰相となり、更に急進的な Otto Bauer は矢張アドラーが掌つた外務の職を繼

いだ。埃太利にも急進的社會黨が存在するが、産業状態の餘りに疲弊せる結果として、労働者は自ら奮起する勇氣も無い有様である。此急進派は Friedrich Adler や Teresa Schlessin Ger-Eckstein や、共産主義派によつて導かれ、漸次に勢力を増加して居る。

匈牙利も亦埃太利と同時に革命した。そして、匈牙利共和國を建設した。其新政府を造つたものは、Károlyi であつた。併し此間に共産主義の思想は瀰漫して來た。一九一九年三月末、突如として社會民主黨と共産黨との聯合政府が組織された。社會黨の Alexander Garbai は政府の首相となり、共産主義者にして露國ソビエットの世界的宣傳者として知られた Bela Károlyi は外務委員となつた。此ソビエツト政府は四ヶ月半の生存を續けたが、反對革命を援助すべく侵入して來た羅馬尼軍の爲に蹂躪されて了つた。一九一九年九月社會民主黨は會議を開て、第三インターナショナルを排けて第二の國際社會黨本部に結ばんとの決議を行つた。

幾百萬の生靈を或は殺戮し、或は傷けた世界大戰は、或る意味に於ては文明の破壊であつた

らう。今なほ歐洲の天地が悲雨慘風に惱んで居ることも事實である。乍併、世界の社會運動の上から見れば此五年間の動亂は決して無意義には過ぎ去らなかつた。前述の如く露國のツァーリズムが瓦解して、ソビエツト政府が成立し、大戰の張本と見做される獨逸のカイザーも退去して此處に立派に共和政治が開始された。獨逸内の二十餘國の王公も悉く其位を退いた。埃太利も帝室が倒されて共和國になつた。そして、世界の人類は其拂つた犠牲に相當した多くの深い教訓を學んで居る。

大戦争に依て世界各國の爲政者が最も深刻に感じたことは労働者の威力の偉大なことであつた。労働者の團結の成立して居る何れの國にても、労働者の協力無しには何事も成し得ぬことが明白に知られた。労働者の方では、今日まで空想の如くに唯だ叫んで主張して居た自分達の威力を始めて實際に試験して、今更らの如く其偉大なのに目覺めた。マキシム・ゴルキイは其小著「レニンと露西亞の農民」中に「今日まで田舎は都會の御蔭で立つて居るとばかり考へて居たが、今度は都會が立ち行くのは田舎のお蔭だといふことが能く解つた」と言つて居る。

露國に於ける農民の覺醒は偉大なものである。そして何れの國に於ても、各種の團結せる農民及勞働者の數は、戦前に比して二倍或は三倍に増加した。今後西歐何れの國に於ても、何かの動搖にて大改革が行はれるとすれば、其時其局に當つて其事業に任ずる者は農民及勞働者以外に無いといふことが明白になつた。

◇佛國社會黨の分裂 千九百十九年秋の總選舉に於て、佛國社會黨が得たる國會議席が百一名から五十五に減じたのを見て直ちに其勢力が減少したと言ふのは皮相の見である。社會黨が敗れたのは、小選舉區が大選舉區制に變つたことや、クレマンソーが國民の反動的精神を煽つて社會黨に對抗したことや、戦後の常例として起つた國民の愛國主義（ショレニスム）が敵黨の利用する處なつたこと等が、總選舉に影響して、此様な結果を齎したのである。カアル・マルクスの孫であるロンゲや、前の「リュマニテ紙」主幹たるルノオデル等が落選したのは如何にも氣の毒であるが、併し其獲得した投票數から言へば千九百十四年の當時に比すれば數十萬の増加を示し、百七十萬票といふ多數を得て居る。若し夫れ大戰前に六十萬人の加盟員を有した革命的サ

ンデカリストが戦後千九百十九年には百五十萬人といふ多數に上り、次て二百萬に達したと言はれるのは是れ明かに勞働階級の覺醒と其勢力の増大を示すものでは無いか。

千九百二十年十二月、佛國合同社會黨はツールに大會を開いたが、モスコウより歸つた（カール・チン）（リュマニテ新聞主幹）と Frossard（同黨幹事）との第三インタナショナル加盟論が勢力を得て、大會は其主張を採て可決した。そしてゲート、サンバ、ロンゲ、ルノオデル、トマ等知名の諸氏は皆之と分離して別に一團體を成すに至つた。此大會に於て、議論の燒點となり、分裂の原因となつたのは、モスコウの國際共產黨第二回大會にて成立したる所謂二十一箇條と同執行委員の佛國プロレタリアに宛てたメサアジミであつた。二十一箇條中には次の如き條項がある。

一、……印刷物や公集會は、ブルジョア階級及び總ゆる種類の改良主義者をシステイマチックに排斥せねばならぬ。

二、改良主義者や、中央主義者は總ゆる責任の地位から離脱せしめねばならぬ。

十、全共産黨はアムステルダムの國際團體と戦ひ、赤色國際労働組合の創立に協力するを要す。

右の内、改良主義者といふのは、佛國に於ては、Varenne, Paul Boncour, Renaudel, Albert Thomas 等であり、獨逸に於ては Scheidemann, Ebert, Noske 等社會民主黨の多數派、伊太利に於ては、Tyèves, Turati, Prampolini 等を頭目とする一團である。又中央派と言ふのは佛の Longuet 獨の Crispin, Ledebour, Rosenfeld, Hilferding 等獨立黨一派、伊の Serrati 等、是である。次に右第十項のアムステルダムに屬する労働團體には、佛國の C.G. F. 伊の C.G.T. 英の労働組合、白國のサンヂカ、獨の組合中央部等がある。

右のメサアジヤ二十一ヶ條に係はらず尙ほモスコウ派加盟が多數を以て可決せられたのであるが、此時同大會に到達した國際共産黨執行委員の電報（ロンゲ一派を改良派と共に排斥する）は右に列記した少數派の人々をして大會を棄て去らしめた。そして別に社會黨(S.F.I.O.)

を組織し、多數派は國際共産黨佛國支部(S.F.I.C.)を組織した。此に於て、一九〇五年以來の合同社會黨は此二派と、一九一九年分離した佛國社會黨(Parti socialiste français)との三派に分裂した。然るに一九二二年の末には共産黨内に分裂を生じた。共産黨を去つた二派中の一派は Barabant, Verfeuil, Oscar Bloch, Poncet 等「聯合的社會主義同盟」(L'union élerative socialiste)を創立し、他の一派は Frossard, Picch, V. Mecic, Torres, Ferdinand Faure, E. Lafont, 等て合同共産黨を創立した。併し此二派は其翌年に至つて合同して共産社會黨(Parti Socialiste Communiste)を改稱した。更に一九二四年に至り、共産黨は其有力なる黨の先驅者たりし Boris Souvarine, Monatte, Rosmer を除名した。是に就ては Dunois, Loriot, Koppoport 等の猛烈な非難があつた。(一九二五年一月の大會に於て) Cachin, Suzanne Girault 夫人, Treint, Monmousseau, Sémard 等の人々は共産黨の幹部を成す。

社會黨と共産黨の分裂はサンヂカリストの運動にも影響し、一九二一年に、C.G.T.とC.C.